令和2年度 神戸大学附属図書館年次報告

令和3年 9月

編集:神戸大学附属図書館評価委員会

附属図書館ホームページ掲載

https://lib.kobe-u.ac.jp/about/facts/reports/

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応に追われました。今も感染防止に留意 しつつ対応を継続しています。電子ジャーナルやデータベースは以前からオンラインで提 供してきましたが、日本語の図書や雑誌はオンライン化が進んでいませんので、郵送貸出や 電子書籍の整備などに取り組んだものの図書館にとっては大きな影響がありました。

三密の回避、在宅勤務、ウェブ会議システムの急速な普及は、これまでの仕事のやり方を 大幅に見直す契機となりました。DX(デジタルトランスフォーメーション)への対応は不 可避であり、効果的なデジタル活用のあり方を模索していくことが求められています。

7月の豪雨で社会科学系図書館の書庫に浸水被害がありました。非常ドア外部の排水溝の水があふれたことが原因でした。資料への被害はそれほどではありませんでしたが、想定されていなかった経路での浸水でしたので、「想定外」をなくしていくことの難しさをあらためて考えさせられるものでした。また、貴重書庫の空調機が故障したため修理をおこないました。耐用年数を超えて使用している設備機器の更新が大きな課題となっています。

保健科学図書室の改修がおこなわれ、令和3年4月12日にリニューアルオープンしました。1階はラーニングコモンズです。隣接する食堂まで見渡せる広々とした空間となりました。一方で2階は静かに集中できるスペースとしました。今後の活用が期待されます。

令和3年度予算で自然科学系図書館の増築改修が認められました。設備が老朽化し機能 改善の必要性が高まっていた中での予算措置であり、大変喜ばしいことです。懸案であった アクティブラーニングスペースの整備、書庫の増築をおこなう予定です。多様な学修形態に 応じたスペースとして活用できるよう計画しています。書庫は全学の共同利用書庫として 活用することで、各館で進んでいる書庫狭隘化の緩和が期待されます。令和4年1月から12 月にかけて工事をおこない、令和5年度当初に再開館する予定です。

神戸大学出版会から4冊の図書を出版しました。本学の教育研究成果を社会に広く普及させていくため、引き続き学術成果の情報発信を進めています。

第3期中期目標期間の最終年度を迎えました。今年度は第3期の目標達成に向けて力を 尽くすとともに、第4期に向けた計画を策定すべき重要な年でもあります。また、認証評価 も予定されています。本報告書は令和2年度に附属図書館が実施した様々な事業を整理し たものであり、いわば各事業の実績に関する自己評価に相当するものです。本報告書を通し て、多くの方々に附属図書館の活動をご理解いただくとともに、これからの附属図書館運営 に関して忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和2年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行の	ご挨拶
-----	-----

1. 本年度の取り組みの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 1
2. 学習·教育支援	
(1)開館サービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 7
(2) 学生用資料整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 10
(3) 資料提供サービスと利用促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 11
(4)図書館相互利用(ILL)サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 17
(5) 学生との協働及び学生参加型の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 17
(6)情報リテラシー教育の推進支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 19
3. 学術研究支援	
(1)研究用資料の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 22
(2)電子的情報基盤の整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 25
(3) 蔵書目録データベースの整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 28
(4)資料の保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 29
4. 社会連携·情報発信	
(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 30
(2)震災文庫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 31
(3) 電子図書館システムによる情報発信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 33
(4)機関リポジトリによる情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 35
(5)国際連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 37

5. 管理運営等

(1)	図書館組	織と運営	.	• •	• •	٠.	•		•	•	•		•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 38
(2)	事務組織	と人事管	理 •				•		•	•	•		•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 39
(3)	予算及び	財務会計	業務				•				•		•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 44
(4)	施設整備	・システ	-ム整	備・												•			•	•	•	•	•	•	p. 46
(5)	図書館界	での諸湯	動 •	• •			•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 48
<u><付卸</u>	<u>禄></u>																								
尓	寸録 1	神戸大学	4附属	図書	館~	}後	1 0	年	の゛	軍営	扩	針	1=-	つし	١7	-						•	•		p. 51
付	† 録 2	達成度評	呼価(第 3	期中	申期	目標	Ę • I	中其	钥計	一画	•	年月	变言	十画	盲管	理	表	ţ	ر ا	J)	•	•	•	p. 54
尓		達成度評	呼価の	根拠	資米	4																			
		附属図	書館	利用	者に	マン	ケー	- ト:	結身	具根	要	•				•		•		•		•	•	•	p. 56
		附属図	書館	開催	11	ヾン	١.	セ	37	-	-等	の	ア:	ンケ	<i>_</i>	- ト	·結	拝	Į	•	•	•		•	p. 59
ſī.		附属図書	館に	関す	る旨	己自	点楨	è• i	評値	西約	黒														
							及	てび.	それ	ιŧ	·踏	ま	えけ	ヒヌ	寸応	措	置	<u>.</u>					•	•	p. 62
f.	计 録 5	保健科学	書図学	室の	改修	多と	そσ.)結:	果	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 68
基	基本統計表																								
	付録6	蔵書・受	を入等	の現	況	(各	館室	[別]	•	•	•		•		•	•	•	•		•	•	•	•	•	p. 74
	付録7	サービス	、業務	の現	況	(各	館室	[別]	•	•	•		•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	p. 75
	付録8	電子的情	髯報サ	ービ	スの	D現	況		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 76
f _z	寸 録 9	図書館糺	1織図	· 事	務糺	且織	図																		p. 77
付	寸録10	附属図書	館諸	会議	(請	議題	一覧	Ī.	委員	員名	3簿) •	•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 78
付	寸録11	附属図書	館予	算•	決算	表	(迢	営	経費	費、	資	料	費)	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	p. 86
尓	†録12	附属図書	館活	動日	誌		•		٠	•	•		•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• p. 88

1. 本年度の取り組みの概要

◆新型コロナウイルスへの対応 - 令和2事業年度に係る業務の実績より抜粋-【教育体制】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、4/8 から全館臨時閉館とした。5/11 から 9/30 は、日時・対象・サービス内容を限定し、また大学の活動制限指針の変化と部局等からの要望に応じて、注意喚起の掲示や消毒液の設置、カウンターでの飛沫防止措置、換気、滞在時間の制限等、感染防止対策のうえ「特別利用」を実施した。10/1 からの閲覧席利用再開にあたっては、閲覧机にアクリル板の仕切りを設置し、席数を制限し、消毒液の設置場所も増設して感染防止対策をとった。
- ・郵送による資料貸出を実施した(R3年3月末時点で延べ314件、1,250冊)。
- ・来館利用ができない学生のために、オンラインで提供できるサービスを検討し実施した。主なものとして、チャットによる利用者相談受付(5/25~、R3 年 3 月末時点で延べ 146 件)、電子ブックの紹介と利用促進を狙った「仮想展示企画」、新聞等データベースの同時アクセス数の拡大を行った。E-Study 事業費を 5,266 千円に増やし、ジャパンナレッジ Lib(百科事典・辞典等データベース)の同時アクセス数を拡大した。また電子ブック購読数を増加した($Maruzen\ eBook\ Library\ 340\ タイトル (4~12\ 月))。$
- ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、オンデマンド型遠隔授業で実施した。 (前期後期計23回、2,628名受講)
- ・図書館での情報の探し方ガイダンスは中止し、代りに学生が自習できるようにガイダンス内容をコンパクトにまとめた動画を作成して、図書館公式 YouTube チャンネルで公開した(動画 6 本)。
- ・初年次セミナーにおける図書館ツアーやガイダンスは、リモート実施対応のため動画を作成し、図書館公式 YouTube チャンネルで公開した。
- ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、オンラインによる電子ブック選書として、 $10/1\sim11/30$ で実施、53名参加、68件(587,253円分)購入した。
- ・学生の読書支援のため、またオンラインで学生が参加できるイベントとして、「オンライン読書室」(Web 会議で読書時間を共有して知的交流をはかる)を開催した($8/31\sim9/4$ 、 $9/7\sim11$ 、12/2,9,16、延べ 25 名(実数 17 名)参加)。

【研究体制】

・コロナ対応として、対面ガイダンスの実施に代えて、博論の Web 公表についての教材をアップデートして HP 上に公開した。

【社会貢献】

- ・コロナ対応による入館制限のため、展示ホールでの資料展の開催は中止し、代替として HP 上でのデジタル資料展「古典籍さまざま」を 10/1 より公開した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスを 本年度は中止した。

◆学習·教育支援

(1) 開館サービス

新型コロナウイルス感染症流行下における入構制限等に対応した臨時休館や利用制限を行った。これを反映し、年間総入館者数は約7.6万人で前年度比9%となった。入館者数の減少には閲覧席の利用停止・制限が影響しているとみられ、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性が明らかになった。また非来館型のサービスの重要性が明らかになったことから、開館サービスのみでは

ない図書館の利用指標の設定が今後の課題となった。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、前年度より 0.9%減の 40,000 千円とした。また、前年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

学生への年間貸出総冊数は約9万冊で、前年度比44%となった。この数字は入館者数(同9%)と 比べると減少幅が小さく、利用制限下においても資料提供サービスの面では図書館としての役割を一 定程度維持できていたと評価できる。

来館が難しい学生を対象とした郵送貸出の実施の他、利用促進においても非来館型の取り組みを行い、電子ブックを利用した「仮想展示」や、イベント「オンライン読書室」を実施した。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

図書館相互利用 (ILL) について、全体として複写・貸借ともに減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴う影響もあるが減少幅は前年度比 11%~20%減に留まった。社会科学系図書館は、複写・貸借ともに全体の約半数を受け付けており、全学の中で ILL 受付の大きな部分を担っており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 22 名が参加し、計 5 回の定例会 (オンラインによる) 開催、団体誌『The ULiCS Times』の第 7 号~第 8 号の発行・公開等の活動を 行った。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催となった第 5 回全国学生協働サミットは職員が視聴した内容を後日報告という形で ULiCS と情報共有。一方、学生参加型のイベント読書会「まごまご読書倶楽部」はやむなく中止とした。また、活動の可視化促進を目指し、学内学生団体(KooBee)発行サークル図鑑への掲載やツイッター広報の強化にも取り組んだ。

(6)情報リテラシー教育の推進支援

第1クォーター (5/7~6/25) の授業が全面的に遠隔化されることを受け、図書館員が1コマを担当する全学共通授業科目「情報基礎」は動画教材を用いて実施し、2,628人が受講した。「情報基礎」と同じく必修科目である「初年次セミナー」についても、図書館ツアーや検索ガイダンスに代わる教材の提供を行い、新入生が図書館の利用方法を学ぶ機会を失わないよう努めた。セミナー・ガイダンス・オリエンテーションは、例年通りの実施が難しかったため、セルフラーニング教材の充実を図った。その他の学修支援としては、パスファインダー「KULiP」の運用継続と、在宅学修に関するまとめページを附属図書館 Web サイトから公開したことが挙げられる。またチャットによるオンラインレファレンスの受付を実施した。

◆学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

第3期中期計画後半(令和元~3年度)の教育研究基盤資料整備費について、平成30年5月の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.67億円(決算ベース)が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成27年度の契約規模を維持することができた。

第 4 期中期計画前半(令和 4~6 年度)の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和 2 年 10 月 8 日の部局長会議において、上限 4.1 億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、令和元年度より約 428 万円減(1.6%減)の予算により、図書資料費(学生用資料費・e-study 資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費)の確保が困難となっているが、本年度は令和元年度と同額の約 0.72 億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

本年度は、神戸大学の事業を支援することを目的として大学機能強化支援資料費を計上し、教員と連携して V.School・SDGs 関連図書を選書購入し、総合・国際文化学図書館に配架した。

外国雑誌センター予算については、令和元年度と同予算額(27,000 千円)を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ 利用数や ILL 受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

(2) 電子的情報基盤の整備

本年度末における電子ジャーナル購読数は 36,418 タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 130 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は令和元年度の規模を維持している。

国際的には、アクセスを確保するため購読料を負担するモデルから出版費用を拠出し論文をオープンアクセスとするモデルへの転換を図る動きが現れており、今後はこのような転換も視野に入れ、学術情報流通全体の中で基盤整備のあり方を捉え直していく必要がある。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の本年度実績は、特殊資料(和漢古書、洋古書、マイクロ資料など)と研究室からの返納図書、製本雑誌等を合わせ約9,438 冊で、全蔵書数約378 万冊のうち約328 万冊(約87%)がOPAC(オンライン目録)で検索できるようになった。特に和古書は、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。

(4) 資料の保存

資料収容力確保のため「整備指針」の改正と「実務指針」の見直しを行い、情報管理課に資料整備グループ担当を設置するなど資料保存における具体的な対応策に取り組んだ。今後は自然科学系図書館の増築部分に共同利用書庫が新設され、附属図書館全体における体系的な資料整備が進むことが期待される。突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり、社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しい年となった。総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、前年度3月以降、原則不可となり貸出

冊数は 0 冊となった。資料展についても、展示ホールでの催しは全て中止となった。代替として、このたび初めてデジタル資料展を公開した。所蔵古典籍の紹介に加えて、デジタルアーカイブの紹介としても、意義はあると評価する。今後もデジタル資料展での実施も含め、ウィズコロナの状況下で可能な形態で取組んでいきたい。

(2) 震災文庫

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により前期は閉室、後期は事前予約制(学内者のみ)での利用に制限したため、来館者数は大幅に減少した。所蔵資料総数は6万件を超え、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力は3,211件、レコード総数は30万2千件を超えた。また、サンテレビジョンから寄贈を受けた阪神・淡路大震災当日の動画を1件デジタルアーカイブで公開した。資料収集の他には、前年度に引き続き総合教養科目で学生向けに震災文庫の説明を行う等、周知の取り組みをおこなった。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成 11 年より「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っている。「経済関係資料」では、附属図書館電子図書館事業経費および学内ワークスタディ制度や館内職員によるデータ作成体制整備により「新聞記事文庫」の電子化公開を進め、公開記事数は累計約 32 万 7 千件にのぼった。そのほか、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で令和元年度に電子化した画像や、「神戸開港文書」の目録・画像データを追加公開するなど、コンテンツの充実をはかっている。今後は、IIIFへの対応やメタデータスキーマの見直しにより、より活用のしやすいデジタルアーカイブの構築を目指していく。併せて、電子化画像の保存体制の改善や、デジタルアーカイブとリポジトリの位置づけの明確化などを通し、安定的に運用できる体制を整備したい。

(4)機関リポジトリによる情報発信

平成 18 年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」は、本年度は 2,015 件のコンテンツが新規登録され、総コンテンツ数は 32,738 件に達し、順調にコンテンツ数をのばしている。前年度に引き続いて設置したオープンアクセス推進 WG では、主な取組として KUID に登録された論文情報 2,196 件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち 569 件について著者へ登録依頼した結果、192 件を登録することができた。そのほか広報活動として、『Kernel 通信』の継続的な発行のほか、博士論文のインターネット公表に関する教材の作成および公開を行った。今後は、オープンアクセス推進 WG による著作権調査および広報活動を継続することに加え、JPCOAR スキーマにも対応した相互運用性と利便性の高いリポジトリの構築や、研究データの管理・公開の学内体制整備を目標に、情報収集および検討を進めていく。

(5) 国際連携

令和3年3月に日本古典籍研究国際コンソーシアムに神戸大学附属図書館として登録参加した。日本国内に限らず世界の機関・大学・図書館の参加も多く、時間と場所を選ばないオンラインでの活動が中心である。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外渡航および海外からの来日が著しく制限されており、国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)への応募は見送ることとなった。海外渡航が可能となる場合に向けて、海外派遣には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

◆管理運営等

(1)図書館組織と運営

前年4月より部局長経験者である冨山明男館長(工学研究科教授)がその任に当たっている。3名の副館長の役割分担も前年度より継続している。附属図書館運営委員会は、第1回はメール回議となり、第2回~第4回はWeb会議による開催となった。懸案事項であった第4期中期計画前半(令和4~6年度)の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。このことにより令和6年度まで教育研究基盤資料の安定した提供が可能となった。新型コロナウイルス感染拡大防止への対応では、情報サービス課連絡会議の開催により、各館の開館やサービス実施について足並みを揃えて対応することができた。研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員より意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

(2) 事務組織と人事管理

5月時点で、附属図書館事務部は2課3グループ11係、定員47名、非常勤職員31名の78名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員2名、非常勤職員2名を配置している。特に大学文書史料室の2年間の暫定措置とされていた再雇用職員1名の増員配置は、令和3年度より恒久的な増員配置として承認された。令和3年度事務組織改編が第2回附属図書館運営委員会にて了承された。本年度は感染症拡大防止のため対面での研修が中止となるなか、学外のオンライン研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。アウトソーシングについては、時間外開館及び土・日開館業務の外部委託が新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い大幅に縮小したが、コロナ後の外部委託維持については、予算の縮減と委託経費の上昇に対し、実施規模の見直しも含め、慎重に判断していく必要がある。業務改善は、前年度に続き附属図書館内での事業として取り組んだ。

(3) 予算及び財務会計業務

経常運営費・経常事業費の当初予算総額は 263,135 千円で、前年度の 267,137 千円から 4,002 千円の減となったが、臨時閉館及び時間外開館の短縮等によりかなりの執行残が発生した。しかし新型コロナウイルス感染症拡大防止対策経費や突発的な空調機故障等により想定外の経費が発生し、ILL 等収入が減少するなど、当初の計画から大幅に変更のある執行となった。感染防止対策については適切に措置でき、また突発的な空調機故障に対応でき、保健科学図書室改修も実施できた。教育研究基盤資料整備費として確保した 3.75 億円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。また学内ワークスタディ実施経費(654 千円)により、学生補佐員 8 名を雇用した。

(4) 施設整備・システム整備

保健科学図書室の施設改修を実施した。あわせて1階にラーニングコモンズを設置し、学修支援機能を強化することができた。施設部が各部局より確保して執行する建物老朽劣化対策経費により、総合・国際文化学図書館棟(A棟)等漏水補修工事を実施した。また学内営繕・エコ対策経費により、総合・国際文化学図書館の書庫照明設備改修工事を実施した。学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修概算要求が採択され、令和3~4年度の2年間で実施することとなった。次年度はこの実施が図書館での大きな課題となる。

システムについては、令和4年9月に予定される図書館システムの次期リプレイスに備え、情報収集や仕様策定委員会の開催等を行った。現行システムの機能を引継ぎつつ、サーバ機器類のクラウド

ホスティングサービス利用による調達コスト削減や、デジタルアーカイブ機能の標準化、非対面サービスの充実などを軸に検討を進めていく必要がある。

(5) 図書館界での諸活動

本年度は大阪大学、大阪教育大学と共同でオンライン報告会を開催し、担当者・報告者として2名が携わった。兵庫県大学図書館協議会では引き続き会長館、事務局として協議会の運営にあたった。国立情報学研究所の1部会の委員を務め、JPCOARでも1作業部会員を務めた。国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会の委員を務めた。他機関・団体等が開催する2件の研修や講習会に、講師・担当者等として2名が携わった。他機関との連携は参加する職員自身の資質向上にもつながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

≪開館状況≫

本年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」のレベル(「授業」および「学生の入構」)に対応し、開館時間は下表のとおりであった。5月から9月末までは学生の入構制限等を考慮し、臨時休館を継続した上での「特別利用」と位置づけた。

期間	活動制限指針レベル	開館日時	学生の利用制限			
4/1~4/8	_	(休業期の開館時間)	グループ学習不可、私語禁止			
4/9~5/10	(緊急事態宣言)	臨時休館	入館不可			
5/11~6/25 (第 1Q)	レベル 4 (5/7~5/31) レベル 3 (6/1~6/25)	月、木 13:00 - 16:30 社会科学系図書館は月、木、土 13:00 - 16:30 医学分館、保健科学図書室は 6/1 から	学部生入館不可 院生は部局の入構許可が必要 サポート館のみ利用可 閲覧席利用不可、私語禁止			
6/26~7/18 (第 2Q)	. レベル 2	月〜金 13:00 - 16:30 社会科学系図書館は月〜土 13:00 - 16:30	学生は附属図書館長の入館許可 あるいは部局の入構許可が必要 (部局により制限あり)			
7/20~8/12 (第 2Q) 8/18~9/30 (夏季休業期間)		月〜金 10:00-17:00 社会科学系図書館は月〜金 10:00-17:00、土 10:00-19:00	サポート館のみ利用可閲覧席利用不可、私語禁止			
10/1~2/8 (後期) 2/9~3/31 (春季休業期間)	レベル 1	月〜金 9:00-17:00 社会科学系図書館は月〜金 9:00-19:00(休業期 9:00-17:00)、土 10:00-19:00	許可不要* サポート館限定なし* (*11/30 までは医学分館を除く) 閲覧室利用可(席数制限、時間制 限あり)、私語禁止			

※5/11 以降において、次の臨時休館があった。

8/19(本学に対する爆破予告のため)、9/7(暴風警報)、1/7(同前)

※保健科学図書室は改修工事のため、次の開館となった。

8/4~9/7 休館、9/8~3/18 臨時図書室での開館、3/19~翌年度 4/9 休館、翌年度 4/12 よりリニューアルオープン

- ・ 学外者の入館は前年度3月以降、原則不可としている。
- ・ 祝日授業日開館、試験期特別開館、4月8日以降の24時間開館(医学分館)は実施できなかった。
- ・ 図書館利用証(学生証)の代わりに、スマートフォン上に表示させた利用者バーコードを読み取らせて入館ゲートを通過する「スマホ入館」の試行を前年度から継続した(経済経営研究所図書館及び医学分館を除く)。

≪入館状況≫

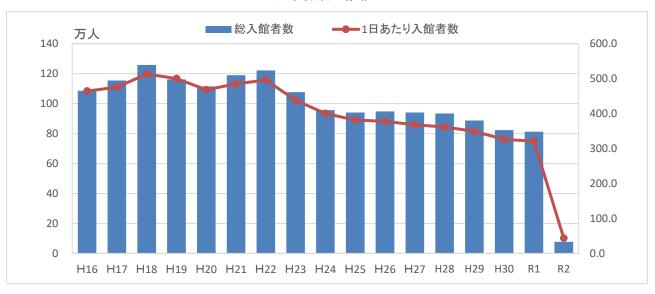
<入館者数経年推移>

平成16年度以降の年間総入館者数及び1日あたりの入館者数の経年推移を次に掲げる。

改修工事(平成 20 年度総合・国際、平成 25 年度社会系)及び入退館管理システム導入(平成 23・24 年度)があった年に入館者数が減少している。平成 26 年度以降についても緩やかに減少傾向であった。令和 2 年度においては感染症対策による休館、開館時間短縮、学生の入構制限などを反映し、

前年度の1割程度に利用が減少した。

<入館者数の推移>



<全館入館者数>

	年間総入館者数	1日あたり入館者数
R2(全体)/R1	0.09	0.14
R2(後期以降のみ)/R1	-	0.19
R1 年度	812,400	321.4
R2 年度(全体)	76,659	43.6
R2 年度(後期以降のみ)	64,227	60.6

- ・ 表は、令和2年度の全館入館者数を平成31(令和元)年度と比較したものである。
- ・ 年間総入館者数は前年度の 9%であった。利用制限が比較的緩和された後期以降のみに限定すると、 1日あたりの入館者数は前年度の 19%であった。

<通常開館>

平日 (時間内) 1日あたりの入館者数

	総•国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R2/R1	0.14	0.14	0.38	0.39	0.25	0.24	0.16	0.09	0.13	0.20
R1 年度	858.8	525.7	317.5	229.3	194.6	12.4	266.4	135.6	181.9	302.6
R2 年度	118.3	74.3	122.1	90.6	49.4	2.9	41.5	12.0	24.5	59.9

- ・ 表は 1 日あたりの入館者数について、令和 2 年度(後期以降の平日 17:00 まで)と平成 31(令和元)年度(平日 $8:45\sim17:00$)とを比較したものである。
- ・ 全体として前年度比 20%となっているが館によってばらつきがあり、自然系、人文においては前年 度比約 40%と、入館者数の減少幅が他館より少なかった。

く夜間開館>

平日夜間(17:00~)時間帯の1日あたりの入館者数(社会系のみ)

	社会系
R2/R1	0.10
R1 年度	83.2
R2 年度	8.4

- ・ 平日夜間 (17:00~) 時間帯の開館は、社会科学系図書館において 4/8 までの 8 日間と、後期の 82 日間実施された。利用制限との関係をみるために、後期のみの数字で前年度との比較を行った。
- ・ 前年度比 10%であり、平日時間内の利用(社系 14%)と比べても低い数字となった。
- 医学分館では 4/8 までに 5 日間実施したのみであったため比較を行わない。他館では 1 日も実施していない。

<土曜(・日祝)開館>

土曜(・日祝)の1日あたりの入館者数(社会系のみ)

	社会系
R2/R1	0.25
R1 年度	259.3
R2 年度	65.1

- ・ 休日開館は、社会科学系図書館において前期 20 日間と、後期 22 日間行われた。利用制限が比較的 緩和された後期における土曜開館と、前年度(同館の土日祝開館)の比較を行った。
- 前年度比 25%であり、同館の平日利用が 14%であったことと比べると、利用されていた。
- 医学分館では 4/8 までに 1 日実施したのみであったため比較を行わない。他館では 1 日も実施していない。

<祝日授業日開館、試験期特別開館>

実施せず。

<24 時間開館>

・ 医学分館で、医学部・医学研究科・保健学研究科・附属病院所属者を主対象として平成 9 年から実施している。本年度は 4/8 以降実施せず。

◆評価と課題

本年度の年間総入館者数は 76,659 人で前年度比 9%、また1日あたり入館者数は 14%であった。平成 26 年度以降、入館者数は緩やかな減少傾向となっているが、本年度においては感染拡大防止に係る臨時休館、利用制限を行ったため、例年と同じ基準で動向を把握することはできなかった。

この入館者数減には、閲覧席の使用を著しく制限したため、自習のための図書館利用ができなかったことも反映していると考えられる。別項「(3)資料提供サービスと利用促進」で見るように、貸出数の減少は入館者数の減少ほどではなく、これまでの入館者の利用目的として資料貸出の他に個人学習の需要が高かったことが、感染症流行下の統計に反映されたと考えられる。図書館利用者アンケート調査(11/9~1/8 実施)においても、利用者(回答者の80%が学部生・院生)の来館目的として、1位の「図書の利

用」(全目的の31%) についで「個人学習」(全目的の24%) が多かった。特に学部学生は研究室をもたないことから、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性がかえって明らかになったといえよう。

電子媒体(特に電子ジャーナル)への出版形態変化などを反映し、従来から附属図書館の入館者数、貸出数は低減傾向にあったが、コロナ禍によって一気に非来館型のサービスの重要性が明らかになったといえる。このことから、開館サービスのみではない利用指標の設定が今後の課題といえよう。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は<付録>基本統計表の通りである。

く資料費予算と重点整備>

- 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算(図書館セグメント)から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費(部局セグメント)を合わせて実施することとなっている。
- ・ 令和2年度の図書館予算は40,000千円、0.9%の減額となった。
- ・ 平成 28 年度より E-Study 事業費は独立した予算項目とした。令和 2 年度予算は前年度から 4.4%増の 4,602 千円であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止措置のためのオンラインサービス拡充の一環として購読コンテンツのアクセス数追加を行い、決算額は 5,266 千円となった。
- ・ 平成18年度より震災文庫資料費(400千円)は独立した予算項目となっている。
- ・ 平成 16 年度より実施している装備付納品*を、引き続き総合・国際文化学図書館(845 冊)、社会科学系図書館(743 冊)、自然科学系図書館(797 冊)、人間科学図書館(461 冊)において実施し省力化・合理化を進めた。なお保健科学図書室については、購入点数も少なく省力化があまり見込めないことから平成 29 年度から装備付納品を中止した。

注) *装備付納品

新規購入図書の受入の際、目録登録および資料番号や請求記号貼付などの装備が完了した状態で納品されること。納品後、速やかな利用が可能。

<各館室の整備状況>

R2 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	1, 829	283	1, 964	1, 132	355	532	131	500	184	685	7, 595
雑誌種数	71	12	14	123	15	69	0	131	61	87	583

・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業 関連図書等の資料整備を行った。

<選書体制と収集方針>

- ・ 平成 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」(附属図書館運営委員会決定)に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進する ため「総合図書館資料選定委員会」(構成委員は職員)を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選 書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- ・ また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」(学

生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの)を平成 22 年度より実施している。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止措置としてオンラインによる電子ブック選書を実施した。実施期間は $10/1 \sim 11/30$ 、期間中は 5 分の試読が可能となり、参加は 53 名、68 件を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取組を継続する方針である。

く選書評価>

・ 平成 18 年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価 を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本 年度末には、令和元年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切 に行われたことが確認された。(令和 2 年度第 4 回附属図書館運営委員会で報告)

<電子ブックの整備と利用結果>

・学術和書を中心に電子ブックを提供する Maruzen eBook Library の購入数(雑誌はタイトル数)と利用状況を下記に示す。従来から購入タイトル数は増加傾向にあったが新型コロナ感染症の流行をうけ令和 2 年度は前年度の約 2.8 倍と購入数を大幅に増加させた。利用数の増加も約 5 倍と極めて顕著である。

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
購入数	55	176	95	249	209	593
利用数	117	366	921	1, 765	3, 005	15, 171

◆評価と課題

平成 26 年度以降、学生用資料費も減額が続いているが、本年度の減少幅は 0.9%にとどまった。今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため予算規模の維持が望まれる。ただ学生用資料費の枠内で、新型コロナウイルス感染拡大に伴う遠隔授業の実施、学生の入構制限といった事態に対応するのは難しい。令和 2 年度において特に和書の電子ブック購入を緊急避難的に増加させたものの、利用の増加率に鑑みると潜在的なニーズははるかに大きい可能性がある。オンラインリソースのうち、いわゆる電子ブックについてはこれまでそれほど大きな蓄積はない。利便性も考慮すると、新型コロナウイルス流行状況如何に関わらず、今後体系だった整備・購入を検討すべきと思われる。

(3) 資料提供サービスと利用促進

貸出及びデリバリーサービス(=図書配送)冊数等の詳細は、<付録>基本統計表のとおりである。相互利用サービスについては、2(4)に後述する。

≪貸出サービス≫

本年度は、以下の変更を行った。

· 貸出可能冊数の変更(利用細則改正)

前年度において、下表のとおり学部学生を中心に貸出可能冊数上限を 10 冊に増やす試行を行ったが、本実施とした。なお貸出期間は 2 週間であり変更はない。

貸出可能冊数の変更(本実施) ※赤字下線部が変更部分

館室名	学部学生	大 学院 生	教職員
総合·国際文化学図書館		20 冊	30 冊
社会科学系図書館		6 冊→10 冊(開架)	6 冊→ <u>10</u> 冊(開架)
12717710111		20冊(書庫)	50 冊(書庫)
自然科学系図書館	6 冊→ <u>10</u> 冊	6 冊→ <u>10</u> 冊	6 冊→ <u>10</u> 冊
人文科学図書館		20 冊	30 冊
人間科学図書館		20 冊	20 冊
医学図書館		6 冊→ <u>10</u> 冊	6 冊→ <u>10</u> 冊
保健科学図書室		6 冊→ <u>10</u> 冊	30 冊
海事科学分館	10 冊	20 冊	20 冊
経済経営研究所	5 冊→ <u>10</u> 冊	10 冊	研究所 50 冊 その他 25 冊

また長期の臨時休館、入館制限への対応および感染症流行対策として、以下の非来館型サービスを行った。

・ ウェブでの延長回数を無制限に

2014年10月より、対面による貸出の延長回数を無制限としているが、本年度においては感染症対策の一環として、ウェブサイトの「アカウントサービス」からの延長も無制限とした。

• 郵送貸出

入構制限などの影響で来館が難しい学生(学部生、院生)を対象に、郵送による資料貸出を実施 した。

○部局負担による郵送貸出(5/11~3/31)

総合・国際文化学図書館・人間科学図書館においてサポート対象部局の学部 4 回生・院生を対象 に、送料部局負担による郵送貸出を実施した。本年度で終了した。

○利用者負担による郵送貸出

経済経営研究所図書館で院生・学部4回生に対して実施(6/1~6/25)。

医学分館で教職員・大学院生 $(6/1\sim6/25)$ 、学部 $5\cdot6$ 回生 $(6/8\sim6/25)$ に対して実施。

上記以外の館で学部4回生に対して実施(6/1~6/25)。

全館で学部生・院生を対象に実施(6/26~)し、次年度も当面継続することとした。

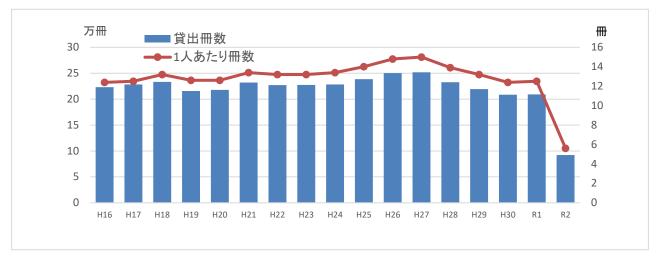
<郵送貸出数> 5/11-3/31

	前期(5/11-9/30)		後期(10	/1-3/31)	合計		
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	
国際	72	458	5	18	77	476	
社会	40	136	18	53	58	189	
自然	21	69	2	7	23	76	
人文	77	226	6	17	83	243	
人間	35	156	10	41	45	197	
研究所	0	0	0	0	0	0	
医学	15	29	0	0	15	29	
保健	7	24	0	0	7	24	
海事	6	16	0	0	6	16	
計	273	1,114	41	136	314	1,250	

利用は学生の入構制限が厳しかった前期に集中した。

<貸出冊数(学部生·院生)経年推移>

<貸出冊数(学部生・院生)>



平成16~令和2年度の経年推移を上に掲げた。

- · 本年度の貸出冊数は92,169 冊であり、前年度比44%となった。
- · 学生1人当たりの貸出冊数は5.6冊(前年度:12.5冊)であった。
- ・ 学部生の貸出数は 49,857 冊、1 人あたりの貸出冊数は 4.3 冊(前年度比 40%)、大学院生の貸出数は 42,312 冊、1 人あたりの貸出冊数は 8.9 冊(同 50%)であった。

<館室別学部生・院生貸出冊数>

	総·国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R2/R1	0.40	0.47	0.45	0.59	0.49	0.38	0.47	0.31	0.34	0.44
R1	59,011	45,021	33,806	17,944	20,593	766	5,560	12,052	14,427	209,180
R2	23,357	21,378	15,358	10,521	10,069	294	2,594	3,764	4,834	92,169

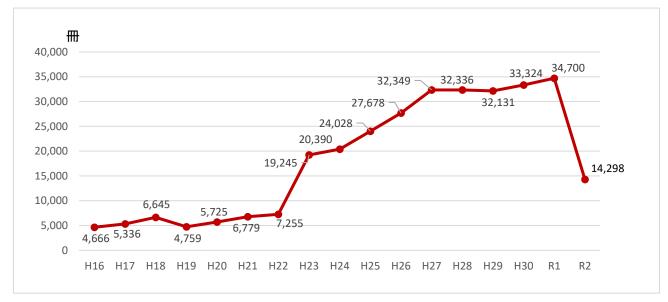
- ・ 館室別の貸出数を前年度と比較した。
- ・ 館別にみた場合、前年度比にばらつきがみられた。保健の減が最も大きかったのは改修に伴う影響 とみられる。人文においては減少幅が最も少なく、こちらは分野の影響があったと考えられる。

<卒業生及び修了者に対する貸出>

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成21年3月に始まった。本年度は4月9日の臨時休館以降、在籍者以外の利用を停止した。

≪デリバリーサービス≫ <デリバリーサービスの推移>

<デリバリーサービス貸出冊数推移>



デリバリーサービスは、平成 12 年度後期に院生、教職員(異キャンパス間は学部学生も)を対象に始まった。平成 23 年度から六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大した。平成 27 年度には経済経営研究所図書館が加わり、全館室でサービスを利用できる体制が整った。

<館別デリバリーサービス取扱冊数>

	総•国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R2/R1	0.41	0.37	0.43	0.48	0.40	0.33	0.47	0.35	0.39	0.41
R1 年度	17,162	13,041	7,866	12,082	9,376	1,664	1,560	2,275	4,374	69,400
R2 年度	7,059	4,847	3,348	5,758	3,787	552	737	791	1,717	28,596

- ・ 上の表は、館別に令和2年度の発送冊数と受取冊数を合算し、前年度と比較したものである。
- ・ 発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数の2倍の数値になっている。
- 本年度は、過去最多であった前年度の41%であった。
- ・ 館室により多少の増減はあるが、概ね貸出冊数の減少を反映している。

<附属中等教育学校への図書貸出サービス>

総合・国際文化学図書館、人間科学図書館の 2 館が所蔵する図書を附属中等教育学校に対して貸出するサービスは、平成 24 年度から 28 年度の間「中等教育学校図書室」に後期課程生徒(高校生)向け図書の整備ができるまでの 5 年間限りの特別措置として実施された。そのサービスを継承するものとして、平成 29 年 3 月「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」が附属学校部長と附属図書館長の間で締結された。この申し合わせにより、配送による貸出サービスに加え、直接中等教育学校生徒が来館して貸出を受けることができるようになった。また、平成 29 年度からは、配送についても、デリバリーサービスの集配場所に附属中等教育学校図書室を加え、手続きの簡素化を図っている。

本年度においては次のサービス拡大を行った (試行)。

- ・前期課程3年次生(中学3年生)から利用可とする。
- ・社会科学系図書館、自然科学系図書館の所蔵資料を利用可とする。

く貸出冊数>

館室名 /年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
総•国	134	11	0	246	135	92(37)	20(17)	264(261)	15
人間	7	25	7	7	54	3(3)	8(8)	3(3)	4
社会系	1	ı	ı	-	-	-	-	-	4
自然系	-	1	1	_	-	-	_	-	0
合計	141	36	7	253	189	95(40)	28(25)	267(264)	23

カッコ内は直接来館による貸出数(内数)

≪利用促進≫

くテーマ図書展示>

平成26年度から全館で共通テーマを設定して、所蔵図書館からテーマに沿った図書を館員が選び、 期間を決めて展示する取組を始めた。

本年度は感染症流行のため多くは実施を見送らざるを得なかったが、そうした状況下にあっても、「レポート・論文の書き方」を共通テーマに設定して4館で実施した。また新しい試みとしてオンライン上の「仮想展示」を3つのテーマのもとに実施した。他にも人文科学図書館では大学文書史料室との協同展示、海事科学分館では海洋政策科学部の新設に伴う連動企画展示を行い、全館で年間合計12回を次の表のとおり実施した。

日二の纤维	☆ + ← & →		ch += 88 +/\ C	
展示の種類	実施館	テーマ	実施開始月	
共通テーマ展示	総合・国際文化学図書館	レポート・論文の書き方	4 月	
共通テーマ展示	人間科学図書館	レポート・論文の書き方	4 月	
共通テーマ展示	経済経営研究所図書館	レポート・論文の書き方	4 月	
共通テーマ展示	保健科学図書室	レポート・論文の書き方	4 月	
テーマ展示	海事科学分館	海神プロジェクト連動企画展第3弾:海のグローバルリーダー	4月	
) ── ▼ 版小	/再书件于刀 貼	教育の歴史と展望フェア	4 H	
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	【思考】を思考する	4 月	
仮想展示	オンライン	科学電子書籍ノ本棚	4 月	
仮想展示	オンライン	今こそ使おう 電子ブック	4 月	
仮想展示	オンライン	辞書・事典・語学学習に役立つ電子ブック	5月	
	海東科学公館	海神プロジェクト連動企画展第4弾:海を守る・海を利用する	10 F	
テーマ展示	海事科学分館	ための条約と法律フェア	10 月	
テーマ展示		大学文書史料室とのコラボ企画:戦場に行った学生たち―終		
)一、成示	人文科学図書館	戦 75 周年記念—	12 月	
テーマ展示	社会科学系図書館	さようなら、先生~退職される教授の著書~	2 月	

<テーマ図書展示実施回数>

H 26	H 27	H28	H29	H30	R1	R2
31	37	44	49	47	50	12

<イベント>

・オンライン読書室



With コロナ時代にオンラインで実施できる読書推進、および大学構成員の間の「つながり」をつくる新たな試みとして、8 月 31 日~9 月 11 日の平日 10 日間と、12 月 2 日・9 日・16 日の 2 回に渡り、ビデオ会議サービスを使用した「オンライン読書室」を開催した。

参加者は $10:30\sim11:30$ の 1 時間 (第 2 回は $14:00\sim14:40$ の 40 分間) 読書を行い、 $11:30\sim12:00$ の 30 分間 (第 2 回は $14:40\sim15:00$ の 20 分間) チャットで交流した。のべ参加者数は、第 1 回が 21 名、第 2 回が 4 名となり、所属・学年を越えて様々な学生が集まった。

アンケートには「大学・図書館に行けない状況で、 同じ大学の人と交流することができた」「自分が普段 読まない本を知ることができた」などの感想が寄せら れ、参加者にとって有意義な機会になったことが窺え る。

◆評価と課題

本年度の学部生・院生への貸出冊数は 92,169 冊であり、前年度比 44%となった。貸出数の減少(教職員等への貸出も含めた総数で、前年度比 46%)は入館者数の減少(前年度比 9%)と比べると少なかったことから、感染症流行対策としての利用制限を実施しつつも、資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できよう。

感染症流行下における非来館型の図書館サービスとして、郵送による資料貸出を行い、特に入構制限の厳しかった前期において一定の利用があった。後期以降の利用は減少しているものの、授業や許可された課外活動以外での入構は依然制限されていることから、次年度も継続することとなった。

利用促進においても同じく非来館型の取り組みを検討し、電子ブックを利用した「仮想展示」や、イベント「オンライン読書室」を実施した。

平成 27 年度以降、学生用図書資料費の減額によって新刊書の購入冊数が減少し続けていること、若者の活字ばなれ、電子資料の普及といった諸般の事情を考えると、貸出サービスにおいて貸出冊数増加という形だけで成果を出すのは難しい。加えて本年度は感染症流行により、一気に非来館型のサービスの重要性が明らかになった。このことから、本年度はじめて行った郵送による資料貸出や、「仮想展示」「オンライン読書室」による利用促進は、今後の資料利用サービスの方向性を考える上でも意味のある試みであったといえよう。

(4)図書館相互利用(ILL)サービス

<相互利用サービス>

区分	分		総•国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
		R2/R1	0.70	0.93	0.64	0.73	0.70	1.25	0.66	0.17	0.95	0.75
	受	R1 年度	257	3,477	496	420	403	91	1233	534	164	7,075
複	付	R2 年度	180	3,226	317	308	281	114	817	89	155	5,487
写	依	R2/R1	0.84	0.73	2.18	1.01	0.79	0.93	0.76	0.73	1.00	0.84
	頼	R1 年度	508	1,453	398	651	791	30	443	464	46	4,784
	枳	R2 年度	429	1,067	500	659	621	28	337	341	46	4,028
	受	R2/R1	0.83	0.77	0.67	0.99	0.99	0.77	0.39	0.29	1.40	0.80
	付	R1 年度	486	1,333	111	454	200	22	23	14	57	2,700
貸	ניו	R2 年度	404	1020	74	357	197	17	9	4	80	2162
借	依	R2/R1	1.76	0.64	1.00	0.77	0.91	1.33	1.00	0.67	0.83	0.89
	頼	R1 年度	123	290	72	428	119	15	3	9	6	1,065
	似	R2 年度	217	185	72	331	108	17	3	6	5	944

・館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付は 25%減、依頼 16%減、現物貸借の受付は 20%減、依頼は 11%減となっている。

◆評価と課題

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に係る休館、開館時間の短縮、学生の入構制限などの対応措置を行ったことによる影響もあり、図書館相互利用(ILL)サービスの文献複写の受付・依頼、現物貸借の受付・依頼ともに減少したが、その減少幅は前年度比 11%~25%減に留まった。

緊急事態宣言発令時には一時的に図書館相互利用(ILL)業務を休止、縮小する図書館が多かったものの、本学では可能な範囲で図書館相互利用(ILL)業務を維持し、感染防止に留意しつつ「特別利用」として他大学等に依頼した文献複写物等の受け取りのための入構・来館は認めるなど、柔軟な対応により研究・学修支援の維持に努めた。

社会科学系図書館は、複写は全体の約58.8%、貸借は約47.2%を受け付けており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館として、その責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

<附属図書館学生チーム ULiCS>

学生との協働を目的に平成 27 年 10 月に発足した「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 22 名が参加している。定例会として職員とのミーティングをふた月に一度程度開催し、それ以外に学生のみもしくは活動中のグループごとの打合せは随時行っている。本年度の活動状況は、以下のとおりである。

4 月	『The ULiCS Times』第 7 号発行。図書館での掲示・配布とHP での公開
4/1-2	WEB 新入生歓迎祭にツイッターで参加、新歓チラシ掲載
7/3	ULiCS 第 1 回定例会(Zoom にて)
9/15	ULiCS 第 2 回定例会(Zoom にて)
10 月	『The ULiCS Times』第 8 号発行。図書館での掲示・配布とHP での公開
10 月	秋新歓ウェブサイトに団体紹介ページで参加
10/30	ULiCS 第 3 回定例会(Zoom にて)
11/15	第 5 回全国学生協働サミットを職員が視聴し、後日、ULiCS に報告することで内容共有
1/15	ULiCS 第 4 回定例会(Zoom にて)
2/17	ULiCS 第 5 回定例会(Zoom にて)
11月~	総合・国際文化学図書館にて、ULiCS メンバー選書による企画展示「うりくす文庫」を開催。テーマ「新しい世界」「演劇を読む」「兵庫が舞台の本」「手紙」
3 月	『The ULiCS Times』第 9 号を校了。4 月初旬から配布・公開予定

上記以外に、図書館グッズの検討、メンバー募集のための新歓ポスターの作成や Twitter による広報を行っている。特に本年度は Twitter 広報を強化した。(例:定例会の開催報告を発信、質問箱の設置、学生目線の図書館お役立ち情報を発信する「Twitter 新歓」を実施)

ULiCS の活動に関する職員側の対応は、図書館アウトリーチ WG が担当している。

<学生協働関連イベント等への参加>

毎年開催され、過去に ULiCS メンバーを派遣した図書館総合展内の学生協働関連イベントが、本年度はオンラインのみでの開催となったため(第5回全国学生協働サミット、11月15日)、職員が視聴し、後日内容について ULiCS メンバーに報告することで情報を共有した。

くその他の企画>

「うりくす文庫」

鶴甲第一キャンパス2階LCにて、11月から実施中である。

前年までは読書会やビブリオバトルで紹介された図書を展示していたが、開催が難しい状況のためコンセプトを再検討し、ULiCSメンバーに、1人につき書架1段分を担当として、各人自由なテーマで図書を選んでもらった。今回のテーマは「新しい世界」「演劇を読む」「兵庫が舞台の本」「手紙」の4つとなった。また、展示図書についてのPOP作成と展示までを担ってもらった。今後もULiCSと共に計画、開催したいと思う。

◆評価と課題

ULiCS は、発足5年目となった。今年度は対面での活動がほぼできなかったが、オンラインでの定例会や SNS の活用によって、最低限ではあるものの活動を続けることができたのは評価できる点である。参加学生数の多寡や個々人の忙しさによって活動メンバーが固定され気味であることの解消と、チームが自発的に活動できるよう引き続きサポートに努めたい。

(6)情報リテラシー教育の推進支援

<遠隔授業対応>

- ・ 第 1 クォーター (5/ $7\sim6$ /25) が全面的に遠隔授業で行われる事態に対応するため、国際教養教育院、 共通教育支援室を中心とした教職員により、遠隔授業サポートチームが構築された。遠隔授業実施 直前において、Web 会議システムを初めて扱う教員向けに授業の「予行演習」を行うサービスが実 施され、図書館職員 9 名がサポートとして参加した(4/ $24\sim5$ /1、計 12 回)。
- ・ 例年第1クォーターに実施される全学共通授業科目「情報基礎」は、本年度 BEEF (神戸大学 LMS) を活用したオンデマンド教材の提供により実施された (詳細は<情報基礎>の項目にて報告)。
- ・ 前年度まで対面で行っていたガイダンス等を Web 会議システムやオンデマンド教材での実施とした (詳細は<初年次セミナー><ガイダンス等>の項目にて報告)。
- ・ 附属図書館 Web サイトによる学修・研究支援として、自宅等から使える図書館サービスの案内、遠隔授業に関わる著作権や授業の実践例に関するまとめページを作成した。

<情報基礎>

- ・ 全学共通授業科目「情報基礎」では、平成 20 年度より 1 コマ (90分)が「情報の活用」にあてられ、図書館職員が担当している。本年度は 6 月を中心に実施し、学部新入生全員に補講受講者を加えた 2,628 人が受講した。
- ・ 担当当初から、情報リテラシー係と各館室のサービス係員を中心に構成される「情報リテラシー教育支援 WG」を組織し、WG メンバーで分担して授業を行っている。
- ・ 本年度は、BEEF (神戸大学 LMS) を活用したオンデマンド型遠隔授業として実施するため、授業 内容をまとめた動画教材を作成し、附属図書館公式 YouTube チャンネルから公開した。課題レポートは非来館型の内容とし、授業の質問は専用のフォームから受け付けた。
- ・ 授業内容は、図書館 Web サイトや各種 Web サービス、データベースの紹介をはじめ、OPAC と CiNii Books を使った検索実習の他、資料の引用方法等、初歩的な内容としている。本年度から電 子ブックの説明等を追加し、来館せずに利用できるサービスの周知に努めた。
- ・ ちからだめし(授業内容に関する質問)は前年度より正解率が上昇し、全クラスにおいて全ての設 問で8割以上の正解率となった。
- ・ 授業後の受講生のアンケート結果は、全ての項目で肯定的な選択肢への回答が95%前後となっており、概ね好評であった。
- ・ 授業後の受講生のアンケートや教員からの意見等を踏まえ、次年度に向けて、授業内容やテキスト・ 課題・理解度テストの再検討を行った。

く初年次セミナーン

- ・ 平成 28 年度より設けられた各学部専門科目「初年次セミナー」では、各館サービス係が中心となり、教員の希望に沿った図書館ツアーや検索ガイダンスの計画、実施を担当している。
- ・ 本年度は第1クォーター(5/7~6/25)が全面的に遠隔授業となったため、以下の通り、教材の提供等を行った。動画は附属図書館公式 YouTube チャンネルから公開した。

実施日	内容	対象学部	授業形態
5 月	図書館の利用案内(動画、PDF 教材の提供)	国際人間科学部	遠隔
6/19	図書館の利用案内、	文学部	遠隔
	雑誌論文の探し方、電子資料の探し方(PDF 資料の提供)		
11/27-12/25	社会科学系図書館ツアー(計 17 回、133 名参加)	法学部	対面

<ガイダンス等>

- ・ 情報リテラシー係と情報リテラシー教育支援 WG メンバーが中心となり、以下のガイダンス等を実施した。
- データベース説明会はベンダーに外部講師を依頼して実施した。その他は職員が講師を務めた。
- 実施形態は、対面またはリアルタイムでの遠隔実施、オンデマンド型資料の提供がある。
- ・ 例年開催している図書館主催ガイダンスは中止し、ガイダンス内容をコンパクトにまとめた動画を 6 本作成した。セルフラーニング資料として、図書館公式 YouTube チャンネルで公開している。

◆対面·遠	◆対面・遠隔(リアルタイム型)							
実施日	内容	回数	人数	場所				
4/1	経営学部編入生オリエンテーション	1	18	六甲台本館				
5/8	雑誌論文の探し方	1	41	Zoom による遠隔実施				
5/12	阪神淡路大震災について調べる(震災文庫の紹介)	1	102	Zoom による遠隔実施				
9/18	雑誌論文の探し方、参考文献の見方・書き方、引用方法	1	1	Zoom による遠隔実施				
12/11	企業データベース「eol」	1	12	Zoom による遠隔実施				
	合計	5	174					
◆遠隔(才	ンデマンド型資料提供)							
実施日	内容							
4月-7月	依頼者(教員)の希望内容に沿ったオーダーメイド・ガイダンス(雑誌論文の探し方等、6回)							
12/14-21	企業データベース「eol」							

<パスファインダーKULiP>

- ・ 平成 25 年度より、図書館による学修支援の一環として KULiP (Kobe University Library Pathfinder)を運用している。授業シラバスに沿った指定書や、授業内容に関連した資料を担当教員のコメント付きで紹介する「授業資料ガイド」に、「資料/情報の探し方ガイド」「セルフラーニング(セミナー・ガイダンス等配布資料)」を加え、総合的パスファインダーとして発展させてきた。本年度は授業資料ガイドを 24 件作成(累計 60 件)した。また、セルフラーニング資料を 9 件作成(累計 30 件)した。
- ・ これまで「授業資料ガイド」で設置する図書は1冊貸出可、1冊貸出不可としていたが、本年度は 教員の希望があれば2冊とも貸出可とした。

くチャットによるレファレンス>

- ・ 大学への入構制限等に対応した新規サービスとして、チャットによるオンラインレファレンス(利用案内/参考調査)受付を実施した。国内の大学図書館としては早い取り組みだったため、国立国会図書館のカレントアウェアネスで取り上げられた他、他大学から導入方法に関する問い合わせがあった。
- ・ 図書館の利用に制限が多かったこともあり、質問の多くが開館有無や利用可否の問い合わせであっ

たが、電子ジャーナルや VPN の使い方のような、Web 上でのリアルタイムの回答が有効なものも見られた。

- ・ 利用者にとっては来館やメール送信による問い合わせよりも敷居が低いことから、このサービスは 次年度も継続とした。
- ・ 本年度(5/25~3/31)のチャットによるレファレンス実績は以下の通りである。

問い合わせ項目	件数
1. 施設案内	2
2. 学内所在調査	4
3. 文献調査	11
4. 端末関係質問	2
5. 図書館サービス案内	119
6. その他	8
合計	146

<広報>

- ・ ガイダンスやイベントの情報は、ポスター、チラシ、図書館や大学 Web サイトのお知らせ、ツイッターなど、さまざまな媒体を通じ、広く発信することを心掛けている。
- ・ 平成 27 年度より運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視するとともに、各館のユニーク な発信を心がけている。とくに災害による臨時閉館やシステム停止など速報性が重要視される告知 において重要なツールとなっている。

◆評価と課題

17年目に入った必修科目「情報基礎」は、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができるだけでなく、図書館利用者の教育という面でも大きな効果を得ている。本年度はオンデマンド型遠隔授業となったため、授業内容をまとめた動画教材を作成したが、前年度に比べ、授業内容を問う「ちからだめし」の正解率が上昇した。また授業後のアンケートでは、動画が分かりやすかったという回答が多数見られた。授業の内容は前年度の意見等を踏まえて改善を続けており、さらに本年度は、来館せずに利用できる電子ブックの説明を追加する等、実施年度の状況に合わせた修正を行った。

「初年次セミナー」は 5 年目となり、授業で図書館を活用できることが教員に認知されつつある。本年度は予定されていた図書館ツアーの多数が中止となったが、遠隔授業のための教材を提供する等、柔軟に対応した。「情報基礎」と共に、新入生が図書館利用法を学ぶ貴重な機会となっており、さらに多くの授業へ拡充していくよう教員への広報に努めたい。

図書館主催ガイダンスは実施せず、例年の内容をコンパクトにまとめた動画を作成し、セルフラーニング教材として公開した。今後はガイダンスの実施とともに、これらセルフラーニング教材の周知も行いたい。また外部講師によるデータベース説明会は、2件開催した。

オーダーメイド・ガイダンス/ツアーは、学科・専修単位で毎年実施している例もあり、専門分野における情報リテラシー教育支援の一例として、今後も継続する意義がある。授業実施形態の変更により教材の提供のみとなったものもあるが、オーダーメイド・ガイダンスでは、依頼者が所属する学部・研究科のサポート館職員が講師を担当するようにしており、職員の教育能力向上に資する機会ともなっている。教員への広報を工夫し、広く活用してもらえるよう努めたい。

パスファインダー「KULiP」の「授業資料ガイド」については、参加授業数が前年度から減少した。 これは新規の参加授業数が前年度より少なかったためで、教員に対する更なる周知が必要である。 本年度から開始したチャットによるオンラインレファレンスは、回答を受け取るまでの時間が短く、 利用者にとって気軽に利用できるサービスのため、今後も継続していきたい。

3. 学術研究支援

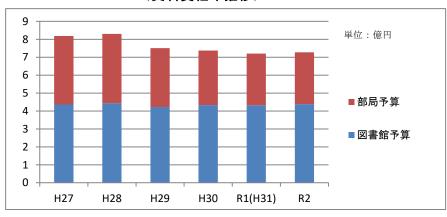
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は<付録>基本統計表のとおりである。

く資料受入状況>

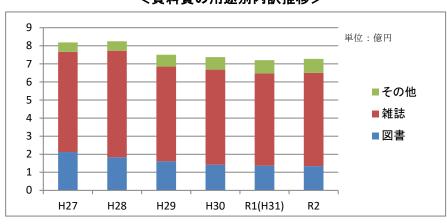
- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料費は、約7.27億円で令和元年度とほぼ同額となった。
- ・ 図書館予算分 (電子ジャーナル・データベース等の提供維持経費「教育研究基盤資料整備費」を含む) は約4.38 億円となり、令和元年度から約0.06 億円増となった。これは平成27 年度比で約0.01 億円の微増である。また部局予算分は約2.89 億円となり、令和元年度から約0.01 億円の微増となったが、平成27 年度比で約0.9 億円減少した。

く資料費経年推移>



- * 教育研究基盤資料整備費は 図書館予算に含む
- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料の用途別では、図書が平成 27 年度比で約 0.79 億円減少し、雑誌 (教育研究基盤資料を含む) が約 0.37 億円減少した。
- ・ 本年度は、神戸大学の事業を支援することを目的として大学機能強化支援資料費を計上し、教員と 連携して V.School 関連図書 (11 冊)・SDGs 関連図書 (7 冊)を選書購入し、総合・国際文化学図書 館に配架した。

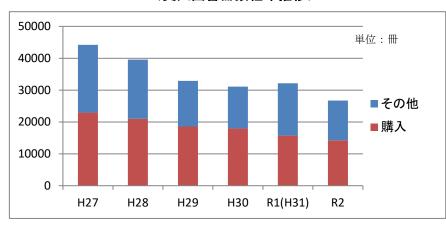
<資料費の用途別内訳推移>



* 電子ジャーナル等は雑誌として計上

・年間の受入図書冊数(購入)は図書購入費の減少に比例し、平成27年度比で約0.9万冊減少した。また製本予算の縮減も影響して年間4万冊以上あった総受入図書冊数は約2.7万冊となった。

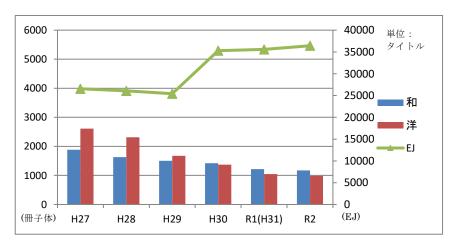
<受入図書冊数経年推移>



*「購入」は一般財源のみ、 科研費等は「その他」とした

・ 雑誌 (冊子) 購入タイトル数は約 2,200 タイトルとなり、令和元年度から約 100 タイトル減となった。和雑誌は平成 27 年度比で約 38%減、洋雑誌は同じく約 62%減となった。一方、電子ジャーナルタイトル数は平成 27 年度比で約 38%増の約 3.6 万タイトルである。

<購入雑誌数経年推移>

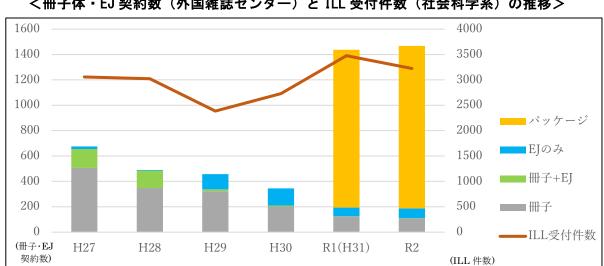


<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和 61 年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館 以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している(配架は社会科学系図書館)。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学で分担収集を行っている。
- ・ 平成 20 年度の外国雑誌センター館会議で、従来の冊子に加え電子ジャーナルもセンター館誌として収集の対象とすることが確認された。
- ・ 本年度の外国雑誌センター予算は、附属図書館予算の約1割を目標とし、27,000千円(令和元年度 と同予算額)を確保した。

- 令和元年度からは、国内で導入実績の少ない 人文・社会科学系の電子ジャーナルパッケージ (SAGE, EMERALD, CAIRN) について、 外国雑誌センター予算からの経費負担を増や してパッケージ購読を開始し、本年度も継続 維持することとした。
- ILL 複写サービスについては、他機関からの 複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により 外国雑誌センター館としてのサービス体制を 継続している。

		R1(H31)	R2
SAGE	契約誌数	552	569
	アクセス数	15244	14144
EMERALD	契約誌数	212	213
	アクセス数	9633	8924
CAIRN	契約誌数	480	499
	アクセス数	675	529



<冊子体・EJ 契約数(外国雑誌センター)と ILL 受付件数(社会科学系)の推移>

◆評価と課題

第3期中期計画後半(令和元~3年度)の教育研究基盤資料整備費について、部局等への補填割合 を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向で平成30年5月の部局長会議で承認を得た。 その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」約3.67億円(決算ベース)が措置され、電 子ジャーナル及びデータベースは平成27年度の契約規模を維持することができた。また令和3年度 の所要額(見込)は、円高の影響で約0.07億円減の約3.6億円を予定している。

第4期中期計画前半(令和4~6年度)の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和 2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は令和元年度より約428万円減(1.6%減)の予算となった。この附属図書館予 算の減額により、図書資料費の確保が困難となっているが、本年度は令和元年度と同額の約0.72億円 の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

本年度は、神戸大学の事業を支援することを目的として大学機能強化支援資料費を計上し、教員と 連携して V.School・SDGs 関連図書を選書購入し、総合・国際文化学図書館に配架した。

外国雑誌センター予算については、令和2年度附属図書館予算の約1割を目標とし、令和元年度と 同予算額(27,000 千円)を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やした ことにより、EJ 利用数や ILL 受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測でき る。外国雑誌センター館の責務として国立情報学研究所目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に所 蔵情報を提供し、全国からの利用に対応する体制をとっている。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
ScienceDirect (Elsevier)	全分野	H14	2.300	1995~	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション(うち約 2,000 誌は創刊号から)
SpringerLINK (Springer Nature)	多分野	H14	1,600	2000~	主要部分は創刊号から
Wiley Online Library (Wiley)	多分野	H14	1,400	1997 前後~	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
JSTOR	自然科学 及び社会 科学	H14	1,500	創刊号〜 (最近3〜5年 は対象外)	Arts & Sciences I (H14~) Arts & Sciences II (H17~) Arts & Sciences III (H19.3~) Arts & Sciences IV (H18.3~) Arts & Sciences V (H23.1~) Arts & Sciences VI (H23.1~) Arts & Sciences VII (H23.1~) Arts & Sciences VIII (H23.1~) Arts & Sciences IX (H23.1~) Life Sciences (H15~) Business III (H23.1~)
Nature および関連誌	自然科学	H15	27	創刊号~	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	1997~	
APS	物理系	H16	10	創刊号~	米国物理学会
Cell Press	生命科学	H16	9	1995~	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	11	1996~	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	59	創刊号~	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	270	1996~	2014 年時点のほぼ全タイトル(一部は創 刊号から)
Cambridge University Press	多分野	H18	410	1997~	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
AAS Historical Periodicals Collection	多分野	H29	4,000	1684~1912	アメリカ古書協会
Academic OneFile	多分野	H30	9,700		
General OneFile	多分野	H30	9,600		
Cairn.info	社会科学 人文科学	H30	500	2001~	フランス語の学術雑誌
Emerald	社会科学	R01	210		Management eJournal Portfolio
SAGE	社会科学 人文科学	R01	570	1999~	PHSS2014

その他、単体で購読しているもの等も加えて、本年度末における電子ジャーナル購読数は36,418タイトルとなっており、令和元年度の規模を維持している。

各電子ジャーナルの利用状況は「電子的情報サービスの現況 (R02 年度)」のとおりであり、総体として非常によく利用されている。

本年度における電子ジャーナル等の提供内容は次のとおりである。

(1) 電子オンリーの包括利用契約

大手 5 社 (Elsevier、Wiley、Springer Nature(Springer Link)、Oxford University Press、Cambridge University Press) 発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナルの多くのタイトルが利用できる電子オンリーの包括利用契約を行っている。

(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、教育研究基盤資料整備費から、当該雑誌購読所要額の5%を補填している。

2021年外国雑誌の契約は、点数・契約金額とも前年よりも減少している。

2020 年契約点数 1,117 点

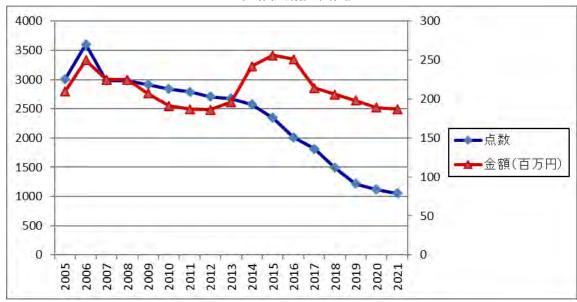
→ 2021年 1,050点 (6.0%減)

2020 契約金額

約 189 百万円 → 2021 年 約 187 百万円

(1.2%減)

<外国雑誌購読数推移>



〈データベースの整備〉

主な導入データベースは次のとおりである。(全てウェブアクセス)

	分野	導入年	範囲	備考
Web of Science Core Collection	全分野	H15	1900~	H15 SCIE 導入 H21 SSCI, AHCI 追加 H22 バックファイル追加 H29 Citation Connection 追加
Journal Citation Reports	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940~	
SciFinder ⁿ	化学	H16	1840~	R02 SciFInder より移行 利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	Н6	1983~	H18.4 より Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	Н3	1969~	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	Н3	1981~	同上 同時アクセス 1

Business Source Premier	経営学	H22		
PsycINFO	心理学	H22		
PsycARTICLES	心理学	H22		
CINAHL	看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis	法学	H22		R02「Lexis Advance」より名称 変更 利用申請が必要
Westlaw International	法学	H22		
OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」より名 称変更
医学中央雑誌	医学	H5	1983~	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5~	同時アクセス 1
日経テレコン 21	新聞記事等	H18	1975~	H19.7 より全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 5 H28 からアクセス数 1 追加
*ざっさくプラス	国内雑誌記事	H26	1867~	同時アクセス 1 H28 MAGAZINEPLUS から切替
*JDreamIII	科学技術· 医学·薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1879~	同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874~	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872~	H23「毎日 News パック」より名 称変更 同時アクセス 2
*ナクソス・ミュージックライブラリー	音楽	H26		同時アクセス 5

- ・タイトル先頭に*を付したものは「e-study資料費」により契約している。
- ・各データベースの利用状況は<付録>電子的情報サービスの現況(R2年度)のとおりである。

<電子ブックの整備>

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである。(全てウェブアクセス)。利用可能な総冊数は本年度末現在で約4万冊である。

	分野	購入年度	タイトル数
**EBSCO eBooks	多種	H22-(随時)	750
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**Maruzen eBook Library	多種	H26-(随時)	1,500
**Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、 宗教学、言語学	H22 ,H27	146
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21
*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	5,000
*群書類従(正・続・続々)	国文学、国史	H27	

*鎌倉遺文	国史	R01-R02	
-------	----	---------	--

注)*部局予算による購入 **部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者(大学院生を含む)にとって、今や必要不可欠な学術情報基盤である。神戸大学では平成17年度および平成20年度に出された2つの附属図書館審議会答申に基づき電子リソースに関わる基盤整備を行っている。また、基盤整備に充当する教育研究基盤資料整備費のあり方について、中期計画期間の前半・後半各3年間を単位として検討の上、整備にあたっているところである。

今期中期計画期間(平成 28 年度~令和 3 年度)においては、原価の上昇や為替の変動による価格の変動に対応し、教育研究基盤資料整備費から特定主題に係る電子ジャーナル・データベースや共同利用が可能な外国雑誌への補填率を段階的に引き下げ、必要なコンテンツの購読を維持するための拠出経費を確保してきた。

令和 4 年度~令和 6 年度の次期中期計画期間前半においては、令和 3 年度までの購読内容を維持し、経費節減の効果が見込めるものについては複数年契約を行うこととし、部局長会議(令和 2 年 10 月)にて承認を得たところである。

電子ジャーナルの価格上昇への対応が基盤整備において長年にわたる大きな課題となっているが、 国際的には、アクセスを確保するため購読料を負担するモデルから出版費用を拠出し論文をオープン アクセスとするモデルへの転換を図る動きが現れており、国内でも関心が高まりつつある。今後はこ のような転換も視野に入れ、学術情報流通全体の中で基盤整備のあり方を捉え直していく必要がある。 電子ブックについては、本学においては図書館予算より部局予算による購入が中心であるが、その 中でも EBA モデル*のような利用者の要求を反映した購入を進めているところである。また、国内出 版物の電子版の提供も増加しており、このような状況の変化への対応が必要となっている。

注) *EBA(Evidence Based Acquisition)モデル

出版社の全タイトルもしくは特定のコレクションを対象として有料トライアルを実施し、トライアルの終了後に、利用実績を参考にしてトライアルの金額の範囲内で実際に購入する(恒久アクセス権を取得する)タイトルを選択する契約モデル。

(3) 蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- ・ 目録遡及入力は平成 4 年度から事業を開始、学内予算措置や外部資金を得て、第 2 期中期計画最終年度の平成 27 年度に全蔵書のうち館室配置図書の入力を完了した。その後も第 2 期中期計画の 遡及入力事業対象外であった資料群の所蔵データ入力に努めている。
 - 特に和古書は、拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。
- 令和2年度計画
 - 令和2年度は、継続して登録作業を行っている社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫(和古書) と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書と漢籍、人間科学図書館所蔵の和古書について入力を計画 した。

· 令和 2 年度実績 9,438 冊

研究室戻り, 製本雑誌等		各館室	8,358 冊
特殊資料	マイクロフィルム	社会科学系図書館	8 点
	和古書	社会科学系図書館、人文科学図書館、自	799 ⊞
		然科学系図書館、人間科学図書館、研究	
		所図書館	
	漢籍	人文科学図書館	58 冊
	洋古書	社会科学系図書館、自然科学系図書館	215 冊

◆評価と課題

令和2年度は計画通り、社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫(和古書)と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書と漢籍、人間科学図書館所蔵の和古書を入力し、加えて自然科学系図書館から発見された武田五一旧蔵の和古書、洋古書を入力した。今回入力した和古書のうち、多くの資料が新たに国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業の電子化対象となった。入力冊数は新型コロナウイルス感染拡大防止措置による在宅勤務や貴重書庫への入室制限の影響を受け、前年度より減少した。

現在、蔵書数約378万冊のうち約328万冊の所蔵データが入力済みで、全蔵書の約87%がOPACで検索できるようになっている。残る未入力冊数は約49万冊である。

特殊資料は入力に専門知識の習得が不可欠であるが、研究上重要な資料が多数ある。今後も未登録 データ入力によって一層の利用者へのサービス向上、図書管理業務の効率化が期待される。

(4) 資料の保存

<資料保存における問題と対策>

・附属図書館全館室の資料整備に係る調整を行い、有効的な蔵書構成を図ることを目的に情報管理課に 資料整備グループ整備担当を設置し、職員1名(係長)を充てた。

【令和2年度第2回附属図書館運営委員会(令和2年11月5日開催)にて承認】

・資料収容力確保のためインターネットで入手可能な資料の整理について、過去の電子ジャーナルへの アクセス権が本学にあるものに収録された冊子体の除籍が可能となるよう「資料収容力の確保のため の整理指針(平成24年度第7回附属図書館運営委員会承認)の内容を改正した。

【令和2年度第2回附属図書館運営委員会(令和2年11月5日開催)にて承認】

- ・資料整備グループ整備担当を中心に各館室の意見集約を行い、附属図書館全体および各館室において 整理作業を進める際の実務上の留意点を示した「資料収容力確保策に関する実務指針(令和3年3月 31日附属図書館事務部長承認)」を策定した。
- ・社会科学系図書館貴重書室の空調を更新し、過去にカビの発生した天井部分の補修も実施した。また 社会科学系図書館の書庫に除湿器2台を新設し暗幕を設置するなど資料保存の環境整備に努めた。
- ・海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計47点について神戸大学海事科学振興財団より助成を受け

資料保存の目的にて電子化を行った。(画像 1,405 枚)

・拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク 構築計画」事業のデータベース構築準備関連の修復については「4.社会連携・情報発信」の「(3) 電子図書館システムによる情報発信 」に記載。

◆評価と課題

前年度に全館室の棚数調査を実施した結果、館室により書架の使用率は異なるものの、全体の平均は約90%であり、今後の年間増加冊数を考えると約10年後には100%となる見込みであることから附属図書館の資料収容力については早急に対応する必要があることが改めて確認された。

本年度は資料収容力確保のため「整備指針」の改正と「実務指針」の見直しを行い、附属図書館全体の資料整備を担う部署として情報管理課に資料整備グループ整備担当を設置するなど資料保存における具体的な対応策に取り組んだ1年となった。

今後は資料整備グループ整備担当による附属図書館全体および各館室における整理作業計画のとりまとめや調整、作業の進捗管理や必要に応じて他館室への作業応援や人員調整など、体系的な資料整備が進むことが期待される。加えて、自然科学系図書館の増築改修事業が採択され、増築部分に共同利用書庫が新設されると書庫スペース狭隘化の解消に繋がる。突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなど想定外に備えて、なお一層の書庫環境の保全維持、資料保存の適切な環境整備に努めていく必要がある。

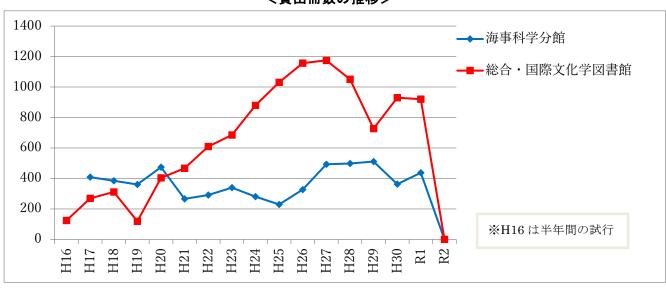
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

<一般市民の図書館利用>

• 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置として学外者の入館は前年度3月以降、原則不可となり、利用登録者数は0名、貸出冊数は0冊になった。

<貸出冊数の推移>



<展示会の開催>

・デジタル資料展「古典籍さまざま~近世の出版物より~」

平成30年度に開催した資料展の内容を、附属図書館のHP上で公開した。

内容: 附属図書館が所蔵する古典籍のうち、主に江戸時代に出版された刊本の中から、科学・技術と 文学・戯作に関するものを選んで、それぞれ以下のサブテーマを付して紹介した。

- 1) サイエンス事始
- 2) 庶民の教養と娯楽
- ・ 本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置で学外者の入館を不可としたことに伴い、社会科学 系図書館展示ホールでの資料展の開催は中止とした。
- ・ その代替として、HP上での上記デジタル資料展を、10月1日より公開した。
- ・ 説明パネルに記載した解説文と画像を HP に掲載し、紹介した古典籍の本文画像(附属図書館のデジタルアーカイブで公開)へのリンクも掲載した。
- 10月1日の公開以降、3月末までに、3,111件アクセスがあった。

<学内巡回展、その他の展示、他組織主催の展示の受入等>

- ・ 令和元年度資料展「阪神・淡路大震災 25年 あのときとこれから」の学内巡回展(パネル展)を、神戸大学海事博物館で令和 2 年 3 月中旬から 4 月の会期で予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止措置で海事博物館が休館となったため、結局中止となった。
- ・ 阪神・淡路大震災の発生した 1 月 17 日にあわせて例年実施している、震災資料展のリバイバル展示は中止とした。
- ・ 海事博物館や人文学研究科と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の展示受入も中止と した。

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービス開始以来、総合・国際文化学図書館では平成 19 年度に改修工事の影響で一時的に貸出冊数は落ち込んだものの、その後は増加を続け平成 28 年度からの減少傾向も前々年度から回復の兆しがあり、海事科学分館では平成 21 年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態が続いたが、平成 27 年度から増加傾向にあり平成 29 年度は過去最高の貸出冊数となるなど、館室・年度によって増減はあるものの全体として地域社会への貢献活動のひとつとして定着していた。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しい年となった。

資料展については、新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、展示ホールでの催しは全て中止となった。展示を通じた地域・社会貢献が目的であるので、この状況ではやむを得ないと考える。

その代替として、このたび初めてデジタル資料展を公開した。所蔵古典籍の紹介に加えて、デジタルアーカイブの紹介としても、意義はあると評価する。

新型コロナウイルスをめぐる今後の状況は予測がつかないが、デジタル資料展での実施も含め、ウィズコロナの状況下で可能な形態で取組んでいきたい。

(2) 震災文庫

<資料収集と一般公開>

・ 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。921 件(前年度は1,304件)を収集し、資料所蔵総数は6万件を超えた。

・ 阪神・淡路大震災関連の電子ブック 17 件を購入した。

	全件数	R2(R1)		全件数	R2(R1)
	(タイトル数)	新着		(タイトル数)	新着
図書資料	8,646(7,585)	144(108)	地図資料	153(147)	12(0)
雑誌資料	14,103(3,411)	62(51)	動画資料	335(279)	6(4)
新聞•広報誌資料	24,113(12,126)	656(872)	音声資料	110(90)	1(0)
パンフレット資料	6,615(6,442)	16(176)	コンピュータ資料	100(93)	2(0)
一枚もの資料	7,217(7,210)	21(94)	www	11(5)	1(0)
写真資料	113(95)	0(-1)	総合計	61,516(37,483)	921(1,304)

注)雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「件」、同一タイトルを1と数えたのが「タイトル」。

写真資料はコレクション単位(概ね撮影者単位)を1としているため件数が少ないが、写真2万枚強のコレクションも含まれている。

<震災デジタルアーカイブ>

- ・ 地元のローカルテレビ局サンテレビジョンが取材・撮影した阪神淡路大震災当日の映像の寄贈を受け、そのうちの1点「阪神・淡路大震災」(19分06秒)を、1月14日に公開した。
- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータ を継続的に作成している。本年度は 3,190 件を入力し、その結果、データベースのレコード総数は 30 万 2 千を超えた。
- · 著作権の許諾が得られた資料 25 点をデジタル化公開した。
- ・ 各機関から、防災に関する教材作成や阪神淡路大震災関連のテレビ放映等のための転載許可願が写真を中心に8件(前年度20件)あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 平成 21 年 1 月より開始した人と防災未来センターと震災文庫の「震災資料横断検索」は兵庫県立 図書館を加えて 3 機関での横断検索を継続中であり、データ受領時に更新を行った。(人と防災未来 センター: 4,8,10,3 月、兵庫県立図書館: 7,2 月)
- ・ 平成 24 年 10 月に連携を開始した「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (愛称:ひなぎく)」 に継続してデータを提供している。

<震災文庫の活動>

- ・ 総合教養科目の「阪神・淡路大震災 A」にて、102 名の学生を対象に震災文庫に関する説明を行った。
- ・ 令和 3 年 2 月 22 日に、「第 10 回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を人 文学研究科と協力してオンラインで開催し、会には計 32 名が参加した。

◆評価と課題

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により前期は閉室、後期は事前予約制(学内者のみ)での利用に制限したため、来館者数は大幅に減少した。そのほか、サンテレビジョンとの連携を開始し、同社が撮影・制作・保存している阪神・淡路大震災当時の取材映像を受贈することとなった。提供を受けた映像は、閲覧提供および電子化公開を行うために「肖像権ガイドライン案」(デジタルアーカイブ学会公表)を参考に、サンテレビジョン、人文学研究科地域連携センターの三者で検討を進め、1月に映像1件をデジタルアーカイブで公開した。今後も、三者で協力し映像の閲覧提供およびデジタルアーカイブでの公開を進めていく。

課題として、さらなる活用促進のための活動の実施のほか、運用方針の見直しが挙げられる。これま で震災文庫では、一般公開できる資料のみを収集対象としてきたが、個人情報保護等の観点から一般公 開が難しい資料の受入・運用についての検討が必要である。また、平成30年度覚書を締結したハーバ ード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「日本災害 DIGITAL アーカイブ」とのシステム連携 について、引き続き調整を進めていく。

25000 20000 15000 ■学内 10000 ■学外 5000 0 H27 H28 H29 H30 R1(H31) R2

<震災文庫トップページアクセス数経年推移>

※H28.9 図書館システムリプレース

(3) 電子図書館システムによる情報発信

<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築・運用>

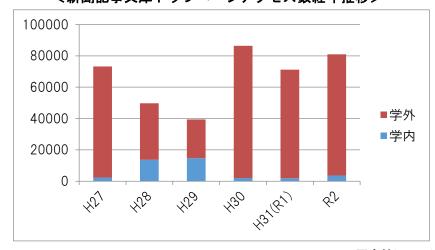
- 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、 本学には平成10年度補正予算で措置され、平成11年から稼働している。法人化後は電子図書館事 業費として学内経費化され、運営を続けている。
- 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を3本柱に事業を推進し、デジタル化した資 料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開 促進費 (平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27,28,30 年度 戦前期新 聞経済記事文庫に措置)を充ててきた。
- コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。
- 平成31年1月より、一部のコレクション(本年度末時点で19コレクションが対象)の画像につい ては、従来必要だった申請手続を廃して、自由に二次利用可能とした。これらについては利用時の 報告を任意で依頼しており、本年度8件の報告があった。それ以外にも、各機関から転載申請が21 件あり、許諾回答した。
- 令和2年のFlash サポート終了に向け、住田文庫について、Flash を使用しない形への変換を実施 した。これにより Flash サポート終了への対応は完了した。

<経済関係資料および貴重書・稀覯書のデジタル化>

新聞記事文庫(戦前期記事切抜)デジタル化については、科学研究費補助金研究成果公開促進費が 不採択となったため、電子図書館事業経費により、保存用画像作成(33.470 コマ)、公開用画像作 成(45,221 コマ)およびインデックスデータ作成(2,087 記事)を進めた。本年度は前年度に引き 続き学内のワークスタディ制度によりデータ作成作業を実施したほか、館内職員による協力体制も 強化し、公開済記事件数は令和3年3月末で約32万7千記事に達した。なお、平成29年度の作成 分から、全文テキスト化よりも画像・インデックスデータの作成を優先して進めているが、令和 2 年4月から7月までの在宅勤務期間には、館内職員により、新聞記事文庫全文テキストデータ作成も実施した。

- ・ 平成 24 年 5 月より当文庫データベースの「活用事例集」ページを HP 上で公開し、また活用事例 を Twitter で紹介するなど、より一層の普及と有効活用の支援を図っている。
- ・ 平成 24 年 1 月より公開された「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」とは、前身のデジタルアーカイブポータル (PORTA) に引き続いて連携を行っている。
- 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク 構築計画」事業のデータベース構築のため、住田文庫を含む各館古典籍 480 点(1,279 冊)の電子 化を行った。電子化に先立っては計 10 冊の住田文庫資料の修復を実施した(修復費用の一部は国 文学研究資料館から補助を受けた)。電子化した画像は「新日本古典籍総合データベース」より順次 公開される予定である。
- ・ 上記に関連して、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業を通じて設立された「日本古典籍研究国際コンソーシアム」に、附属図書館として参加した(令和3年3月)。
- ・ 住田文庫デジタルアーカイブにて、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネット ワーク構築計画」事業で令和元年度に電子化した 171 点分(16,100 枚)の画像を追加公開した。(これまでに公開した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業撮影資料のうち 136 点の電子化画像公開画面に計 695 件のアクセスがあった。(令和 3 年 3 月末現在)
- ・ 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で令和元年度 に電子化した住田文庫以外の画像 230 点分(41,887 枚)を、附属図書館デジタルアーカイブ『日本 の古典籍』で公開した。これまでに公開した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構 築計画」事業撮影資料のうち 281 点の電子化画像公開画面に計 2,917 件のアクセスがあった。(令 和3年3月末現在)
- ・ 「神戸開港文書」に、メタデータ・画像 169 点、欧文の書簡・文書の翻刻・翻訳 16 点のデータを 追加した。
- ・ 「神戸大学附属図書館所蔵郷土文書類目録」の既存データの更新・画像と翻刻の追加および、292 件 の新規追加を実施した。
- 電子化済の医学分館資料『治験録』の公開を完了した。
- ・ 神戸大学海事科学振興財団より助成を受け、海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計 47 点を、 資料保存の目的で電子化した(画像 1,405 枚)

<新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移>



※H28.9 図書館システムリプレース

<学内研究成果資料デジタル化>

- ・ 機関リポジトリは開設 15 年目となり、令和 3 年 3 月末現在 32,738 件(前年度末 30,723 件) の学 術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・ キク科の染色体数データベース (渡邊邦秋名誉教授作成) のデータ更新を続けている。更新頻度は 月1回、本年度のレコード増加数は 8,491 件で、累計レコード数は 195,200 件である。

◆評価と課題

新聞記事文庫はその規模の大きさと希少性(戦前の記事切抜きはほとんど残っていない)から高い評価を得ており、HPへのアクセス数は継続してデジタルアーカイブ中トップである。本年度は前年度に引き続き学内のデータ作成体制を強化し、電子化を進めることができた。その他にも、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業により住田文庫やその他古典籍の電子化公開を多く進められたほか、学内の人文学研究科地域連携センターの協力により神戸開港文書やその他古文書の整理および電子化公開を実施できた。学内外との協力により、今後もコンテンツを拡充していきたい。

また、今後の課題としては、IIIF や JPCOAR スキーマなどの共通規格に対応した、より利便性の高いデジタルアーカイブの構築が挙げられる。また、電子化画像の保存管理体制整備については、現状の把握から開始したところだが、優先順位をつけて順次対応していきたい。

「学内研究成果」については、従来学術論文は機関リポジトリ(次項)へ、その他の成果はデジタルアーカイブへ登録してきたが、今後は研究データ公開への対応増加も見込まれるため、機関リポジトリとデジタルアーカイブの位置づけの明確化を行いつつ、コンテンツの収集・公開を継続していく。

(4)機関リポジトリによる情報発信

<コンテンツ収集活動>

・ 平成 18 年度に稼動を始めた神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel) は、比較的順調に成長を続けている。令和 3 年 3 月末現在のコンテンツ数は 32,738 件となり、1 年間で 2,015 件増加した。

<機関リポジトリコンテンツ種別件数>

一般雑誌記事	141 (142)	図書	178 (178)
会議発表論文	74 (74)	データセット	5 (5)
紀要論文	20,613 (46,851)	学術雑誌論文	6,653 (6,916)
教材	21 (21)	会議発表用資料	625 (625)
研究報告書	162 (162)	テクニカルレポート	772 (1,193)
博士学位論文	2,887 (11,420)	その他	598 (598)
プレプリント	9 (9)	合計	32,738 (68,194)

注)括弧内は書誌情報のみ(本文ファイルなし)も含んだデータ数

・ 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く論文を公開した。令和元年度以前の授与分も含め、本年度は合計 167 件の本文を公開した。

- ・ 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究 者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- ・ 前年度に続き、オープンアクセス推進 WG を設置した。主な取組として、KUID に登録された論文 情報 2,196 件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち 569 件について著者に登録依頼した。結果、192 件を登録した。

<広報・啓発活動>

- ・ 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第23号、第24号を発行し、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報等を掲載してその周知につとめた。
- ・ オープンアクセス推進 WG メンバーの協力も得て、10 月のオープンアクセスウィークには論文抜き刷り送付用学内便封筒を教員ポストに配布した。
- ・ 登録者へのサービスとして、毎月1回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施している。
- ・ 昨年度に続いて予定していた OA (博士論文インターネット公表) に関するガイダンスは、新型コロナウイルスの影響により概ね中止となったが、1 つの研究科で計 1 回開催し、計 6 名が参加した。 代替方法として教材を作成し、附属図書館 HP で公開した。
- ・ 附属図書館内でオープンアクセスに関する勉強会を1回実施し、合計 15 名が参加した。

<情報収集活動>

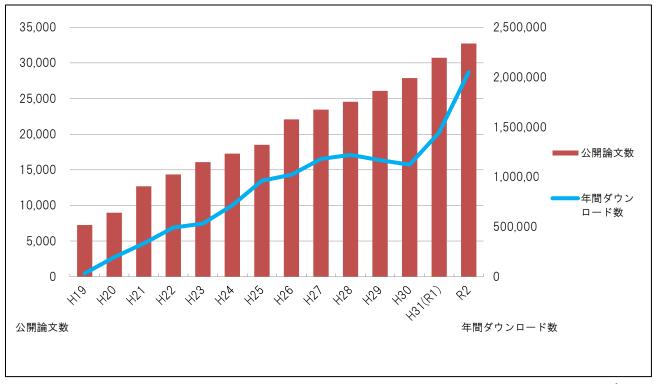
・ 昨年度に引き続き国立情報学研究所が実施する GakuNin RDM 実証実験に参加し、附属図書館オープンアクセス推進 WG にて試行的に使用した。

◆評価と課題

リポジトリ開設から公開論文数は着実に数を伸ばしており、2年度連続で2,000件以上の公開を行うことができた。博士論文のインターネット公表に関する説明会は、新型コロナウイルスの影響で一部を除き中止となったが、代わりに教材の作成と公開を行った。平成30年度以降に図書館内に設置した「オープンアクセス推進WG」で論文の公開ポリシー調査を行うことで、リポジトリでの学術論文の公開を着実に進めることが出来ているため、今後もこの取り組みを継続していきたい。

課題としては、平成29年1月に学長裁定となった「神戸大学オープンアクセス方針」のさらなる周知とオープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報発信、JPCOARスキーマへの対応、研究データの管理・公開体制整備に向けた情報収集および検討が挙げられる。

<Kernel 公開論文数及びダウンロード数推移>



※H28.9 図書館システムリプレース

(5) 国際連携

く海外派遣>

-国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外渡航および海外からの来日が著しく制限されており、国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)への応募は見送ることとなった。

<その他>

・日本古典籍研究国際コンソーシアムへの参加

神戸大学附属図書館として令和3年3月から登録参加した。日本国内に限らず世界の機関・大学・図書館の参加も多く、時間と場所を選ばないWeb形式での活動が中心であり、連絡窓口として職員1名が担当している。

◆評価と課題

本年度は海外へ職員を派遣することは叶わなかった。しかし、Web という時間と場所を選ばない方法により、国内外の機関と連携し活動する場が広がりつつある。

国立大学図書館協会海外派遣事業への応募・採択は前年度まで5年連続であった。毎年の調査テーマも多岐にわたっており、それらの成果は職員研修会や海外派遣事前勉強会にて館内に共有している。派遣者個人の資質の向上とともに、館内に海外での調査研究・発表の経験やノウハウが蓄積され、次の海外派遣へとつながっているので、次に海外渡航が可能となった場合に備えて用意をしておくことが重要である

海外派遣事業をはじめとする国際連携は、グローバルな視点を持って大学図書館を担っていく職員の

育成のために非常に重要である。しかしその実現には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

<u>5.管理運営等</u>

(1)図書館組織と運営

<管理運営全般>

前年4月より部局長経験者である冨山明男館長(工学研究科教授)がその任に当たっている。3名の副館長の役割分担も前年度より継続しており、副館長及び役割分担は以下のとおりである。

- · 末廣英生副館長(経営学研究科教授):社会科学系図書館、広報担当
- ・ 喜多 隆副館長(工学研究科教授) : 自然科学系図書館、基盤センター運営委員
- ・ 緒形 康副館長 (人文学研究科教授): 評価担当、国際交流担当 また、医学分館長、海事科学分館長も前年度より継続している。

<館内諸会議>

*開催日時、議事内容等は、<付録>附属図書館諸会議 に掲載

① 附属図書館運営委員会

・ 本年度は 4 回開催した。第 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議となり、 第 2 回~第 4 回は Web 会議による開催となった。

② 附属図書館長·副館長·分館長懇談会

・ 本年度は 4 回開催した。第 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議となり、 第 2 回~第 4 回は Web 会議による開催となった。

③ 附属図書館評価委員会

・ 本年度はメール回議にて2回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 本年度は電子化部会をメール回議にて1回開催し、令和2年度電子図書館事業計画(案)について協議した。また新聞記事文庫の科研費申請に係る書類作成や、令和4年9月予定のシステム更新における次期システム検討において、室員の教員より意見・助言を得た。
- ・ 震災関連資料の保存・公開等に係る事項の検討を目的として、電子化部会に震災関係資料小委員会を設置した(令和2年12月1日付で設置要項を改正)。
- ・ 教育研究支援部会の懇談会を Web 会議にて 3 月 23 日に開催し、本年度と次年度の図書館サービス、図書館 Web サイト「遠隔授業に関する情報」ページ公開について、室員の教員と意見交換を行い、助言を得た。

⑤ 附属図書館係長会議

・ 本年度の開催はなかった。

⑥ 附属図書館情報サービス課連絡会議

新型コロナウイルス感染拡大防止における各館室の開館やサービス実施における検討・調整を

行うため、4 月 23 日に初めて開催し、その後も月 2 回程度の頻度で定例化した。本年度中は Web 会議にて 23 回開催した。

<教育研究基盤資料の充実>

大学全体の予算は厳しさを増しているが、第3期中期計画期間後半(令和元~3年度)の教育研究基盤資料整備費全体については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持することが平成30年5月の部局長会議で承認されている。その承認に基づき、本年度は3.67億円(決算ベース)が措置され、中心となる電子ジャーナル及びデータベースについては平成27年度の予算規模を維持することが出来た。

第 4 期中期計画前半 (令和 4~6 年度) の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、令和 2 年 10 月 8 日の部局長会議において、上限 4.1 億円として承認を得た。

<大学文書史料室>

平成30年度から学長直下の室として独立したが、事務は引き続き附属図書館が担当している。

<神戸大学出版会>

事務担当部局として出版会運営委員会をメール回議にて1回、出版会出版委員会をメール回議2回を含め5回開催した。

◆評価と課題

附属図書館運営委員会においては、例年教育研究基盤資料の整備が懸案事項となっている。第3期中期計画期間後半(令和元~3年度)の教育研究基盤資料整備については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向が平成30年5月の部局長会議にて承認されている。さらに、第4期中期計画前半(令和4~6年度)の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。しかしながら、所要額の上昇、大学予算の削減等により依然として非常に厳しい状況が続いており、今後の整備方針の検討が課題である。

研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員より意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

新型コロナウイルス感染拡大防止への対応では、状況の変化に応じてその都度対応が迫られることが多いなか、情報サービス課連絡会議の開催により、各館の開館やサービス実施について足並みを揃えて対応することができた。今後も、各館室の問題や状況を共有することにより、均一のサービス提供や問題点の解決につながることから、連絡会議等の開催は有効である。

大学文書史料室は平成30年度から、学長直下の室として独立したが事務は引き続き附属図書館が担当している。また、神戸大学出版会についても事務を担当し、本年度は新刊書を4冊刊行した。

(2)事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

・ 人事異動は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で 7 月異動が 10 月に延期され、本年度は主に4月1日付、10月1日付の2回であった。またその他に期限満了、退職に伴う異動があった。令和2年10月時点で、附属図書館事務部は2課3グループ11係、定員47名、非常勤職員34名の81名であった。また経済経営研究所図書係は、定員3名を配置しているが、経済経営研究所予算で

配置されていた非常勤職員1名が本年度より削減された。

- ・ 平成22年4月に設置した大学文書史料室は定員2名(政策研究職員1名・再雇用職員1名)、非常 勤職員2名を配置している。特に再雇用職員1名は、「平成30年度機能強化のための事務組織再編 検討WG」に人員配置の要望をおこない、令和元年度~令和2年度の2年間、増員配置されていた。 更に「令和2年度機能強化のための事務組織再編検討WG」に人員配置の継続要望をおこない、令 和3年度からの恒久的な増員配置が承認された。
- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、4月に1名を採用した。
- ・ 本年度末日付で、定員職員2名(係長)が早期退職した。
- ・ 令和 2 年 10 月時点の職員の配置状況は、以下のとおりであった。なお、巻末付録には令和 3 年 5 月現在の組織図を掲載している。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	2係	4	4	8
	社会科学系図書館	部長 管理課長·補佐 1グループ 4係	21	16	37
	自然科学系図書館	Tグループ 4kk サービス課長 サービス課補佐 1グループ 1係	8	3	11
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
楠地区	医学分館	サービス課補佐 1グループ	3	4	7
名谷地区	保健科学図書室	1係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1係	3	2	5
		計	47	34	81

六甲地区	経済経営研究所図書館	1係	3	0	3
	大学文書史料室		2	2	4

- ・ 社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、資料整備グループ受入担当・雑誌担当・目録担当・整備担当(10月新配置)は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報管理課の電子図書館係(社会科学系図書館配置)、同情報システム係(自然科学系図書館配置) 及び情報サービス課の情報リテラシー係(総合・国際文化学図書館配置)は、当該業務の全館調整 機能を果たしている。
- ・ 資料整備担当は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、 各館室に配置するサービス担当もしくは情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

< 図書館事務組織改編>

- ・ 「令和2年度附属図書館における事務組織改編」が令和元年度第3回附属図書館運営委員会(令和2年1月29日開催)において承認された。それに伴い本年度10月、資料整備グループ整備担当を新設し専門職員1名を配置した。資料整備グループ整備担当は、全館室の資料整備に係る調整を行う。
- ・ 更に 10 月 1 日付の異動において、医学グループはサービス担当専門職員を減員し、資料整備担当 専門職員がサービス担当を兼務とした。代わりにサービス担当に係員 1 名を新配置した。これによ

- り医学分館は、専門職員1名と係員1名の体制に移行した。
- ・ 「令和3年度附属図書館における事務組織改編」が令和2年度第2回附属図書館運営委員会(令和2年11月5日開催)において承認された。それに伴い令和3年4月1日付で電子図書館係と情報システム係は電子情報グループの各担当となり、あらたに震災文庫担当が設置される。自然科学系グループと医学グループは各館室の情報サービス係となる。

<在宅勤務>

- ・ 2020年3月13日に成立した新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく措置として4月7日に 緊急事態宣言が兵庫県を含む7都府県に発出された。更に神戸大学長から本学構成員に緊急メッセ ージ(4月7日)が発せられ、これを受けて4月10日~6月30日の間、職員の在宅勤務を実施し た。
- ・ 附属図書館職員は、81 名 (計 13,253 時間) が在宅勤務を実施し、在宅による可能な業務及び新聞 記事文庫のテキストデータ作成業務等をおこなった。特に新聞記事文庫は職員約 60 名の協力を得 て、約 3,600 記事のテキストデータ作成が完成した。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で学生雇用ができない中、院生の在宅勤務は認められた。 これを受けて、電子図書館係にてワークスタディ予算で院生 3 名 540 時間の雇用をおこなった。 更に電子図書館事業費で院生 3 名 200 時間の雇用をおこない、計 10,224 記事のインデックスデータ作成が完成した。

<職員の採用と育成>

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、4月に1名を採用した。
- ・ 上記1名の採用者が「兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修」を受講した。しかし「神戸大学新任職員研修」は開催中止となった。(館内研修も実施せず)
- ・ 大阪大学附属図書館と大阪教育大学附属図書館の3館で人事交流を実施中。(係員1名、令和2年 度~令和3年度の2年間)
- ・ 令和2年度から、国立情報学研究所に定員1名を出向(3年間)させている。
- ・ 退職者(令和2年度末)2名の補充として、令和3年4月に準正規職員2名を採用予定である。
- ・ 図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。本年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、より的確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 例年開催される多くの研修が取り止めとなり、大学図書館職員長期研修も1名受講が決定していたが中止となった。しかし秋以降には、Web 形式にて開催する研修が増え、他機関・他団体等の主催する各種研修、主題専門知識の研修等に職員が参加し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

※参加者:「専門職員」→「係長」、「事務員」→「係員」に統一表記

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向け	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/24-25(京都)	係員 1
の基礎研修	神戸大学若手職員研修	神戸大学	11/10-11	係員 2
中堅職員向け	国立大学協会近畿地区支部中堅職員研修	国立大学協会	9/17-18	係員 1
の研修				
管理職向けの 研修	神戸大学係長相当職研修	神戸大学	9/9-10	係長 1

		1	T.	1
	NII 情報処理技術セミナー (認証編)「Shibboleth 環境の構築」	NII	7/16-17(基礎編) 9/3-4(活用編) 9/25(クラウド編)	係員 1 (Web 開催)
	 オープンアクセス新任担当者研修	JPCOAR	10/9(第1回) 10/12(第2回)	係員 5 (Web 開催)
	漢籍担当職員講習会	京都大学	10/5-9(初級) 11/9-13(中級)	係員 1
	第 22 回図書館総合展	図書館総合展運営委員会	11/1-30	係長 3 係員 13 (Web 開催)
四叫类花の末	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)	国立女性教育会館	11/18-19	係長 2 係員 1 (Web 開催)
個別業務の専門的知識のための研修	大学 ICT 推進協議会 2020 年度年次大会	AXIES(大学 ICT 推 進協議会)	12/9-11	係長 1 係員 1 (Web 開催)
	R2 メンタルヘルス II 種試験受験を含む研修	神戸大学	12/10、18	課長1
	目録システム書誌作成研修フォローアップ 研修	NII	12/18	係員 1 (Web 開催)
	NDL レファレンスサービス研修 経済社会情報	国立国会図書館	2/10	係員 1 (Web 開催)
	第 3 回 SPARC Japan	NII	2/18	係員 1 (Web 開催)
	アーカイブズ研修 II	国立公文書館	3/9 のみ部分受 講	室長補佐 1 (Web 開催)
	国立国会図書館 R2 法令·議会·官庁資料 研修	国立国会図書館	3/10	係長 1 (Web 開催)
1 日以内の講 演会・研修会等	 J-STAGE セミナー「ジャーナルから見た研究データ:研究データ公開の意義」 (筑波大学)オンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」 アジア資料目録作成ワークショップウルドウー語編 情報セキュリティに係る研修 (北海道大学)講演会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館にリモートサービス基礎知識」 JPCOAR ニュースレター企画「匿名座談会(仮称)」 	筑波大学、国公私 立大学、国留協道 大学図書館道 大学、東京京京京京京 学、東京はか Web 開催のもの	各半日~1日	管理職を含 め延べ 22

	(+ to the + 1 44) 1 44 (or + 44) 2 12 22	Т
	・ (京都教育大学)大学図書館シンポジ	
	ウム「オンライン授業における図書館	
	の役割」	
	・ ウェブセミナー「Ex Libris アップデート,	
	2021 Winter」	
	・ (東京大学)第 4 回東京大学学術資産	
1 日以内の講	アーカイブ化推進室主催セミナー「使	
演会·研修会等	われるデジタルアーカイブになるため	
	(C)	
	· 第 10 回被災地図書館情報交換会	
	・神戸大学ダイバーシティフォーラム	
	「女性上位職登用と働き方改革」	

・ 上記に加え、附属図書館職員の知識習得を目的として内部研修を次のとおり開催した。

研修名と内容	日 程	参加者数	備 考
令和2年度人事交流における	3/10	16	報告者:係員1名
成果報告会			

<業務の改善と効率化・合理化>

① 業務の標準化・合理化

・係横断的なワーキンググループ(以下 WG) を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。本年度は、総合図書館資料選定委員会(選書 WG)・情報リテラシー教育支援 WG・アウトリーチWG・業務改善 WG・展示 WG・オープンアクセス推進 WG・保健科学図書室リニューアル WGが活動した。次期図書館システム検討 WG は令和 4 年 9 月のシステム更新を前に活動を再開した。図書館リニューアル WG(自然科学系図書館・海事科学分館)は、自然科学系図書館の改修が決定したことに伴い本格的に活動開始した。

② アウトソーシング

・図書装備付納品、電子化コンテンツの作成業務、資産点検業務のアウトソーシングを実施した。 社会科学系図書館・医学分館・保健科学図書室の時間外開館と自然科学系図書館の土・日開館に 係る業務委託については、新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、社会科学系図書館の土 曜開館(5月11日以降)と時間外開館(10月1日~2月8日、19時で閉館)を除いて中止となった。

③ 業務改善の検討

・昨年度に続き附属図書館内での事業として、業務改善 WG を中心に図書館事務部全体で取り組んだ。前年度から継続事項 25 件は 19 件完了で 6 件継続、本年度の提案事項 30 件は 19 件完了で 11 件継続となった。図書館全体に関わる成果として、卒業生・一般市民利用者カードの仕様の見直し、時間外開館要員(学生院生)募集業務の一元化、前年度に続き文書管理の改善における共有フォルダの整理、各館室の各種申込フォームの規格統一や Web 化も含めた見直し(文献複写申込書、訪問利用、入館記入用紙、各種英文併記等)が挙げられる。

◆評価と課題

令和3年度附属図書館事務組織改編を目指し、資料整備グループ整備担当の新設や医学グループの職員体制の見直しをおこなった。特に整備担当による「資料収容力確保策に関する実務指針」(令和3年3月31日承認)が策定された事は、課題である書庫狭隘化に対応した有意義な成果である。

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により在宅勤務を余儀なくされたが、附属図書館では在宅 勤務を利用して新聞記事文庫のテキストデータ作成業務が進んだ事は評価できる。

本年度の前半は新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどの研修が開催を取りやめた。しかし後半になると研修の多くがWeb形式に移行し、以前では予算や業務との兼ね合い等により参加できなかった研修に参加可能となった。職員は積極的に学外の各種図書館関連研修、専門主題に関わる研修を受講し、個々のスキルアップに努めることができた。研修の報告は全職員にメール送付することで成果を共有し、他の職員の能力開発にも役立てている。

ワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。特に保健科学図書室リニューアルWGは、改修コンセプトの策定・部屋レイアウト等の検討・書架及び什器等の選定といった改修に関する企画・検討・提案・作業等をやり遂げ、保健科学研究科をサポートする図書室を完成させた。

アウトソーシングによる効率化については、本年度は時間外開館及び土・日開館業務の外部委託が、 新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い大幅に縮小したが、コロナ後の外部委託維持については、 予算の縮減と委託経費の上昇に対し、実施規模の見直しも含め、慎重に判断していく必要がある。業 務改善については、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

(3)予算及び財務会計業務

<本年度附属図書館予算·決算>

- ① 既定経費(経常運営費·経常事業費)等
 - ・経常運営費は当初予算配分 143,268 千円、途中追加配分と予算組替により 158 千円を加えた結果、最終配分総額 143,426 千円、決算額 135,739 千円であった。前年度の当初予算配分 153,168 千円、決算額 153,841 千円と比較して、いずれも減額となった(当初予算額 R1 予算比 9,900 千円 6.4%減、決算額 R1 決算比 18,102 千円 11.8%減)。
 - ・経常事業費は当初予算配分 113,550 千円、途中館長裁量経費を 8,770 千円減額した結果、最終配分総額 104,780 千円、決算額 111,940 千円であった。前年度の当初予算配分 107,549 千円、決算額 107,274 千円と比較して、いずれも増額となった(当初予算額 R1 予算比 6,001 千円 5.6%増、決算額 4,666 千円 4.3%増)。
 - ・本年度の学生用資料費は、運営費交付金の機能強化促進係数(1.6%)の減額を適用すれば39,714 千円となるところ、当初配分は40,000 千円(前年比360 千円、0.9%減)を維持した。決算額39,225 千円であった。大学文書史料室管理運営経費も前年度から1.6%減の6,317 千円とした。
 - ・図書館内設置の目録検索用端末を更新するため、前年度に研究科長等運用経費として借入れた 2,000 千円の返済のため、400 千円を充てた(5 年返済の 2 年目)。
 - ・平成 29 年度より各部局が施設面積に応じて負担している建物老朽化対策経費 4,124 千円が当初 予算配分より差引かれているが、収入確保インセンティブ経費より繰入れ充当している。
 - ・以上の既定経費(経常運営費と経常事業費、大学文書史料室運営経費合計)の当初予算配分は 263,135 千円で、前年度の当初予算配分 267,137 千円から 4,002 千円 1.5%の減であった。年度 中の複写料収入を含む収入確保インセンティブ経費等からの繰入を加えた、既定経費の予算総額 は 255,333 千円、決算総額は 254,524 千円となった。

② 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費として確保した 374,957 千円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・ データベースの維持及び整備を実施した。
- ・老朽劣化対策経費(1,329千円)により、国際文化学図書館棟(A棟)等漏水補修工事を実施した。
- ・施設部営繕事業経費(6,317 千円)により、総合・国際文化学図書館書庫照明設備改修工事、フロンティア館3階北側砂壁設置工事を実施した。
- ・保健科学図書室の改修を実施した(移転費 11,386 千円、建物新営等設備費 3,462 千円、施設整備費 108,067 千円)。
- ・学内ワークスタディ実施経費(654千円)により学生補佐員8名を雇用し、人文科学図書館、人間科学図書館、海事科学分館で書庫・書架の整理業務等に、電子図書館係において電子化業務の補助に従事させた。

③ その他の経費

- ・国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」構築のための経費(315千円)により、古典籍修復を実施した。画像作成(撮影)については、国文学研究資料館が直接外注業者と契約(6.454千円)したため経費に含めていない。
- ・電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金(研究成果公開促進費)」は不採択となった。

④ 新型コロナウイルス感染拡大防止措置による影響はじめ特記事項

- ・光熱水料(約8,000千円)、時間外開館経費(約23,000千円)等の執行残が発生した。
- ・感染症対策として、机上衝立設置等に約1.800千円を執行した。
- ・収入確保インセンティブ経費における収入のうち、ILL 等収入が昨年度より約 1,700 千円減少した(約 34%減)。
- ・保健科学図書室改修に伴う書架・什器等の整備として、約5,500千円を執行した。
- ・突発的な空調機故障(社会科学系図書館・医学分館・海事科学分館)により、約14,000千円を執行した。
- ・令和 3~4 年度に実施する自然科学系図書館改修に備え、学内預り金制度を利用した(7,000 千円)。
- ※令和2年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

・本年度の資産点検は、社会科学系図書館で実施し、点検総冊数は 190,379 冊であり、アウトソーシングの契約により実施した。令和 3 年度実施予定のうち約 53,000 冊分を、予定を繰り上げて、本年度当初予定分に加えて実施した。

② 不明資料の追跡調査

・平成 29 年度~令和元年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。 (資産点検時不明資料 1,072、追跡調査による発見資料 104 点、追跡調査後不明資料 968 点)

③ 不用決定

- ・不明後3年以上経過している資料(平成28年度資産点検時からの不明資料)を不用決定した。 (484点、資産価格1,764,465円)
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。(38,731 点、資産価格 105,169,205円)

◆評価と課題

本年度は、非常勤職員の雇用形態を見直すことで約10,000千円を削減し、機能強化促進係数(1.6%)の減額及び保健科学図書室改修に対応した。本年度の当初予算配分額は、令和元年度から4,002千円減額の263,135千円としていたが、臨時閉館及び時間外開館の短縮等によりかなりの執行残が発生した。しかし新型コロナウイルス感染症による対策経費や突発的な空調機故障等により想定外の経費が発生し、またILL等収入が減少するなど当初の計画から大幅に変更のある執行となった。結果的には、感染防止対策については適切に措置でき、また突発的な空調機故障に対応でき、更に保健科学図書室改修も実施できた。

令和3~4年度には自然科学系図書館の改修を実施するが、建物増築経費5,000千円の自己負担と、設置する集密書架の購入経費約63,000千円が必要であり、予算の確保が課題となる。運営費交付金の減額が続く中、学生用資料の整備や時間外開館、土・日開館業務をはじめ、限られた予算でどう維持するか、規模の見直しも含め、慎重に判断して実施していく必要がある。

(4) 施設整備・システム整備

<各館室の施設整備・設備更新>

本年度における主な事項は、以下のとおりである。

1 1 24: 1 7 2 2: 7 7 1	
総合・国際文化学図書館	書庫照明設備改修、書庫内に書架新設、A 棟等漏水補修工事
社会科学系図書館	貴重書室空調更新、貴重書室天井補修、ラーニングコモンズ床コンセント
	補修、書庫除湿機 2 台新設、書庫暗幕設置(A 棟、B 棟 5-6 階東半分)、
	防犯カメラ(本館・書庫・管理棟)ハードディスク交換
自然科学系図書館	網戸取付、1 階荷解室の空調移設取付
人文科学図書館	ブックチェッカー(磁気付加消去機)更新
人間科学図書館	新書庫通路電灯の交換、防犯カメラ更新(ハードディスク、カメラ4台)、椅
	子更新
医学分館	1 階事務室空調機更新、2 階閲覧室ブラインド更新、分館長室カーテン更
	新、閲覧椅子 56 脚張替、閲覧室側板サイン更新、ブックチェッカー更新、
	照明安定器更新、傘滴とり設置
保健科学図書室	書架新設、机・椅子等什器類購入、カーテン・ロールスクリーン設置、網戸
	設置(2 階閲覧室東面)、サイン類更新、ブックチェッカー更新、無線アクセ
	スポイント新設
海事科学分館	空調機更新、機械室階段手摺設置、積層書庫誘導灯設置、館内サイン
	更新

く安全点検>

・ 附属図書館安全衛生会議を、構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料 室の3館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、本 年度はメール回議にて4回開催した。

- ・ 安全衛生活動計画を策定し、週1回の衛生管理者による巡視を実施した。また、年1回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、全館室で実施した。
- 7月7日に社会科学系図書館にて産業医の巡視を受けた。新型コロナウイルス感染拡大防止について極めて熱心に対策を講じられていると評価された。
- ・ 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

<情報機器の更新>

- · OSのサポート終了に伴い、タブレット端末を廃止した
- ・ 利用者用 PC 等の設置台数は次のとおりである。
- * 情報コンセントは、キャンパス情報ネットワークシステム(KHAN2017)の更新に伴い、一部の館での提供としている。

	総•国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合 計
PC 台数	45	43	38	25	20	1	23	13	16	224
教育用端末(*1)	(37)	(28)	(33)	(16)	(13)	(0)	(17)	(10)	(13)	(167)
蔵書検索用端末等(*2)	(8)	(13)	(5)	(5)	(6)	(1)	(5)	(3)	(2)	(48)
スタンドアロン	(0)	(2)	(0)	(4)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(8)
貸出用PC	12	2	0	0	0	0	0	0	0	12
タブレット(ipad)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
ノート	(10)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(12)
情報コンセント	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
無線LANAP(*3)	4	7	3	2	2	0	3	2	2	25

- 注)(*1)情報基盤センター教育研究用計算機システムの教育用端末
 - (*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む
 - (*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

くシステム整備>

- 平成28年9月に更新した図書館システムについては、機能向上や問題点への対応を随時行った。
- ・ 令和4年9月にリプレイスを予定している図書館システムについての情報収集等を行った。

く自動貸出装置等>

• 自動貸出装置等の設置場所は次のとおりである。

自動貸出装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24 時間入退館管理システム	医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

保健科学図書室の施設改修を実施し、Wifi 拡充による ICT 環境整備、障害者対応となるエレベーター新設、トイレ拡充による衛生環境整備等を実現した。あわせて1階にラーニングコモンズを設置し、学修支援機能を強化することができた。

施設部が各部局より確保して執行する建物老朽劣化対策経費により、総合・国際文化学図書館棟(A棟)等漏水補修工事を実施した。また学内営繕・エコ対策経費により、総合・国際文化学図書館の書庫照明設備改修工事を実施した。

空調機の故障が複数発生して、臨時的に予算措置して対応した。夏季の高温多湿に機器の老朽化も相まって、空調機更新の必要性は高い。厳しい予算状況が続く中、限られた範囲で適切に対応するとともに、施設部や大学執行部等に予算措置の必要性を引き続きアピールしていく必要がある。特に医学分館と海事科学分館の空調については学内営繕費の予算要求をしている。

学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然 科学系図書館の施設改修概算要求が採択され、令和 3~4 年度の 2 年間で実施することとなった。 次年度はこの実施が図書館での大きな課題となる。なお、増床部分に設置する集密書庫について は予算要求中だが、不採択の場合は図書館独自で予算確保する必要がある。

海事科学分館建物の今後については、深江キャンパスの整備計画の動向に合わせ、引き続き海事科 学研究科・施設部と連絡を密にして対応していく必要がある。

医学分館においては、過去に医学科教務学生委員会から地階の一部等の改装による学生の自習場所 増設の要望があり、2階閲覧室の改装と什器入替えによる増席案を作成したが、予算の裏付けはない。 予算援助も含め、実施には研究科と連携して進める必要がある。

なお、各館室改修等の進め方については、<付録>『神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について』において、その指針を示している。

システムについては、令和 4 年 9 月に予定される図書館システムの次期リプレイスに備え、情報収集や仕様策定委員会の開催等を行った。現行システムの機能を引継ぎつつ、サーバ機器類のクラウドホスティングサービス利用による調達コスト削減や、デジタルアーカイブ機能の標準化、非対面サービスの充実などを軸に検討を進めていく必要がある。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

・ 総務委員会の委員および学術資料整備委員会の委員を務めた(事務部長)。

<オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)>

· 係員1名がコンテンツ流通促進作業部会員を務めた。

<国立情報学研究所、JUSTICE>

・ 係長1名が学術認証運営委員会 図書館系サービス作業部会委員を務めた。(平成27年度から継続)

<国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会>

・ 係長1名が拠点連携委員会委員を務めた。(平成31年度から継続)

<兵庫県大学図書館協議会>

- 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 第 119 回総会を、当初は 7 月に兵庫教育大学で開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症により、 6 月 11 日 \sim 22 日にメール回議に変更して開催した。
- ・ 今後の活動について、2月 15日 \sim 2月 26日の期間で加盟館にアンケート調査を行った。
- 研修事業においては、新型コロナウイルス感染症により実施しないこととなった。

・ 例年県内の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携 強化を図っているが、本年度は活動そのものが制限され連携することが難しかった。

<研修等への講師・発表者の派遣>

・ 国立情報学研究所等が開催する研修や講習会に、本年度は次のとおり職員を講師・担当者等として 派遣した。

研修名	主催	会場	日程	講師等
学術情報基盤オープンフォーラム	国立情報学研究	オンライン	6/10	情報システム係員
2020	所	(Webex)	0/10	(講師)

くその他>

- 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた(情報サービス課課長補佐)。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、本年度はオンライン等での活動をとおして会員間の連携と協力を図ることに努め、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

他機関が開催する研修事業に講師を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、講師として参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

令和2年度

神戸大学附属図書館年次報告

<付録>

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について ・・・・・・付録1
達成度評価(第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より)・・付録2
達成度評価の根拠資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 付録3
附属図書館利用者アンケート結果概要
附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果
附属図書館に関する自己点検・評価結果、
及びそれを踏まえた対応措置 ・・・・・・・付録4
保健科学図書室の改修とその結果 ・・・・・・・・・・・・・付録5
基本統計表
蔵書・受入等の現況(各館室別)・・・・・・・・・・・付録 6
サービス業務の現況(各館室別)・・・・・・・・・・・付録7
電子的情報サービスの現況 ・・・・・・・・・・・・付録8
図書館組織図・事務組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・付録9
附属図書館諸会議 (議題一覧、委員名簿)・・・・・・・・・付録 1 C
附属図書館予算・決算表(運営経費、資料費)・・・・・・・・付録 1 1
附属図書館活動日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 付録 1 2

神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について (平成 29 年 11 月 8 日~令和 9 年 3 月 31 日)

趣旨

神戸大学附属図書館は、神戸大学の使命に基づき、世界トップクラスの教育・研究活動を将来にわたって支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、 人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する拠点となることを理念として掲げ、学内外にサービスを提供してきた。しかし、法人化後3度目の中期目標期間を迎えて、大学をとりまく環境は大きく変容し、大学図書館の果たすべき役割も、大学の基本機能としての従来の在り方に加えて、教育・研究支援組織としての新たな方向性が求められている。本方針は、今後10年を視野に置き、図書館機能の強化と革新のために用いるものとして定める。

1. 知を創出する「場」の提供

(1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備

神戸大学ラーニングコモンズ(LC)検討ワーキンググループ報告書の構想に基づき、附属図書館のうち4 館に基幹となる LC が整備された。LC 未設置の館室においても、改修に合わせて LC のスペースを確保し、双方向型授業やアクティブラーニングなどの課題解決型の能動的学習の推進を支援する。また、PC 必携化等の学生の ICT 環境の変化に対しても多様な利用形態に対応した学習空間を整備する。

(1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備

本学が掲げる文理融合の研究を強力に推進するため、自然科学系図書館に大学院生レベルの研究ディスカッション、プレゼンテーションの練習、サイエンスカフェ等が行えるスペースを確保し、部局を越えた融合研究を醸成する場として展開する。

(1-3) 各館室の改修

前 2 項を達成することを主眼とし、(2-4) に掲げる蔵書の分担収蔵も考慮しながら、 未改修の医学分館、海事科学分館の改修計画を各キャンパス関係部局及び財務部・施設部等 と調整・立案し、実現に向けた予算要求を実施する。

2. 蔵書ならびに知識や情報の共有

(2-1) 電子ジャーナルをはじめとする研究基盤としての資料整備

先端研究と文理融合を掲げる本学にとって研究基盤の充実は不可欠である。大手出版社の電子ジャーナルパッケージやデータベースは、価格の上昇や為替変動、消費税の影響を受けながら契約規模を維持してきた。現在は教育研究基盤資料整備費として全学予算の中に

組み入れられており、多くの利用実績がある。今後、限られた予算の中で最大限の研究基盤 を、全学的な合意を得ながら整備していく。

(2-2) 学習の基礎となる学生用図書の整備

附属図書館は法人化以降、学生用図書費の確保を最重点事項として、資料整備に努めてきた。平成25年度からは、教員と連携してシラバス型パスファインダー(授業に関連する参考文献リスト)「KULiP」を作成し、掲載図書を複数冊備えたコーナー設置を開始した。今後も協力教員を拡大し、授業で指定される参考文献・必読図書を網羅的に収集し、利用に供するとともに、多数の同時アクセスが可能で学外からも利用でき、大規模授業への教材提供に適した電子書籍を積極的に導入し、自学自習に必要な学生用図書の整備をさらに進める。

(2-3) 国際化に対応した資料整備、サービスの提供

グローバル人材育成事業から配分を受けて整備した英語多読テキスト、各言語の検定試験問題集等の語学資料や留学関係資料を引き続き充実させ、本学の学生の国際性を一層涵養する。また世界から参集した優秀な留学生・研究者に対して、資料整備に加えて外国語によるレファレンス等の多文化・多言語サービスを提供し、学習・研究活動をサポートする。

(2-4) 全館室の効率的な資料収集と、蔵書の分担収蔵

9館室で構成される附属図書館は、従来より総合・国際文化学図書館を学部1・2回生向け、及び複合分野・基礎的資料の重点館とし、他の館室はそれぞれ学部3回生以上を対象に専門的な資料を収集する方針としている。各館室間で資料を流通させる図書館デリバリーサービスを利用することにより、館室間での資料重複購入を最小限とする。また、すでに所蔵している重複資料については可能な限り処分するとともに、利用頻度の低い資料や製本雑誌の管理については、共同利用書庫としての手動式集密書架を要求し、スペースの有効活用を図る。

(2-5) 大学固有の学術情報資源、教育研究成果のオープン化の推進

社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の所有する学術情報資源や教育研究成果のオープン化を推進し、長期的な保存をはかる。「神戸大学オープンアクセス方針」(平成29年1月学長裁定)に基づき、本学教員著作の学術論文をリポジトリに登録する業務を図書館が積極的に担い、さらにエビデンスとしての研究データの登録が可能なように、一部の部局や情報基盤センターと連携してシステム・サーバ構築の最適化を図る。

3. 人材の育成と参画

(3-1) 教員・学生・一般利用者など多様な人材の参画

図書館の活動は多様化しており、これまでも教員の協力を得て展示会やライティングセミナーなどを開催したり、学生の提案を広報活動に生かしたりしてきた。今後は図書館に関わる様々なステークホルダーに積極的に働きかけ、教員、職員、学生、一般利用者等と緊密に連携しながら、それぞれのスキルや知識を活かしつつ、新たな知の共有と創出を促す。

(3-2) 新たな人材の確保と職員の資質向上

各館室のサービスと蔵書構築に必要な専門的知識の習得など、職員の資質向上のための研修を行う一方、オープンデータの推進に関わるなど新たな人材の確保や育成を目指す。また、学術情報流通の変化に伴い、海外の動向を踏まえた新たな知識やスキルの習得が求められているため、職員を国際会議に参加させたり海外事例の調査研究に継続して派遣したりするなど、組織として育成の環境を整える。

4. 財政的な課題ほか

(4-1) 各館室維持費の確保

全館室総計で2万㎡を超える面積を保有・運用している。利用対象者は学生・教職員合わせて2万人を超え、年間300日以上開館するための光熱水費、備品・設備・建物の維持・更新には一定の金額が必要である。附属図書館は外部資金等による補填が期待できないため、維持経費を安定的に確保することが重要である。

(4-2) 外国雑誌センター・電子図書館事業について

外国雑誌センターは一橋大学とともに人文・社会科学分野における外国雑誌の収集拠点として設置されている。また、電子図書館事業も全国 15 大学に配分され、本学の電子図書館は震災文庫・新聞記事文庫をはじめとしたコンテンツが外部から高い評価を受けている。もともと法人化前に措置されていた予算が運営費交付金に組み入れられており、これらの事業は今後とも堅実に運用していく責任がある。

(4-3)大学文書史料室及び大学出版会について(附属図書館が事務を担当する部署) 附属図書館は従来からの図書館業務以外に、大学文書史料室(平成22年度)、大学出版会 (平成29年度)の事務を担当している。それぞれに予算や人員、設備等の課題があるが、 関連する部局等と連携しながら安定的な運用と発展をめざす。

> (平成29年11月8日 附属図書館運営委員会承認) (令和2年7月6日 附属図書館運営委員会改訂) (令和3年7月6日 附属図書館運営委員会改訂)

<u>1. 達成度評価</u>

(第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より抜粋)

(第3期中期目標・中期計画・年度計画	き理表より	り抜粋)
全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (3)学生への支援に関する目標 (3)学生への支援に関する目標 (3)学生への支援に関する目標 (2)世界の教育研究拠点としてふさわしい、質の高い教育を実施するための体制を強化する。 中期計画 (3-2:グローバル化やアクティブラーニングの推進など学部・大学院教育における機能強化を実施するため、関係部局・組織が連携した学修支援体制を整備し、ラーニングコモングロモン教育基盤等の場やを関係の基本を登備した要な資料の体系的整備、及び学修に関する人的支援の拡充を進める。 年度計画 (3-2-1) 電子的資料を含む学修に必要な図書館資料を、学問分野や図書館・室の特性を考慮して整備を行う。情報リテラシー習得のための「情報基礎」や「初年次セミナー」の授業やガイダンスを拡充する。	IV	「アウトブット」 ・学生用資料費として当初配分で40,000千円を確保し、各館室の学生用資料やシラバス掲載資料等の整備を実施。E-Study事業費は別枠として当初4,602千円確保。加えて本年度より大学機能強化支援資料費(VSchool、SDGs)として164千円を計上。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、4/8から全館臨時閉館とした。5/11から9/301は、日時・対象・サービス内容を限定し、また大学の活動制限指針の変化と部局等からの要望に応じて、注意喚起の掲示や消毒液の設置、カウンターでの飛沫防止措置 換気、滞在時間の制限等、感染防止対策のうえ [特別利用]を実施した。10/1からの閲覧席 利用再開にあたっては、閲覧机にアクリル板の仕切りを設置し、席数を制限し、消毒液の設置場所も増設して感染防止対策をとった。 ・郵送による資料貸出を実施(R3年3月末時点で延べ314件、1,250冊)。 ・来館利用ができない学生のために、オンラインで提供できるサービスを検討し実施した。主なものとして、チャットによる利用者相談受付(5/25~、R3年3月末時点で延べ146件))、電子ブックの紹介と利用促進を狙った「仮想展示企画」、新聞等データベースの同時アクセス数の拡大。E-Study事業費を5,286千円に増やし、ジャパンナレッジにが百利事典・辞典等データベースの同時アクセス数を拡大。また電デブック購読数を増加(Maruzen eBook Library 3409イトル(4~12月))。 ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館名館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー13名が担当、本年度はオンデマンド型遠隔授業で実施。(前期後期計23回、2,628名受講) ・図書館公式YouTubeチャンネルで公開した。また要望に応じて後期に1学部で17回対面で実施。・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ソフーは、本年度は書店店頭ではなく、オンラインによる電子ブック選書として、10/1~11/30で実施、53名参加、68件(587,253円分)購入。 ・学生の影書支援のため、またオンラインで学生が参加できるイベントとして、「オンライン読書室」(Web会議で読書時間を共有して知りを決定される)を開催し(8/31~9/4、9/7~11、12/2.9.16、延べ25名(実数17名)参加)・保健科学図書室の改修工事を実施。、ラニーングコモンズ設置、Winfi拡充による10で環境整備、障害者対応となるエレベーター新設、トイレ拡充による前生環境整備を実現した。・19然科で高速に表している127~11年を実施を開催して知りを発きを実現した。・19然科で高速に表して知りを開生した。197~11年の大きでは、12/2.9.16、延べ25名(実数17名)参加)・保健科学図書室の改修工事を実施。、ラニーングコモンズ設置、Winfi拡充による10で環境整備、障害者対応となるエレベーター新設、トイレ拡充による10月間による10円間、12/2.9.16、延べ25名(実数17名)参加)・保健科では、22/2.9.16、延べ25名(実数17名)参加)・保健科では、22/2.9.16、延べ25名(実数17名)参加)・保健科で図書室の改修工事を実施、ラニーングコモンス設置、Winfi拡充による10で環境整備、障害者対応となるエレベーター新設、トイレ拡充による10円環境整備、障害者対応となるエレベーターが設定は、22/2.9.16、延べ25名(実数17名)を開始で表している12/2.9.16、近へ25名(実数17名)を開始で表している12/2.9.16、近へ25名(実数17名)を開始で表している25名(実数17名)を開始で表している25名(実施の25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表述25名)を開始である25名(表述25名(表
全学中期目標/中期計画/年度計画		・ジャパンナレッジLibのログイン数(4~12月)合計9,974、昨年同時期の7,580より1,32倍増加。 ・Maruzen eBook Library、2020年利用回数9,653で前年比4.6倍。 ・全学共通科目「情報基礎」、アンケート結果で受講者の約98%から肯定的な評価、従来の対面実施と同様に肯定的な評価を得ている。 ・「オンライン読書室」、参加者より好評を得た(アンケート回答者の9割から肯定的評価)、また国立国会図書館の「カレントアウェアネス・ポータル」にて取り上げられた。 ・オンラインによる電子ブック選書、アンケート回答者9名のうち4名が満足5名が普通と回答。
(附属図書館担当部分のみ抜粋) I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム 【アウトプット】
1 人子の収責の例上に関する目標 2 研究に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標 (では、先端研究・文理融合研究の実施、育成及び支援の体制を充実させ、優秀な研究人材が集積する教育研究拠点としての地位を確立する。 中期計画 8-4:分野融合・新領域創出等のグローバルな研究の実施を支援するため、電子ジャーナル等の学術情報の利用環境の維持と利用向上を促進するとともに、オープンアクセス等の学術情報流通の潮流を踏まえ、多様な研究成果をデジタル形態で保存し、国際的に発信する体制を強化する。 年度計画 ・【8-4-1】 附属図書館において外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベース等の教育研究基盤資料のマレル及びデータベース等の教育研究基盤資料の大力を行うなど、「神戸大学学術成果、ボジトリ」への雑誌論文や学位論文、教材や研究データ等を様なコンテンツの登録を推進することにより、研究支援機能及び情報発信機能を向上させる。	ш	・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料を計画的・安定的に提供するため、R3年度整備費の確保を実施、また第4期中期期間前半3年間の契約方針を策定し、部局長会議(10/8)にて承認された。 ・「学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集に努め、その公開を推進した。登録総数: 32,738件(R3、3月末現在)。・博士課程院生対象のオープンアクセス説明会を6研究科で8回予定していた(加えて4研究科から希望あり)が、コロナ禍で1研究科のみ1回開催(参加者6名)。 ・コロナ対応として、対面ガイダンスの実施に代えて、博論のWeb公表についての教材をアップデートしてHP上に公開。・オープンアクセス推進MCの成果として、KUID 登録論文2,196件の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち前年度以前の調査分も含め569件について登録依頼(R3、3月末現在)。・オープンアクセス/オープンサイエンスに関する国内外の先進事例について知見を深めるため、関連セミナーに参加し(1回3名)、館内勉強会にて情報共有した(1回15名参加)。リポジトリニュース「Kernel通信」を9月と1月に発行し、オープンアクセスの名効活用を図るため、重複図書・雑誌等の廃棄を実施、(7館で計38,731冊廃棄)・資産点検における不明図書について毎年追跡調査を行い、不明期間が3年以上経過した資料の不用決定を実施。(社会、自然、人文、人間)・自然科学系図書館の増床を含む改修については予算採択され、引き続き集密書庫の設置による収蔵能力拡大を予算要求中。 ・神戸大学出版会は今年度4冊出版、他にも企画提案書を複数受領しており、事業は着実に進捗中。
		・学術成果リポジトリの年間をウンロート数(R2年度)2,050,717、昨年度の1,445,459より42%増加した。コロナ禍によるリモートによる研究情報収集の促進、EJ経費高騰に伴うオープンアクセスへの需要の高まりが一因と推測する。 ・KUID 登録論文の著作権調査を実施し569件を登録依頼した結果、192件を登録できた。

全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
 Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標 3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 ○国際都市神戸に立地する拠点大学として、社会と協働した教育研究を実践し、その成果を積極的に社会に還元するとともに、地域社会の諸課題の解決や地域の活性化を担う人材育成を実施する。 中期計画 10-4:図書館が所蔵する、阪神・淡路大震災関連資料を網羅的に収集した「震災文庫」、他に現存しない記事を多数含む明治末から戦前の全文データベース「新聞記事文庫」等の特色ある資料を、阪会地、部事を多数含む明治末から戦前の全文データベース「新聞記事文庫」等の特色ある資料を、阪会の書館等と連携しながら、電子的発信を含む多様な手法により公開し、社会及び地域への貢献を実施する。 年度計画・【10-4-1】教育研究成果の社会還元を図るため、「震災文庫」や「新聞記事文庫」等の図書館所蔵資料や学内研究成果のデジタル化を推進し、デジタルアーカイブにおける公開を継続するとともに、所蔵資料による資料展を開催する。 	ш	「アウトブット」 ・電子図書館事業により、「震災文庫」の震災関係資料、「新聞記事文庫」などの経済関係資料及び学内研究成果等のデジタル化を推進(図書館中で公開。データ総数の第3期期間の目標値30万件を達成(震災デジタルアーカイブ、メタデータレコード、総数:302,390件(R3、3月末現在)、入力件数:3,190件(R2年度)) ・サンテレビジョンが防災意識の高揚を図るため制作した映像「阪神・淡路大震災」(19分06秒)を、人文学研究科地域連携センターの協力を受け、震災デジタルアーカイブでの開開始(1/14)。 ・震災文庫における阪神・淡路大震災関係会質料の収集・保存・公開について、国会図書館と連携した東日本大震災アーカイブへのデータ提供や「人と防災未来センター」「月庫県立の書館」はじめ全国の被災地図書館や防災間違図書館と情報共有による連携を継続中。(震災文庫資料総数:61.516(R3、3月末現在)、新規受入資料数:921(R2年度)) ・国際教養教育院の授業総合教養科目「阪神・淡路大震災AJの1回目の中で、震災文庫の紹介を実施(2007授業、102名)。・国文学研究資料館の構築する古典籍データベースに収験公開のため古典籍電子化として、昨年度に電子化した401 点を、2月に本学デジタルアーカイブにて画像公開、所蔵資料の電子化公開を推進した。また本年度も古典籍480点の電子化を実施。 ・デジタルアーカイブ「神戸開港文書」に画像169点を「市門港文書補遺」として新規追加、うち欧文の書簡・文書16点は人文学研究科名誉教授の協力により翻刻・翻訳を掲載。 ・コロナ対応による入館制限のため、展示ホールでの資料展の開催は中止。代替として、HP上でのデジタル資料展「古典籍さまざま」を10/1より公開。・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスを今年度は中止。 「アウトカム」・マルラレビ、1/17震災特別番組「パトン1.17~パンデミック時代のあなたへ〜川にて上れて下り上で入り、17までから、17までは、17まで、17まで、17まで、17まで、17まで、17まで、17まで、17まで
全学中期目標/中期計画/年度計画	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
(附属図書館担当部分のみ抜粋) IV自己点検:評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 2. 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 〇社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の様々な活動及び成果等を国内外に広く効果的な手段で情報発信する。 中期計画 26-1:社会への説明責任の観点から、神戸大学における教育研究活動の状況や自己点検:評価に関する情報等を関係者にわかりやすく伝わる形式で公表するとともに、大学ポートレートの活用や大学の歴史的文書等を一般利用に供するなど、積極的な情報発信を行う。 年度計画 ・【26-1-2】 大学の歴史的文書等の一般利用の促進を図るため、展示会の開催、所蔵資料のデジタル化、国会のの連携による横断検索目録の充実等を活用した各種関連事業を行う。		(アウトブット) ・ 令和公生度事業計画に基づき、全学から移管された歴史公文書等511件の受入れをコロナ禍による2か月遅れで6月から8月に行った。一般の利用に供するまでの専門実務を実施し、令知3年3月から利用を開始した。・本学法人文章4071件を対象に全学の文書管理者との移管協議を実施し、次年度の移管対象を決定した。・本学法人文章4071件を対象に全学の文書管理者との移管協議を実施し、次年度の移管対象を決定した。・本学法人文章4071件を対象に全学の文書管理者との移管協議を実施し、次年度の移管対象を決定した。・新日教職員に必要な文書管理に係る基本的な知識技能を習得させるため、新任教職員研修の講義資料を作成した「全外限度オンテマント配信」の主要性に関する意識啓発と文書管理に係る基本的な知識技能の同意の主要性に関する意識啓発と文書管理に係る基本的な知識技能の同上を図るため、総務総称課と同間して・ラーニングを活用した法人文書管理が修を実施し、教材の作成を担当したパンデマント配信、受講者132名)。 ・主教職長行教室に使して・ラーニングを活用した法人文書管理が修を実施し、教材の作成を担当したパンデマント配信、受講者132名)。 ・大学では関係と要な知識技能を習得及び向上させるため、第員研修を2回実施した(コロナ禍に伴う在宅演習1回、オンデマンド研修1回、受講者証と計7名)。 ・ 14甲1・署名・書面の義務付けを廃止する7特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」(平成23年4月1日内限制理・圧決定)の改正に即応して規程を整備した(1月施行)。・・ 24年保護を適切に管理するため、これまでのアナログは温温度的設計したが、。 24年大学史に2ついての常設展は49から当年度末までコロナ禍及び展示品入れ後えのため臨時休止としたが、長拳手防対策を通じ上上で終戦万周軍さんが、たけ特別展で戦場(デラ・大学・一を10年の一を10年の表別に任じ、長衛、日年記念館、陰度赤木ル、会期・11/2-12/28、会期延長・1/4-(2/12までの予定が緊急事態宣言のため1/14中止)、未着者1643名)、※回展はオーズでの会場がロコナ禍で使用を行った。・ 他機関等からの男学・視察を受け入れた(2機関名を)・ 3月用銀度の高い神戸系を会能と第307年のインイン・本・地機関等からの男生、現を会を表と服用376コでオンタル画像を作成し、8/27より中止たく、19月の大学を発した。 24年大学概算の方の人を音を全と館との機断検索による連携を示すまたのカール・ストリー(証言検療)制作を活力により、19年の大学では一般で表別に関係を20年の対域を指しがこれた。19日の公司者を担当した。 2年対応を20年のの大学を1月を開始した。 2年対応を20年の表別を担じた。 2年が成る年間が上で、2年が成るが成立を2年が成るが成立を2年が成るが成立を2年が成るが成立を2年が成立を20年の表別を2年が成立を2年が成立を2年が成立を2年が成立を2年が表別

神戸大学附属図書館 利用者アンケート調査結果概要 (令和2年度)

詳細は附属図書館ホームページに掲載 https://lib.kobe-u.ac.jp/media/enquete-result-2021.pdf

期間:2020年11月10日(火)~ 2021年1月8日(金)

アンケート調査結果概要

この報告書は、附属図書館のサービス改善のため、2020 年 11 月 10 日から 2021 年 1 月 8 日までの 60 日間にわたっておこなったアンケート調査の結果をまとめたものである。アンケート調査は Google フォームを利用し、無記名式でウェブからの回答のみを受け付けた。調査対象は図書館の利用者であり、神戸大学在籍者(学部学生・大学院生・教員・職員)の他、学外者からの回答も受け付けた。回答数は 1,223 であった。

問1は回答者の身分等である。社会人大学院生・留学生の別も調べた。在籍者数に占める 回答者の比率は 6.1%であった。

問2で「よく利用する図書館」と「図書館の設備・環境」に対する満足度調査をおこなった。その結果「学習に必要な情報機器」に対する満足度が他に比べて低いことがわかった。 調査結果は身分別・図書館別にも集計した。回答者数が少ないなど結果に偏りが生じている可能性もあるが、各館の課題として受け止めたい。

問3で「図書館に来る/来た目的」「スマホ入館の利用状況」「自宅から利用した図書館ウェブサービス」を調査した。図書館に来る目的では、「図書の利用」「個人学習」とする回答が多かった。現在、試行実施(2年目)している「スマホ入館」は、調査対象の14%が使った経験があるという結果となった。「自宅から利用した図書館ウェブサービス」ではOPACが最も多かったが、利用者の属性により利用するサービスに違いがあることも判明した。

問4・問5で図書館からの広報の媒体として何が効果的であるのかを調査した。結果として学生へのメールが最も有効であることがわかった。

問6で「図書館にあってほしいもの」を調査した。「授業関連図書」が最も多かったが、 利用者の属性による違いが大きいこと、様々な要望があることが判明した。

問7で「学術情報の収集状況」について調査した。問7 -1で「目的の情報を見つけられるか」調査した結果、「見つけることはできるが、漏れがあるかはわからない」という回答が学部学生と大学院生で多かった。このことは図書館でおこなっている情報リテラシー教育に更に力を入れていく必要があることを示している。問7-2で「学術情報を調査/入手する際に使うデータベース等」を調査した結果、最もよく使われているのが Google で、次いで OPAC, Google Scholar, CiNii という結果となったが、使われ方は利用者の属性によって違うことも明らかとなった。問7-3で「電子資料が利用できなかったこと」を調査した結果、電子ジャーナルに対する要望が多く寄せられた。問7-4「資料入手先」として、附属図書館に次いで「ウェブサイト上の情報」「書店等で購入」とする回答が多く、利用者は様々な方法で資料を入手しようとしていること、図書館だけでは必要な情報を提供できていないことがわかった。

問8で図書館が実施している「イベントへの参加」経験を調べたところ「情報の探し方ガイダンス」「図書館ツアー」とする回答が多かった。

問9は自由記述で意見・要望を募った。新型コロナウイルス感染症が流行し、図書館の利用にも様々な制限をかけざるを得ない状況下の調査だったためか、利用制限の緩和を要望する意見が格段に多かった。

なお、令和 3-4 年度に自然科学系図書館の増築改修をおこなうことになった。自然科学系図書館に関する「設備・環境の評価」「図書館に来た目的」「図書館にあってほしいもの」の調査結果を参考に、今後できるだけ整備につとめていきたい。

全学共通教育必修科目「情報基礎」 図書館担当コマ「情報の活用」 学生アンケート集計結果

集計:選択項目 回答数: 2404名

(1)図書館ホームページの利用方法について理解できましたか.	回答数	割	合
1.理解できた	1845	76.7%	07.5%
2.少し理解できた	499	20.8%	97.5%
3.少し難しかった	42	1.7%	
4.難しかった	11	0.5%	2.2%
無回答	7	0.3%	
(2)図書館での情報検索の方法について理解できましたか.	回答数	割	合
1.理解できた	1865	77.6%	97.1%
2.少し理解できた	468	19.5%	97.1%
3.少し難しかった	43	1.8%	0.0%
4.難しかった	12	0.5%	2.3%
無回答	14	0.6%	
(3)引用のルールなどアカデミックマナーについて理解できましたか.	回答数	割	合
1.理解できた	1658	69.0%	OF 40/
2.少し理解できた	633	26.3%	95.4%
3.少し難しかった	72	3.0%	3.8%
4.難しかった	19	0.8%	3.0%
無回答	20	0.8%	
(4)動画・PDF資料は、授業を理解する上で役に立ちましたか.	回答数	割	合
1.大変役に立った	1776	73.9%	97.8%
2.少し役に立った	575	23.9%	97.0%
3.あまり役に立たない	27	1.1%	1.3%
4.全く役に立たない	Ę	0.2%	1.3%
無回答	20	0.8%	
(5)今後、学修・研究のために図書館を利用したいと思いますか.	回答数	割	合
1.ぜひ利用したい	1991	82.8%	98.2%
2.少し利用したい	370	15.4%	
3.あまり利用するつもりはない	19	0.8%	1.0%
4.全く利用したくない	Ę	0.2%	
無回答	19	0.8%	

集計:自由記述 回答人数(延べ数): 393 (433) ※1人で複数回答あり。

分類の内容	回答数	割合*
1. 図書館の使い方やアカデミックマナーなど、役に立った	65	15%
2. 説明や内容がわかりやすかった	80	18%
3. これからも図書館を使いたい	144	33%
4. 難しい、分からない	7	2%
5. 簡単すぎる	0	0%
6. 疲れる、長すぎる、無駄だ	1	0%
7. 教材(動画・PDFの表示方法等について)、課題、授業について	43	10%
8. 図書館への要望	0	0%
9. 図書館ホームページ、検索について	9	2%
10. その他	48	11%
未分類. 単なる謝礼や感想、もしくは無意味な内容	36	8%
計	433	

オンライン読書室 アンケート集計結果

【第1回】実施期間:2020.9.4~2020.9.14 申込者数:21 参加者数:13 のべ参加者数:21 アンケート回答者数:8 【第2回】実施期間:2020.12.2, 12.9, 12.16 申込者数:5 参加者数:4 のべ参加者数:4 アンケート回答者数:2

1. 学部•研究科

1. T 01 W 7.14	
文学部	2
法学部	1
経済学部	2
経営学部	1
農学部	1
理学部	2
国際協力研究科	1

2. 学年

2. 子平	
1	3
3	2
3	2
4	1
M1	1
M2	0
科目履修生	1

3. オンライン読書室はいかがでしたか

満足	9
普通	1
不満	0

上記の選択理由について

- ・コロナで大学が半ば閉鎖されている状況で、このような企画を実施されたことに感謝しています。
- ・なかなか大学・図書館にも行けない状況なので、このような形で同じ大学の人と交流することができたから。
- ・音声なしでチャットのみというのが、読書に集中できて良かったです!
- ・自分が普段読まない本を知ることができた。
- ・控えめに盛り上がれて、好きな雰囲気でした。
- ・面白い本が知れたので。

4. イベントを何で知りましたか

図書館ホームページ	4
図書館twitter	6
ポスター・チラシ	0
友人	0

5 実施期間はいかがでしたか

> \ N \ \ 7 \ 7 \ 1 \ \ 7	10.0 10 10 0	<u> </u>
長い	1	0
ちょうどいい	7	1
短い	0	1
	(2週間)	(3日間)

6. 実施時期はいかがでしたか

ちょうどいい	9
その他	1

7. 実施時間はいかがでしたか

ちょうどいい	5	2	
その他	3	0	
(10時30)分~12時)	(14時~15時	‡)

その他の意見

- その他の意見
- ・大学が閉鎖されてからすぐにでも実施しても良かったのでは。
- ・午後の方が良かった。
- ・昼~夕方の時間帯にあっても良いかなと思いました!
- ・日の都合が合わない日があったので、毎回とは言いませんが 午後の部もあったら行きやすいなと思います。

8. このオンライン読書室を今後1週間(9月14日~18)延長したら参加したいですか ※第1回目のみ質問

したい	7
したくない	0
延長ではなく別の時期ならしたい	1

別の時期ならしたい時期

・後期もオンライン授業が続きます。図書館のイベントとして月に1回程度定期的に実施しては。

9. 今後図書館で開催希望のイベント等があれば記入下さい

- ・オンラインでビブリオバトルがしたいです。
- ・オンラインによるビブリオバトル。

10. その他要望や感想等をご自由にご記入下さい

- ・一度しか参加できませんでしたが、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・対面での授業が制限されるなら、対面を伴わない図書館は平常通り開館してほしい。もちろんこのようなイベントに意義を認めるが、リアルな図書館利用に優るものはないように思う。
- ・オンライン上で本好きの方々と交流するイベントはとても新鮮で楽しかったです。是非これからも続けていってほしいです。
- ・事前予約制で人数制限をする形にして段階的に図書館を再開してはどうですか。大学の対面授業再開まで待たなくてもいいと思います。
- ・ゆったりとして、ゆるく繋がれるような感じが心地よかったです。企画運営ありがとうございました。

学生選書ツアー2020 電子ブックリクエストキャンペーン アンケート集計結果

参加者:53名 (院生23名、学部生30名)、アンケート回答者:9名

1.所属学部

法学部・法学研究科	3
工学部・工学研究科	1
経営学部・経営学研究科	1
国際文化学部・国際文化学研究科	1
文学部・人文学研究科	1
国際人間科学部	1
発達科学部・人間発達環境学研究科	1

2.学年

1	1
2	0
3	1
4	2
M1	2
M2	1
D1	2

3.その他を選んだ場合の所属と身分 … その他の回答なし

4. この電子ブックリクエストキャンペーンはいかがでしたか?

満足	4
普通	5
不満	0

5.4の回答について理由があれば教えてください。

【満足の理由】

- ●電子書籍だと借り出し中ということもなく、人気のある本を電子書籍で買っていただけるのはありがたかった。
- ●電子書籍はどこからでも利用できるから

【普通の理由】

- ●お勧めの本や読みたい本を購入していただけるのはありがたいが、お勧めしたい本も読みたい本も、もっと多くあるため。
- ●選択できる本に制限があった
- ●読みたいと思った全ての電子ブックをリクエストできたわけではない。範囲が限定されていたように感じた。図書館に思うようにアクセスできない状況なので、 電子ブックの需要は高い。更にこのような機会を設けて頂けたら有難いです。

6. このイベントを知ったきっかけを教えてください。

図書館ホームページ	5
図書館twitter	2
図書館からの連絡	1
ポスター・チラシ	1
友人	0
その他	0

7. 実施時期(第3Q)はいかがでしたか?

ちょうどいい	4
第1Qがよい	0
第2Qがよい	3
第4Qがよい	1
その他	1

※その他回答:分散して複数回あるとありがたい。一回ならば3Qが良い。

8. 購入可能冊数(1人5冊まで)はいかがでしたか?

ちょうどいい	7
少ない	2
多い	0

9. 昨年度まで開催していた学生選書ツアーをご存知でしたか?

また、参加したことはありますか?

5.1.C.	3 , , , , ,
知っていた	5
参加したことがある	0

10. この電子ブックリクエストキャンペーンがまた開催された場合、参加したいですか?

参加したい	8
参加したくない	1

11.10の回答について理由があれば教えてください。

【参加したい理由】

- ●論文執筆の参考文献を読みたい。中々入手できない。
- ●紙の本に比べて電子版の方が便利だと思うシーンが増えたから。
- ●前述の理由(#質問5の回答と思われる:「電子書籍だと借り出し中ということもなく、人気のある本を電子書籍で買っていただけるのはありがたかった。」)のほか、新版が出ているにも関わらず最新版は購入されていない等が多く気になっていたので、対応していただけた。

【参加したくない理由】

●参加したくないというより、来年からは学外の人間になるため、参加できない。

12. 今後図書館で開催希望のイベント等がございましたら、ご記入ください。

- ●各分野の専門家の紹介する入門書紹介
- ●同系列の院生から学部生へ有用な書籍を紹介する。

13. その他要望、感想等ご自由にご記入ください。

- ●偶然、ポスターから情報入手できたので、リクエストに応募した。メール配信があればよいと思う。
- ●電子版の値段を明記して欲しかった。
- ●購入の確度、頻度は低くて構わないので、希望する書籍を常時出せる仕組みがほしい(すでにありましたら申し訳ないですが、周知いただけると助かります)
- ●ありがとうございましたm(_ _)m

附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

令和2年9月1日付「教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について(依頼)」を受け、次のとおり附属図書館に関する自己点検・評価を実施した。

実施にあたっては、附属図書館における内部質保証実施要項(令和2年11月5日附属図書館運営委員会承認)に基づき行うものとし、令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告(案)の確認をもって行った。

【評価事項】

・大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること。

【評価結果】

· 学生用資料整備:

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、全学運営費交付金の減額に伴い前年度より 1.6%減の 40,360 千円とした。また、前年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の 維持を目指すと共に、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。

・研究用資料の整備:

第3期中期計画後半である2019~2021年の教育研究基盤資料整備費全体について、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向を平成30年5月の部局長会議で承認を得た。その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.63億円(決算ベース)が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成26年度の予算規模を維持することができた。

図書資料費を含む附属図書館運営経費は平成30年度より約430万円減(1.6%減)の予算となった。これら附属図書館予算の減額により、図書資料費の確保が困難となっており、更に大学全体の予算が厳しくなっている事から、ILL等の収入確保が課題である。

・電子的情報基盤の整備:

本年度末における電子ジャーナル購読数は 35,579 タイトル、総ダウンロード数は教育研究 基盤資料整備事業によるもので約 120 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の 教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は平成 30 年度の規模を維持している。 令和 4 年度以降の次期中期計画期間においては、購読価格の上昇により、現在の購読内容の 維持が困難となることが予想されるので、新たなスキームの構築に取り組む必要がある。

・開館サービス:

年間総入館者数は約81.2万人で、前年度より約1%の減少であった。本年度は、祝日授業実施日の開館、「スマホ入館」、総合・国際文化学図書館での試験期平日の早朝開館など、幾つかの開館拡大の取組を実施したが、減少幅こそ減ったものの、入館者の減少傾向に変化の兆しはみられなかった。

引き続きニーズ・利用状況・経営面を考慮しながら、全館的視野で適正なサービスを提供して

いく必要がある。

・資料提供サービスと利用促進:

学生への年間貸出総冊数は約20.9万冊で前年度から約0.4%であるが微増した。学部生を中心に貸出可能冊数を増やした効果とも考えられるが、引き続き動向を見ていく必要がある。デリバリーサービス(=図書館間資料配送)は本年度も順調に運用されており、取扱数は全館サービス体制が整った平成27年以降最多の3.4万冊となり、前年度の実績を更新した。利用促進の取組は、SNSの利用や、「テーマ図書展示」「お昼休みトークイベント」「読書マラソン」などを工夫しながら継続している。

今後も利用促進活動に積極的に取り組むとともに、電子書籍など新しいサービスへも目配り していく必要がある。

資料の保存:

全館室にて除湿器等の設置やカビ発生状況について調査を行い、社会学系図書館と人間科学図書館に除湿器を計 5 台設置した。書庫や開架室の外壁改修工事が社会科学系図書館、海事科学分館にて実施され、資料保存環境が改善された。全館室の資料収容力調査を実施し運営委員会にて報告した。

書庫スペースの狭隘化は進んでおり、書庫の増築要求に加え、除籍基準の見直しなど対策を検討し、資料の適切な保存、書庫環境の改善など今後も努めていく必要がある。

-	-
4,	כ
т	Δ
Ш	ą
1	K
4	Р
٠	٠

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた 対応措置の実施計画(改善・向上が必要とされた事項)

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

		大学教育推進委員会	
		施設マネジメント委員会	
① 担当委員会		情報委員会	
(担当委員会を■にして		附属図書館運営委員会	\
ください。)		学生委員協議会	
		留学生委員会	
		入試委員会	
	•	令和2年11月5日	
#	•	令和3年2月	
② 改善・向上が	必要?	向上が必要とされた事項	
(記載にあたって	ては、NI	NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)	照ください。)
£	教	教育・学習活動の支援のため、より適切な資料選定を行う。(学生用資料整備に関	(学生用資料整備に関
	to	する事項)	
根拠	华	令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	野	附属図書館事務部	
	争	学生用資料費の各館室への配分額と配分方法を見直し、よ	より適切な教育・学習活
- - - - - - -	靊	動の支援を目指す。	
	極	倹討の参考のため、まず各館室における学生用資料購入における図書館予算と部	おける図書館予算と部
(奴害/)	Ē	局予算の決算額と購入内訳の精査に着手した。	
	낵	り適切な資料選定のため、事後評価を実施する。	
	^	※現時点での状況を記載ください。	
当世の新年中が	_	□ 検討中	
町国の油物水の	_	□ 対応中	
		本 本 本 本 本 本 本 本 を を を を を を を を を を を を を	
	_	コ その他 ()	
前同確認時	V-	令和3年度の学生用資料費について配分方法を見直し、各館の貸出	各館の貸出冊数と入館者数も要素に
(R9 19 17 粉杏珥		加えて配分額を算出した予算案を作成し、本年度第3回附属図書館運営委員会(1/28 開催)に	軍営委員会 (1/28 開催) に
(MZ: 1Z: 11 数月) 2/2 () 2/2 ()		て承認を得た。これにより次年度における適切な資料選定を目指す。	
		全館室で昨年度の学生用図書の選定評価を実施した。	
今後の予定	**	※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	
	·	領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	
関連する基準	•	・基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した	
	施	施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	
4 年 垣 日	•	4-1-5 大学組織の一部としての図書館におい	
K	٢	教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、	\

有効に活用されていること	れていること	
③ 自己点検・評価実施状況 (スケジュール)	ドジュール)	
・点検・評価の実施	・令和2年11月5日 阝	附属図書館運営委員会
・評価結果の点検・評価	・令和2年12月10日	評価委員会
・対応措置の承認	・令和2年12月17日	教育研究評議会
• 進捗確認	・令和3年3月18日 ま	教育研究評議会

[※] 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

(様式1)

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた 対応措置の実施計画(改善・向上が必要とされた事項)

「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。 *

			大学教育推進委員会	
			施設マネジメント委員会	
① 担当委員会	員会		情報委員会	
(担当委員会を■にして	№■にして		附属図書館運営委員会	
ください。)			学生委員協議会	
			留学生委員会	
			入試委員会	
Ħ	п	•	令和2年11月5日	
#	Ę	•	令和3年2月	
② 改善・	向上が必	要と	改善・向上が必要とされた事項	

(記載にあたっては、	、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)
	ニーズ・利用状況・経営面を考慮しながら、全館的視野で適正なサービスを提供
内谷	する。利用促進活動に積極的に取り組むとともに、電子書籍など新しいサービス
	へも目配りする。(開館サービス・資料提供サービスと利用促進に関する事項)
根拠	令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告
計画の実施主体	附属図書館事務部
国 本 少 女	早朝開館の試行を予定。
(改善方策)	利用促進のための広報の実施
	※現時点での状況を記載ください。
1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	□ 検討中
町国の油汐水免	日 対応日
	ロ その色()
	総合・国際文化学図書館にて試験期に早朝開館(平日の開館時間を 8:30 に 15 分前倒しの
	獣行を予定していたが、コロナ禍により未実施となった。
岩區和田	郵送による資料貸出を実施した (2/8 時点で延べ 269 名、1, 093 冊)。
明回無影子(100101)	来館利用ができない学生のために、オンラインで提供できるサービスを実施・広報した。主
(KZ. 12. 11 教育研 売割業令) よどの	なものとして、チャットによる利用者相談受付(5/25~)、電子ブックの紹介と利用促進を狙
光評機形) ならり 海神寺	った「仮想展示企画」、新聞等データベースの同時アクセス数の拡大。
声 夕火 <i>允</i>	学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、本年度は書店店頭ではな
	く、オンラインによる電子ブック選書として、10/1~11/30 に実施 (53 名参加、68 件(587,253
	円分)購入)。
今後の予定	※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。
開油子と甘瀬	・領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準
対応りの由中	・基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した

	施設及び設備	施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	されていること	
	• $4 - 1 - 5$	・4-1-5 大学組織の一部としての図書館におい	の図書館におい	
分析項目	て、教育研究	て、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備	能な状態に整備	
	し、有効に活	し、有効に活用されていること		
③ 自己点検・評価実施状況 (スケジュール)	町実施状況 (スク	(ジュール)		
・点検・評価の実施	和	・令和2年11月5日 附属図書館運営委員会	附属図書館運営	委員会
・評価結果の点検・評価	- 評価	・ 令和 2 年 12 月 10 日	評価委員会	
・対応措置の承認		・令和2年12月17日	教育研究評議会	
• 進捗確認		・令和3年3月18日 教育研究評議会	教育研究評議会	

(様式1) 教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を略まえた 対応措置の実施計画(改善・向上が必要とされた事項)

「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。 *

		大学教育推進委員会	
		施設マネジメント委員会	
① 担当委員会		情報委員会	
(担当委員会を■にして		附属図書館運営委員会	
くだみい。)		学生委員協議会	
		留学生委員会	
		入試委員会	
	•	· 令和2年11月5日	
₹	•	令和3年2月	
② 改善・向上が必要と	瀬と	された事項	
(記載にあたっては、		NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁を	いて」37-42 頁をご参照ください。)
	量	書庫スペースの狭隘化は進んでおり、『	除籍基準の見直しなど対策を検討し、資料
内谷	0	の適切な保存、書庫環境の改善など今後	書庫環境の改善など今後も努めていく必要がある。(資料の保存に
	E	関する事項)	
根拠	4	令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告	図書館年次報告
計画の実施主体	附属	附属図書館事務部	
	令	令和2年10月、情報管理課資料整備グル	ブループに、全館室の資料整備に係る調整
E	49	を行い、有効的な蔵書構成を図ることを目的に、	と目的に、「整備担当」を設置した。「資料
国社会区	以 公	収容力確保のための整理指針」を更新し、	ン、あわせて「実務指針」の更新も検討す
(吹書万策)	ν _ο	書庫スペース確保のための除籍計画を策定する。	画を策定する。各館室の意向を確認する。
	量	重複資料を調査しリスト化する。	
	*	※現時点での状況を記載ください。	
1		□ 検討中	
計画のשを水の		+ 世紀 表 ■	
		海拉女 口	
	Ц	ロ その他 ()	
前回確認時	卆	各館室に対し意向調査を実施した。その内シ	その内容を元に、除籍計画のとりまとめに着手した。
(R2.12.17 教育研		「資料収容力確保のための整理指針」の更新内容に従い、	f内容に従い、廃棄対象とできる製本雑誌のリス
究評議会) からの	下	トを作成した。そのリストに基づき、また意「	また意向調査の結果も踏まえ、自然科学系図書館を当面
進捗状況	0	の重点実施館として、作業計画を策定中。「	「実務指針」の更新案を作成中。
	汝	次年度中には除籍計画を策定する。自然科学	自然科学系図書館については次年度前半には除籍作業を
今後の予定	開格	開始する。次年度中には「実務指針」を更新する。	°° ¢ 4
	*	※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	্ থ মুগ্
盟油かる其準	•	領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	受に関する基準
対阵プの角牛	•	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	単独に 対応し か

	施設及び設備ス	施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	されていること	
	• $4-1-5$	4-1-5 大学組織の一部としての図書館におい	の図書館におい	
分析項目	て、教育研究	て、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備	能な状態に整備	
	し、有効に活	し、有効に活用されていること		
③ 自己点検・評価	自己点検・評価実施状況 (スケジュール)	(ジュール)		
・点検・評価の実施	布	・令和2年11月5日 附属図書館運営委員会	附属図書館運営	委員会
・評価結果の点検・評価	• 評価	 令和2年12月10日 評価委員会 	評価委員会	
対応措置の承認		・令和2年12月17日	教育研究評議会	
進捗確認		· 令和 3 年 3 月 18 日 教育研究評議会	教育研究評議会	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

(様式2)

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた 対応措置の実施計画(改善・向上が必要とされた事項)

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

0
2
70
10
42
监
-
P
حہ
対応策にしい
IJ
無
13
7
- 1 ×
Ď.
課題へ
圈
黙
8
Ü
10
~
101
対形につ
-15
友
スを
7
-
_
ロナウ
7
П
П
젊
る新型コ
70
+
10
4/4
IJ
野にお
各分
160
\•/
*

		大学教育推進委員会	
		施設マネジメント委員会	
① 担当委員会		情報委員会	
(担当委員会を■にして		附属図書館運営委員会	
ください。)		学生委員協議会	
		留学生委員会	
		入試委員会	
年 月	•	・令和3年2月	
② 改善・向上が必要とされた事項	運と	された事項	
(記載にあたっては	NIA	(記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。	ついて」37-42 頁をご参照ください。)
	ij	ニーズ・利用状況・経営面を考慮しながら、	がら、全館的視野で適正なサービスを提供
内容	4	5。利用促進活動に積極的に取り組	する。利用促進活動に積極的に取り組むとともに、電子書籍など新しいサービス
	ζ	も目配りする。(開館サービス・資料	(開館サービス・資料提供サービスと利用促進に関する事項)
根拠	令	令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告	図書館年次報告
計画の実施主体	所属	附属図書館事務部	
	無	f型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴	新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、4/8 から全館臨時閉館とした。5/8 からは特
	別利	別利用を、日時・対象・サービス内容を限定して、	:して、また大学の活動制限指針の変化と部局等か
	5	らの要望に応じて、実施内容を変更しつつ実施した。	指した。
	年	郵送による資料貸出を実施した(2/8 時点で延べ269 名、1, 093 冊)。	で延べ 269 名、1, 093 串)。
	*	\$館利用ができない学生のために、オンラ	来館利用ができない学生のために、オンラインで提供できるサービスを実施・広報した。主
	\$ \$	のとして、チャットによる利用者相談受	なものとして、チャットによる利用者相談受付(5/25~)、電子ブックの紹介と利用促進を狙
	く	った「仮想展示企画」、新聞等データベースの同時アクセス数の拡大。	の同時アクセス数の拡大。
를 해 난 국	沙	5生の多様なニーズを直接選書に反映され	学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、本年度は書店店頭ではな
医 记 四 医二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	Ý	オンラインによる電子ブック選書として	く、オンラインによる電子ブック選書として実施(10/1~11/30、53 名参加、68 件(587, 253 円
(Q階/A)	(分)	分)購入)。	
	绁	2生の読書支援のため、またオンラインで	学生の読書支援のため、またオンラインで学生が参加できるイベントとして、「オンライン語
	十	書室」(WEB 会議で読書時間を共有して知的交流をはかる)を開催した	5流をはかる)を開催した (8/31~9/4、9/7~11、
	12/2	12/2, 9, 16、延べ 25名 (実数 17名)参加)。	
	∜₩	空学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の	全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成
	4	する「情報リテラシー教育支援ワーキンググ	-教育支援ワーキンググループ」のメンバー10名が担当、本年度はオンラ
	<i>></i>	インで実施。(前期計 22 回、2,612 名受講)	
	*	※現時点での状況を記載ください。	
は 世紀 美田 年		□ 検討中	
三国之所罗钦尼		□ 対応中	
		■ 对応浴	
	П	ロ その他 ()	

	領域4 施計	領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	
関連する基準	基準4-1	・基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した	
	施設及び設備な	施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	\
	• $4 - 1 - 5$	・4-1-5 大学組織の一部としての図書館におい	
分析項目	て、教育研究	て、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備	
	し、有効に活	し、有効に活用されていること	\
③ 自己点検・評価実施状況 (スケジュール)	5美施状況 (スケ	ジュール)	
・点検・評価の実施	141	·令和3年2月 附属図書館運営委員会	
・評価結果の点検・評価	評価	・令和3年3月11日~12日 評価委員会(持ち回り)	(持ち回り)
・対応措置の承認		・令和2年3月18日 教育研究評議会	
• 進捗確認		1	

[※] 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

◆保健科学図書室の改修とその結果

保健科学図書室の改修は令和元年度の補正予算で措置された。

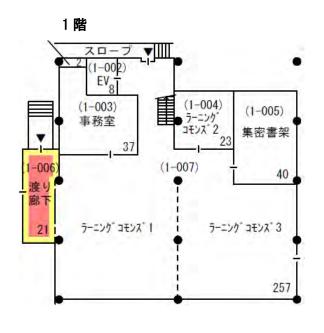
名谷キャンパスの図書館棟は本館(A棟)とともに昭和59(1984)年の建築で、経年による施設の老朽化が著しく機能改善の必要性が高まっていた中、A棟と一体での改修要求が認められたものである。整備方針としてはA棟1階の食堂エリア(ラーニングカフェ)と図書館エリア(ラーニングコモンズ)を増築でつなぎ一体的に整備し、主体的な学習を促進する機能や、多様な学習形態に応じたスペースとして活用できる機能を付加することを目指した。

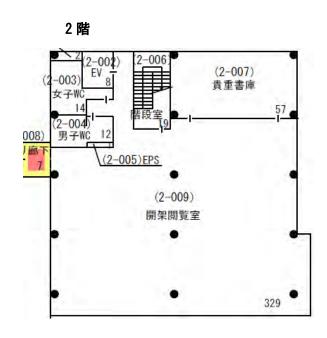
折から本学では平成 31 年度(令和元年度)入学学部生からノート PC が必携となり、図書室 1 階で教育用端末 61 台を設置していた情報処理教室を廃止、代わりに無線 AP やコンセントを整備し、各自の持ち込み PC が使用しやすい環境を整備した。1 階はラーニングコモンズのほか 10 名程度で利用できるグループ学習室も設置し、ディスカッションやグループワークが可能なアクティブゾーンとして整備した。2 階は従来の図書室のイメージを継承した開架閲覧室とし、個人学習を行うサイレントゾーンとして整備した。1 階からの音漏れを防ぐため 2 階への入口には扉を設置した。また既設のダムウェータをエレベータに更新し車椅子利用者のアクセスの問題を解消した。

出入口とカウンター・事務室は1階に移設した。改修前には時間外開館時の入口として無人の非常口を使用しており防犯上の問題があったが、A棟との間の増築部分に出入口を設置することで安全な入退館を可能とした。

工事は令和2年度下半期におこない、工事期間中は名谷キャンパスC304に臨時図書室を設置した。令和3年4月、リニューアルオープンした。

〈改修後図面〉





主なポイント

- ・1 階は A 棟との間を増築して一体的に整備。
- ・1階にラーニングコモンズを新設。アクティブゾーンとして整備。
- ・2階は開架閲覧室。サイレントゾーンとして整備。
- ・出入口とカウンター・事務室は1階に移設。
- ・EV を新設。

〈改修後の様子〉

1階



出入口 自動扉【新設】



出入口 北側【新設】





ラーニングコモンズ / グループ学習室【新設】







カウンター・事務室【新設】



PCコーナー【新設】

2 階



2階入口の扉【新設】



EV【新設】

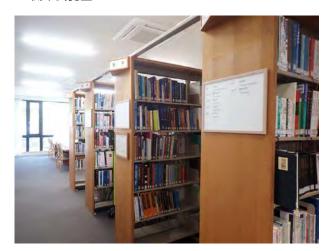


スライド書架 【新設】

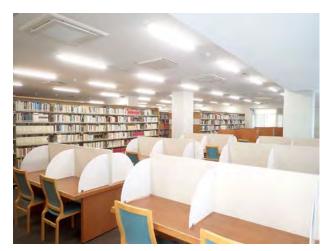
AV ブース



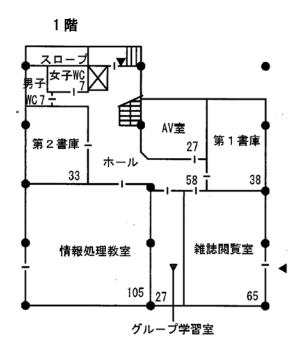
開架閲覧室

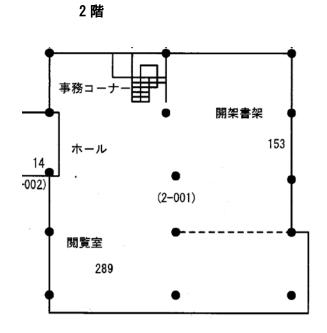


閲覧席



〈改修前図面〉





〈改修前の様子〉

1階



AV 室 / 第1書庫 / 雑誌閲覧室 / グループ学習室



情報処理教室 / 第2書庫



AV 室



雑誌閲覧室



非常口(時間外開館入口)



グループ学習室



情報処理教室



トイレ / ダムウェータ



出入口



カウンター



開架閲覧室



閲覧席



PC コーナー



外観

蔵書	献書数 和洋区分	(冊)	総合・		社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
蔵書	和洋区分	1n '# +			1,416,084	450,042	323,890	344,979	274,918	155,884	57,503	257,680	3,778,089
蔵書	和洋区分	和漢書	355,	178	684,862	230,683	207,821	268,398	123,925	73,555	49,681	201,009	2,195,112
書		洋書	141,	931	731,222	219,359	116,069	76,581	150,993	82,329	7,822	56,671	1,582,977
書		入力済	469,	757	1,294,102	319,482	289,185	293,759	203,607	97,959	57,021	257,680	3,282,552
7	遡及状況	未入力	27,3	52	121,982	130,560	34,705	51,220	71,311	57,925	482	0	495,537
	所蔵雑誌数	(タイトル数)	2,4	45	18,008	5,282	3,571	3,722	6,809	3,047	958	3,087	46,929
		国内雑誌	1,58	84	6,648	2,297	2,633	2,546	3,102	1,594	760	2,058	23,222
5	和洋区分	外国雑誌	86	1	11,360	2,985	938	1,176	3,707	1,453	198	1,029	23,707
	受入図書数	(冊)	2,017	2,206	8,170	3,266	4,186	3,560	608	930	491	1,262	26,696
		和漢書	1,971	1,524	5,475	2,493	3,438	3,382	535	891	481	1,163	21,353
†	和洋区分	洋書	46	682	2,695	773	748	178	73	39	10	99	5,343
		購入(一般財源)	1,986	1,431	3,910	1,521	1,635	1,672	301	553	271	1,004	14,284
		補助金による購入	18	660	2,951	805	2,194	440	78	159	24	168	7,497
	元 /4 元 (1)	一般寄贈	0	90	652	744	292	42	127	138	159	50	2,294
Ę	取得手段	再受入	1	1	55	6	0	1,315	0	0	0	0	1,378
		製本編入	12	24	602	187	65	91	102	72	37	40	1,232
		所属換	0	0	0	3	0	0	0	8	0	0	11
図		学生用図書	1,829	283	1,964	1,132	355	532	131	500	184	685	7,595
書受	取得目的	図書館備付	127	631	2,501	611	1,187	2,041	381	247	230	382	8,338
入		研究室備付	61	1,292	3,705	1,523	2,644	987	96	183	77	195	10,763
ß	除却·移讓等	による減 (冊)	4,7	22	2,095	22,220	1,598	1,369	4,465	1	1,285	113	37,868
1	和学区公	和漢書	4,2	72	793	18,087	903	1,297	874	1	1,195	74	27,496
7	和洋区分	洋書	45	0	1,302	4,133	695	72	3,591	0	90	39	10,372
Ē	所属換による	減 (冊)	3		0	8	0	0	0	0	0	0	11
1	和学区公	和漢書	0		0	8	0	0	0	0	0	0	8
1	和洋区分	洋書	3		0	0	0	0	0	0	0	0	3
ź	年間増加数	(∰)	-50)2	6,075	-18,962	2,588	2,191	-3,857	929	-794	1,149	-11,183
Ŧ	和洋区分	和漢書	-77	17	4,682	-15,602	2,535	2,085	-339	890	-714	1,089	-6,151
1	和汗色刀	洋書	27	5	1,393	-3,360	53	106	-3,518	39	-80	60	-5,032
5	受入雑誌数	(タイトル数)	79	127	1,134	343	786	169	498	372	105	215	3,828
1	和洋区分	国内雑誌	74	100	546	282	695	163	386	273	88	174	2,781
1	加什区刀	外国雑誌	5	27	588	61	91	6	112	99	17	41	1,047
雑		購入(一般財源)	79	60	892	229	233	125	132	154	64	99	2,067
誌	取得手段	補助金による購入	0	0	31	12	0	0	0	43	1	3	90
受人	4X 1 0 1 1 X	一般寄贈	0	67	211	102	553	44	366	175	40	113	1,671
^		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		学生用雑誌	71	12	14	123	15	69	0	131	61	87	583
I	取得目的	図書館備付	3	67	980	89	771	43	494	175	40	107	2,769
		研究室備付	5	48	140	131	0	57	4	66	4	21	476
	受入新聞数	(タイトル数)	8	0	15	10	6	8	8	5	3	8	71
そのす	和洋区分	国内新聞	6	0	12	10	4	8	5	4	3	8	60
他		外国新聞	2	0	3	0	2	0	3	1	0	0	11
資料	取得手段	購入	7	0	15	10	6	8	8	5	3	7	69
受 =		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
入 🖸		(年間契約点数)	14	0	8	2	0	0	0	4	2	0	30
(in		ル(利用可能数)	1	1		1	36,4			1	1		36,418
	一般財源資料		379,688,824	9,842,183	121,692,446	36,534,595	14,908,199	13,388,349	12,960,139	38,007,032	6,806,824	7,896,060	641,724,651
	図書館	学生用資料費	6,314,152	1,946,998	6,983,905	9,663,877	1,619,532	2,844,899	737,656	3,787,915	2,311,358	3,014,901	39,225,193
1	セグメント	その他資料費	372,303,382	0	26,552,317	0	0	0	0	0	0	0	398,855,699
	部局 セグメント	館室備付	398,217	4,195,931	80,444,308	478,597	4,669,077	4,437,088	12,189,332	31,509,941	3,999,789	4,463,685	146,785,965
_		研究室備付	673,073	3,699,254	7,711,916	26,392,121	8,619,590	6,106,362	33,151	2,709,176	495,677	417,474	56,857,794
	その他の財派	財 補助金等	8,103,422	3,423,440	25,393,045	14,801,754	24,020,229	3,942,997	368,827	4,188,339	194,868	1,480,705	85,917,626
H	図書購入費	In'# +	4,808,058	11,466,211	52,379,955	13,971,129	28,176,356	7,862,860	3,159,992	5,223,023	1,508,827	5,353,839	133,910,250
資料	和洋区分	和漢書	4,578,390	6,088,388	20,344,651	7,939,276	21,610,072	6,179,168	1,735,435	4,555,220	1,439,413	3,505,238	77,975,251
購	1# €+ ₽# 7 ±	洋書	229,668	5,377,823	32,035,304	6,031,853	6,566,284	1,683,692	1,424,557	667,803	69,414	1,848,601	55,934,999
入費	雑誌購入費	国中州計	5,900,005	1,430,021	60,176,037	16,555,716	5,745,330	3,301,322	8,268,534	30,598,704	4,500,526	3,396,661	139,872,856
	和洋区分	国内雑誌	913,484	604,436	6,721,328	4,206,096	1,349,379	1,424,321	2,376,215	3,879,395	1,273,576	969,208	23,717,438
_	άC 88 9# 7 . #*	外国雑誌	4,986,521	825,585	53,454,709	12,349,620	4,395,951	1,877,001	5,892,319	26,719,309	3,226,950	2,427,453	116,155,418
	新聞購入費		366,206	0	1,048,849	478,082	264,962	228,998	283,665	264,962	157,718	329,367	3,422,809
-	電子資料費	11 建 7 建	376,673,871	369,391	30,971,752	13,850,784	1,807,144	553,976	1,571,918	5,219,159	618,498	59,133	431,695,626
_	その他の資料		44,106	10.005.000	2,508,898	6,480,638	2,934,636	5,384,190	44,857	889,523	216,123	237,765	18,740,736
_	資料購入費		387,792,246	13,265,623	147,085,491	51,336,349	38,928,428	17,331,346	13,328,966	42,195,371	7,001,692	9,376,765	727,642,277
	電子コンテン	ノTFINL質	70	00	1011150	407.000	5,708		000.450	150.010	00.500	105.100	5,708,796
E A	製本費		78,4	-Uő	1,311,156	407,286	141,570	198,198	222,156	156,816	80,586	105,468	2,701,644

^{*}所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする(平成23年度変更)

附属図書館サービス業務の現況(令和2年度) ※令和2年度に実施した保健科学図書館改修に伴う施設の変更は令和3年度に反映する。

	们两凸目	品 ノ こハ来切り	総合•	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
	施設面積合詞	+ (m²)	国際 3,558	10,313	3,287	1,288	1,474	1,084	1,612	808	2,170	25,594
	心 改山傾口 ā	サービススペース	1.954	2.125	1.577	664	538	1,064	792	603	719	9,113
	現行用途別	書庫スペース	1,934	5,771	449	535	714	887	462	71	1,051	11.148
	(m²)	事務スペース	130	627	351	48	89	27	141	35	159	1,607
.,		その他	266	1,790	910	41	133	29	217	99	241	3,726
施設		閲覧座席数	389	411	286	122	153	24	220	88	170	1,863
	閲覧座席数	上のうち、教員用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書架収容力	棚板延長(m)	12,285	49,003	10,616	8,016	7,857	6,598	6,268	1,792	7,258	109,693
	音笨収谷刀	収容可能冊数	341,300	1,361,200	294,900	222,700	218,300	183,300	174,100	49,800	201,600	3,047,200
	利用者端末台	台数	45	43	38	25	20	1	23	13	16	224
	利用対象者約	総数	4,725	3,986	5,847	740	1,132	61	3,835	971	1,133	22,430
		学部学生	4,210	2,162	2,478	352	632	0	602	496	725	11,657
		大学院生	201	1,166	1,771	208	294	0	577	329	194	4,740
利用者	利用者別	教職員	218	457	1,559	160	175	60	2,611	137	182	5,559
		その他	75	48	8	8	1	1	16	1	26	184
		学外登録者総数	21	153	31 内訳:卒	12	30 放送大学	0 生40 — f	29	8	6	290
		左門	105	000		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			投市民0 102	101	100	1750
	開館日数	年間 + 嗯 (中 **)	195 0	238	195 0	196	195 0	195 0	192	161	192 0	1,759
	ᄧᄧᅜᅜᅜᅑ	土曜(内数) 休日(内数)	0	42 1	0	0	0	0	0	0	0	43
		平日時間外開館	0	191	0	0	0	0	20	0	0	211
	時間外等	土曜開館	0	339.5	0	0	0	0	8	0	0	347.5
	開館時間数	大日開館 休日開館	0	9	0	0	0	0	0	0	0	9
		年間入館者総数	15,011	13,684	16,512	12.146	6,741	611	6,697	1,895	3,362	76.659
開館		(内訳)時間内(含:土日)	15,011	12,780	16,512	12,146	6,741	611	6,560	1,895	3,362	75,618
入館		平日時間外	0	900	0	0	0	0	87	0	0	987
		閉館時(無人)	0	0	0	0	0	0	50	0	0	50
	入館者数	土曜(内数)	0	1,713	0	0	0	0	26	0	0	1,739
	八跖石奴	休日(内数)	0	103	0	0	0	0	0	0	0	103
		学外者(内数)	14	163	21	31	23	6	10	8	1	277
		(内訳)卒業生	8	154	17	31	23	0	10	8	0	251
		他大学生·研究者等	6	9	4	0	0	6	0	0	1	26
-	612 . I . 613 mm 311	一般市民	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	貸出総冊数	w a	28,619	28,101	17,557	12,677	11,898	545	4,945	4,508	6,881	115,731
		学生	14,328	8,213	10,564	4,181	5,058	113	1,849	2,254	3,297	49,857
		院生	9,029	13,165	4,794	6,340	5,011	181	745	1,510	1,537	42,312
貸出		教員 職員	3,361	4,299 2,323	1,496 696	1,713	1,110 712	173 78	324	552 186	696 1,348	13,724 9,641
ДШ	利用者別	^{戦員} その他	1,866 15	2,323	090	419 0	4	0	2,013	0	1,346	26
		学外者総数	20	97	7	24	3	0	14	6	0	
		卒業生(内数)	16	63	6	24	3	0	14	6	0	132
		一般市民(内数)	0	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	参考調査件数		1,420	260	902	495	598	222	1,364	322	1,050	6,633
参考		学生	1,336	153	609	361	470	28	529	289	578	4,353
調査	利用者別	教職員	82	16	160	120	94	144	480	32	57	1,185
		学外者	2	91	133	14	34	50	355	1	415	1,095
	来館複写件数		168	1,851	5,694	1,229	489	756	172	185	63	10,607
	利用者別	学内者	168	1,848	5,694	1,228	489	754	167	182	61	10,591
		学外者	0	3	0	1	0	2	5	3	2	16
	学内 相互利用	ILL文献複写 受付	32	92	49	41	34	24	41	17	13	343
	ᇃᅭᄼᆟᄷᅥ	ILL文献複写 依頼	150	35	166	53	87	8	8	49	14	570
	図書配送	発送申込冊数 妥取中以 四数	5,116	3,276	965	987	2,151	236 316	267	321	979	14,298
複写	ద마바스	受取申込冊数 申込者数	1,943 395	1,571 322	2,383 450	4,771 422	1,636 207	18	470 72	470 83	738 120	2,089
相互		ILL文献複写 受付	180	3,226	317	308	281	114	817	89	155	5,487
利用	学外	ILL文献複写 支刊 ILL文献複写 依頼	429	1,067	500	659	621	28	337	341	46	4,028
	相互利用	ILL現物貸借 受付	404	1,007	74	357	197	17	9	4	80	2,162
		ILL現物貸借 依頼	217	185	72	331	108	17	3	6	5	944
		文献複写 受付	0	8	0	2	0	0	2	0	0	12
	海外ILL	文献複写 依頼	1	2	16	0	0	0	0	0	0	19
	I##ΥNIII		,		0	0	0	0	0	0	0	1
	7471122	現物貸借 受付	1	0							U	

電子ジャーナルアクセス状況 ※基盤整備費にかかるもの フルテキストへのアクセス数

	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9	2020.10	2020.11	2020.12	2021.1	2021.2	2021.3	合計	1
ACS	9,285	9,932	8,783	8,330	7,866	11,143	13,777	12,969	9,035	11,768	9,326	8,641	120,855	1
APS	727	895	844	896	825	895	1,119	1,081	882	1,238	951	915	11,268	*
Cambrige UP	701	789	661	563	527	588	790	652	835	1,063	2,581	780	10,530]
Elsevier ScienceDirect	42,679	51,006	51,780	46,648	41,475	46,810	52,073	49,174	47,933	57,036	48,700	44,131	579,445	
HeinOnline	468	997	1,121	685	512	813	793	804	926	841	703	538	9,201	
JSTOR	3,922	3,857	3,303	4,097	3,091	3,044	3,860	4,576	4,119	4,796	3,943	3,874	46,482]
Nature	10,541	12,909	12,932	10,431	9,537	9,474	10,521	8,643	8,051	8,965	7,801	7,894	117,699	*
Ovid	1,085	1,372	1,163	1,110	1,104	1,004	1,133	1,085	737	914	730	819	12,256]
Oxford UP	3,273	3,617	3,623	3,886	3,408	3,701	4,307	3,988	4,373	4,506	4,260	3,963	46,905	
Project Euclid	100	63	67	81	64	94	86	100	120	98	65	21	959	**
Science Online	2,431	2,491	2,796	2,912	1,743	2,045	2,710	1,747	2,068	2,430	1,729	1,650	26,752	1
SpringerLINK	10,799	14,629	11,108	12,556	11,092	12,095	11,800	11,865	11,544	15,554	11,625	11,739	146,406	*
Wiley Online Library	16.352	17.983	16.012	15.673	14.095	16.351	18.525	17.534	15.860	22.814	17,879	17,699	206,777	1

^{*:}本年度よりCOUNTER Release5に準拠した利用統計の提供へ変更となった為、Metric_Type=Total_Item_Requestsの合計数へ変更

導入データベース数 ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	55 WWW7ウセス
キャンパス限定(医学)	5 医学4(医中誌、EBMR、MEDLINE、Up to date) 保健1(最新看護索引Web)

データベースアクセス状況 ※基盤整位	用負のよびe-s 2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9	2020.10	2020.11	2020.12	谷頃工段 2021.1	2021.2	2021.3	<u>ルコ)が検索数</u> 合計
Business Source Premier	297 (562)	296 (450)	287 (618)	299 (421)	257 (199)	296 (213)	(317)	(356)	(269)	(270)	154 (267)	153 (165)	3,025 (4,107)
	94	108	83	95	43	79	63	(336)	39	38	42	29	780
CINAHL	(424)	(439)	(423)	(731)	(126)	(98)	(210)	(230)	(101)	(59)	(176)	(134)	(3,151)
	1.456	1.583	1.690	1.754	1.365	1,480	2.243	2.531	2.295	2.061	1,440	1.539	21,437
CiNii	(4.832)	(5,938)	(6.121)	(6.012)	(3.977)	(4.126)	(7.387)	(7.622)	(7.597)	(6.502)	(4.085)	(4.360)	(68,559)
E 10	81	77	55	58	31	44	52	60	50	58	22	16	604
EconLit	(213)	(189)	(223)	(166)	(97)	(133)	(130)	(222)	(152)	(179)	(50)	(61)	(1,815)
Index to Legal Periodicals &	53	59	44	33	10	14	26	41	26	21	14	6	347
Books(EBSCOhost)	(104)	(137)	(181)	(69)	(28)	(21)	(57)	(157)	(53)	(33)	(34)	(14)	(888)
JCR	144	171	367	440	239	235	292	308	219	329	232	245	3,221
	(356)	(456)	(880)	(1,377)	(488)	(516)	(621)	(575)	(512)	(637)	(427)	(604)	(7,449)
JDreamIII	71	105	169	84	45	81	68	48	63	72	56	73	935
	(275)	(337)	(405)	(721)	(128)	(377)	(264)	(159)	(207)	(235)	(140)	(467)	(3,715)
Lexis	(388)	(370)	(128)	(134)	(77)	(25)	(114)	(93)	(38)	(6)	(27)	(31)	(1,431)
Academic OneFile	127	176	153	209	145	121	153	142	108	144	89	103	1,670
	(217)	(384)	(351)	(338)	(198)	(147)	(240)	(210)	(182)	(173)	(75)	(108)	(2,623)
General OneFile	35	33	51	73	26	28	58	47	25	25	25	24	450
	(101)	(125)	(154)	(146)	(63)	(44)	(148)	(53)	(65)	(51)	(43)	(41)	(1,034)
MathSciNet	(2,317)	(2,182)	(2,761)	(3,041)	(3,425)	(1,883)	(3,328)	(2,307)	(3,673)	(2,277)	(1,773)	(2,824)	(31,791)
OECD iLibrary	35	30	41	78	33	34	33	38	37	45	81	31	516
PhycARTICLES	115	163	168	263	200	245	138	126	128	167	82	119	1,914
	(127) 74	(238)	(173)	(373) 150	(295) 204	(388)	(273)	(253) 96	(216) 94	(302)	(94) 53	(160) 47	(2,892) 1,431
PhycINFO	(121)	102 (211)	89 (175)	(418)	(352)	(566)	(216)	(360)	(284)	(392)	(173)	(141)	(3,409)
Readers Guide to Periodical	53	58	42	35	10	15	23	41	26	21	14	(141)	344
Literature(EBSCOhost)	(109)	(133)	(179)	(71)	(28)	(25)	(50)	(157)	(54)	(33)	(34)	(16)	(889)
SciFinder-n / SciFinder	(2,188)	(2,863)	(6,839)	(8,764)	(3,339)	(4,340)	(6,971)	(5,828)	(4,668)	(5,528)	(3.451)	(2.276)	(57,055)
Web of Science	2.559	2.869	2.578	2.462	2.013	2.377	3,456	2.639	2.391	2,446	2.622	2.256	30,668
Core Collection	(9,623)	(10,808)	(12,001)	(10,193)	(7,979)	(9,508)	(11,750)	(10,650)	(9,695)	(11,416)	(8,571)	(7,041)	(119,235)
W N	222	221	171	224	215	139	230	219	182	214	160	251	2,448
Westlaw Next	(552)	(513)	(434)	(490)	(464)	(350)	(452)	(579)	(467)	(491)	(354)	(618)	(5,764)
医学中央雑誌	3,706	4,351	3,933	3,630	3,134	3,382	3,705	3,490	2,651	2,762	3,146	2,698	40,588
医子中关椎訫	(10,748)	(11,460)	(10,171)	(9,306)	(7,689)	(9,364)	(9,533)	(8,854)	(6,168)	(6,523)	(8,472)	(6,337)	(104,625)
聞蔵IIビジュアル	304	490	668	639	651	279	442	594	582	681	302	352	5,984
国」成11に ノエアル	(13,656)	(10,659)	(10,877)	(9,263)	(26,710)	(3,958)	(13,783)	(14,794)	(61,633)	(15,572)	(9,433)	(3,680)	(194,018)
ざっさくプラス	-	-	-	44	65	46	32	19	26	67	28	45	372
2 36(2)/\	-	-	-	(177)	(167)	(93)	(81)	(68)	(44)	(226)	(65)	(142)	(1,063)
ジャパンナレッジLib	337	1,156	1,256	1,452	897	455	1,232	1,431	1,758	1,332	815	521	12,642
	(3,848)	(10,141)	(9,120)	(10,787)	(5,714)	(4,037)	(12,728)	(16,729)	(17,481)	(10,255)	(5,667)	(5,192)	(111,699)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	103	79	94	116	99	117	174	201	195	159	140	165	1,642
日経テレコン	64,656	94,466	107,370	221,751	129,993	79,237	136,522	239,073	155,409	95,747	112,406	73,314	1,509,944
毎索	247	383	362	450	510	271	374	318	353	328	197	309	4,102
	(16,255)	(11,913)	(21,819)	(29,775)	(31,306)	(8,137)	(23,075)	(37,783)	(37,324)	(35,129)	(10,673)	(16,002)	(279,191)
メディカルオンライン	5,408	7,255	6,954	6,454	6,690	6,432	7,722	6,878	6,557	6,067	6,930	6,319	79,666
ヨミダス歴史館	120	178	278	287	186	151	197	227	186	189	141	168	2,308
	(1,209)	(2,269)	(1,755)	(2,474)	(2,659)	(1,946)	(1,672)	(2,235)	(2,347)	(2,458)	(879)	(896)	(22,799)

[※]官報は統計データ未公開

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計

図書館ホームヘーン、OPAC等アクセスト	光計												
	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9	2020.10	2020.11	2020.12	2021.1	2021.2	2021.3	合計
図書館トップページ	35,503	37,004	42,191	33,199	26,420	27,252	45,397	40,220	38,883	37,264	30,490	27,518	421,341
OPAC延べ検索回数	99,883	98,896	129,655	123,940	115,614	124,836	149,356	133,455	139,599	131,304	122,515	131,010	1,500,063
ディスカバリー延べ検索回数	745	1,297	1,599	1,526	956	820	1,907	1,332	1,081	986	741	670	13,660
震災文庫トップページ	1,442	1,503	1,686	1,660	1,397	1,094	1,221	1,191	973	1,600	996	1,086	15,849
(うち学内)	103	65	91	114	86	153	198	193	187	236	203	210	1,839
(うち学外)	1,339	1,438	1,595	1,546	1,311	941	1,023	998	786	1,364	793	876	14,010
新聞記事文庫トップページ	6,728	8,486	8,090	7,297	6,790	5,999	6,637	6,216	6,083	7,234	5,840	5,611	81,011
(うち学内)	368	344	398	446	300	290	343	305	281	217	186	203	3,681
(うち学外)	6,360	8,142	7,692	6,851	6,490	5,709	6,294	5,911	5,802	7,017	5,654	5,408	77,330

リンクリゾルバ(SFX)利用統計

	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9	2020.10	2020.11	2020.12	2021.1	2021.2	2021.3	合計
電子リソースアクセス数	11,125	13,192	12,031	17,927	9,392	9,836	11,486	11,610	9,981	10,616	9,245	8,219	134,660
電子リソースリスト	2,488	2,647	2,795	8,101	1,838	1,979	2,388	2,224	2,223	2,325	2,159	1,847	33,014
DBからのアクセス数	8,637	10,545	9,236	9,826	7,554	7,857	9,098	9,386	7,758	8,291	7,086	6,372	101,646
→ フルテキスト	6,527	7,461	7,324	12,482	5,436	5,674	6,358	6,137	5,378	5,989	5,114	4,685	78,565
→ 所蔵検索数	748	928	910	1,047	660	803	1,061	987	983	842	818	571	10,358
→ 文献複写依頼	73	144	116	214	146	135	250	225	157	131	115	112	1,818

[※] アクセス数:電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数: OPAC、Webcatのアクセス回数

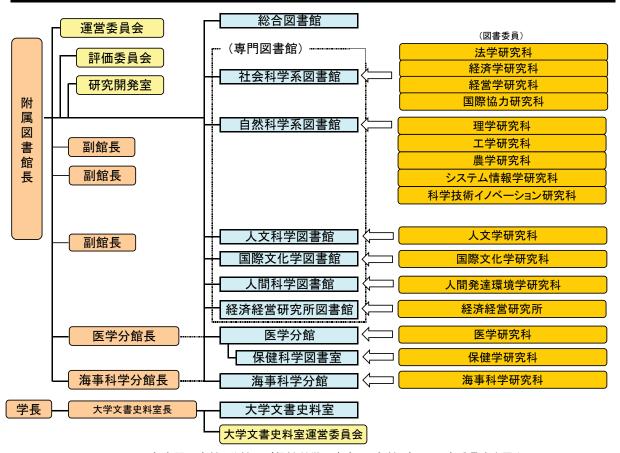
^{**:}本年度より集計対象値を変更

ペト 4次に参照はアンイル 5mm・197ドレス制限撤廃(2020年4月11日~2021年3月31日)、開蔵IIビジュアル:同時アクセス数拡大(2020年4月30日~6月30日)、ざっさくブラス:無償公開(2020年4月1日~6月10日)、ジャパンナレッジLib:同時アクセス数拡大(2020年4月4日~2021年3月31日)、毎素:同時アクセス数拡大(2020年5月7日~6月30日)、ヨミダス歴史館:同時アクセス数拡大(2020年5月11日~6月30日)

各DB(CiNii、WoS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

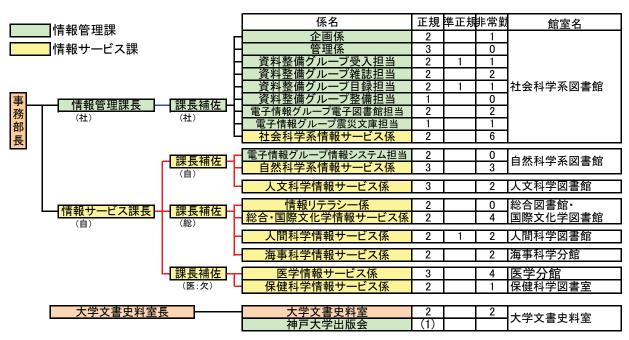
附属図書館組織

(令和3年5月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置 (令和3年5月現在)



附属図書館 正規職員44名 準正規職員3名 非常勤職員32名 大学文書史料室 正規職員 2名 非常勤職員 2名 *非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

|経済経営研究所事務課長| 経済経営研究所事務課図書係 3 0 2 経済経営研究所図書館

令和2年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回: 審議期間 6月29日(月)~ 7月6日(月) (メール回議) 協議事項

- (1) 令和元年度決算について
- (2) 令和2年度電子図書館事業について
- (3) 令和2年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) 令和3年度外国雑誌センターの予算について
- (5) 附属図書館今後10年の運営方針の改訂について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る臨時閉館と「特別利用」の実施について
- (2) GakuNin RDM 実証実験のご案内
- (3) 学術成果リポジトリ Kernel 説明会のご案内
- (4) 2021年外国雑誌購読調査について
- (5) 令和元年事業年度に係る業務の実績について
- (6) 令和元年度附属図書館職員研修実施報告(6/17)
- (7) 令和2年度前期情報リテラシー事業実施報告
- (8) 各図書館・室報告について

第2回: 11月5日(木)10:40~ (於:Web 会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項

- (1) 附属図書館評価委員会設置要項の一部改正について
- (2) 附属図書館における内部質保証実施要項について
- (3) 令和元(平成31)年度附属図書館年次報告(評価委員会案)について
- (4) アンケート調査の実施について
- (5) 令和3年度附属図書館における事務組織改編(案)について
- (6) 資料収容力確保のための整理指針の更新について
- (7) 資料の不用決定について
- (8) その他

報告事項

- (1) 教育研究基盤資料整備費について
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る図書館サービスについて
- (3) 令和3年度外国雑誌センター購読内容について
- (4) 交通機関の運休、気象警報の発表等による臨時休館の判断基準について
- (5) 各図書館・室報告について
- (6) その他

第3回: 1月28日(木)10:40~ (於:Web 会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項

- (1) 令和4年度概算要求及び令和3年度附属図書館予算要求について
- (2) 令和3年度学生用資料費について
- (3) 令和3年度 E-Study 資料について
- (4) 令和3年度附属図書館開館日について

- (5) 神戸大学附属図書館利用細則の改正について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 附属図書館研究開発室設置要項の一部改正について
- (2) 自然科学系図書館改修について
- (3) 利用者アンケート調査結果(令和2年度・速報版)について
- (4) オンライン読書室実施報告について
- (5) 学生選書ツアー2020 電子ブックリクエストキャンペーン実施報告について
- (6) 各図書館・室報告について
- (7) その他

第4回: 3月30日(火)15:10~ (於:Web 会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項

- (1) 令和3年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 令和元年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (3) 資料の不用決定について
- (4) その他

報告事項

- (1) 文部科学省ジャーナル問題検討部会について
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る図書館サービスについて
- (3) 2019年度購入電子書籍コンテンツ利用状況
- (4) 情報リテラシー事業 令和2年度報告・令和3年度計画について
- (5) 附属中等教育学校生の大学図書館利用について
- (6) 各図書館・室報告について
- (7) その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回: 審議期間 6月11日(木)~ 17日(水) (メール回議)

審議事項

- (1) 令和元年度決算について
- (2) 令和2年度電子図書館事業について
- (3) 令和2年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) 令和3年度外国雑誌センターの予算について
- (5) 附属図書館今後10年の運営方針の改訂について

第2回: 10月30日(金)15:10~(於:Web会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項

- (1) 附属図書館評価委員会設置要項の一部改正について
- (2) 附属図書館における内部質保証実施要項について
- (3) 令和元 (平成31) 年度附属図書館年次報告 (評価委員会案) について
- (4) アンケート調査の実施について
- (5) 令和3年度附属図書館における事務組織改編(案)について
- (6) 交通機関の運休、気象警報の発表等による臨時休館の判断基準(案)について
- (7) 資料収容力確保のための整理指針の更新について
- (8) その他

- 第3回: 1月25日(月)15:10~(於:Web 会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項
 - (1) 令和4年度概算要求及び令和3年度附属図書館予算要求について
 - (2) 令和3年度学生用資料費について
 - (3) 令和3年度 E-Study 資料について
 - (4) 令和3年度附属図書館開館日について
 - (5) 神戸大学附属図書館利用細則の改正について
 - (6) その他
- 第4回: 3月24日(水)10:40~ (於: Web 会議、自然科学系図書館4階会議室) 協議事項
 - (1) 令和3年度附属図書館当初予算配分について
 - (2) 令和元年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
 - (3) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回: 9月1日(火)~4日(金) (メール回議) 議題

(1) 令和元年度神戸大学附属図書館年次報告について

第2回: 3月25日(木)~29日(月) (メール回議) 議題

(1) 令和2年度部局年次計画重点事項の実績報告について

<附属図書館研究開発室会議>

電子化部会 第1回: 5月21日(金)~5月28日(木) (メール回議) 報告事項

(1) 令和元年度電子図書館事業報告

協議事項

(1) 令和2年度電子図書館事業計画(案)について

- 教育研究支援部会 懇談会: 3月23日(火) 10:00~11:00 (Web 会議) 議題
 - (1) 令和2年度附属図書館サービスについて
 - (2) 令和3年度情報リテラシー計画について
 - (3) 図書館 Web サイト「遠隔授業に関する情報」ページ公開について

<情報サービス課連絡会議>

第1回: 4月23日(金) (Web 会議)

議題

(1) 限定的な開館再開後の図書館サービスについて

第2回: 5月15日(金) 14:00~16:00 (Web 会議) 議題

- (1) 特別利用について
- (2) 郵送貸出について

- (3) サービス課の連絡体制について
- 第3回: 5月22日(金) 14:00~15:00 (Web 会議)

議題

- (1) 特別利用について(各館室報告)
- (2) 郵送貸出について
- (3) 活動制限指針に対応した図書館サービスについて
- 第4回: 5月29日(金) 14:00~15:10 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 郵送貸出について
 - (3) ツイッター指針改定
- 第5回: 6月5日(金) 14:00~15:30 (Web 会議)
 - 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 第2Qの図書館サービスについて
- 第6回: 6月19日(金) 10:00~11:30 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 第2Qの図書館サービスについて
 - (3) 情報基礎等の実施報告
- 第7回: 7月3日(金) 10:00~11:30 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館報告)
 - (2) サービス関連確認事項
 - (3) サービス関連不具合
 - (4) 図書館利用者アンケート
- 第8回: 7月16日(木) 10:00~11:30 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 研究室備付資料の利用について
 - (3) 開館時間の延長
 - (4) 障害者差別解消法への対応
 - (5) 附属学校要望について
 - (6) 書庫利用状況について (学外者等)
 - (7) 「神戸大学活動制限指針に係る図書館の対応の検討」(要準備)
- 第9回: 7月30日(木) 10:00~11:45 (Web 会議)
 - 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 国文・人間図への4回生入館について
 - (3) 保健図の引っ越しスケジュールについて
 - (4) 事務室へのパーティション設置について
 - (5) 課内の情報共有について
 - (6) 附属学校の要望について(2)
 - (7) 学内ワークスタディについて
 - (8) 卒業生延滞図書一斉督促(夏季)について
 - (9) 無線 AP の設置について

- (10) 閲覧席へのパーティション設置について
- 第10回: 8月27日(木) 10:00~11:45 (Web 会議)
 - 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 附属学校の要望について
 - (3) 学外者向け利用案内ページの更新について
 - (4) 後期の図書館利用について
- 第11回: 9月10日(木) 10:00~11:45 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 2020年度後期(10/1-2/8)の学生の図書館利用について
 - (3) 後期の郵送貸出について
 - (4) 臨時休館等の判断基準と連絡・広報体制について
- 第12回: 9月24日(木) 10:00~11:45 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 2020年度後期(10/1-2/8)の学生の図書館利用について
 - (3) 郵送貸出(2020年度後期)について
- 第13回: 10月8日(木) 10:00~11:30 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 令和3年度初年次セミナー共通教材の修正について
 - (3) 2020年度後期(10/1-2/8)の学生の図書館利用について
 - (4) 研究室貸出の案内その他について
 - (5) 予約上限冊数について
 - (6) スマホ入館 全学試行結果と本格実施について
 - (7) 規程改定について
 - (8) 業務改善について
- 第14回: 10月22日(木) 10:00~11:15 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 業務改善について
 - (3) 附属学校へのデリバリーについて
 - (4) 資料のスマホ撮影について
- 第15回: 11月6日(木) 10:00~11:20 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) コロナ感染者が出た場合の事務対応について
- 第16回: 11月19日(木) 10:00~11:40 (Web 会議) 議題
 - (1) 特別利用について(各館室報告)
 - (2) 郵送貸出について
 - (3) ILL 申し込みメニューについて
 - (4) 学外者の利用について
 - (5) 学生用図書費の再検討について
- 第17回: 12月3日(木) 10:00~11:20 (Web 会議)

議題

- (1) 特別利用について(各館室報告)
- (2) 全頁複写について
- (3) 郵送での返却方法について
- (4) 来年度の開館予定(案)、学生アルバイトについて
- (5) 感染者がでた場合の対応
- (6) 附属学校教職員のデリバリー利用について
- 第18回: 12月17日(木) 10:00~ (Web 会議)

議題

- (1) 特別利用について(各館室報告)
- (2) 学生アルバイトについて
- (3) レファレンス対応について
- (4) 感染症対策の(利用者向け)周知について
- 第19回: 1月14日(木) 10:00~11:30 (Web 会議)

議題

- (1) 特別利用について(各館室報告)
- (2) 図書館利用案内2021について
- (3) 春季休業貸出および卒業生の利用証作成について
- (4) レファ協のアンケートについて
- (5) 時間外開館学生アルバイト募集について
- (6) 1月以降の図書館サービスについて(第4Q期間~春季休業期) 授業期間内(~2/8) において
- 第20回: 1月29日(木) 10:00~11:45 (Web 会議)

議題

- (1) 特別利用について(各館室報告)
- (2) 郵送貸出(春休み2/9-4/5)の内容について
- (3) 春季休業期の図書館サービスについて
- (4) 神戸大学古本募金(BKB)の箱に入れられた本について
- (5) 保存館の表示について
- (6) ブックチェックユニットについて
- 第21回: 2月18日(木) 10:00~11:30 (Web 会議) 議題
 - (1) 各館報告
 - (2) R3(2021)年度の図書館サービスについて
 - (3) OPAC 雑誌所蔵の「保存館」表記について
- 第22回: 3月4日(木) 10:00~11:15 (Web 会議)

議題

- (1) 各館報告
- (2) R3(2021)年度の図書館サービスについて
- (3) 医学分館の利用証 Web 申請について
- (4) 各館カレンダー色の変更について
- (5) 工学研究科からの要望について
- (6) 今年度卒業予定者への返却案内一斉送付作業について
- 第23回: 3月16 (火) 13:30~14:15 (Web 会議)

議題

(1) 各館報告

- (2) 各館カレンダーの変更について
- (3) 利用申請(卒業生)について
- (4) 来年度の学内ワークスタディについて
- (5) 来年度のサービス課連絡体制について

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職名	氏 名	任 期 等
附属図書館長	工・教授	冨山 明男	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
副館長	経営・教授	末廣 英生	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
(社会科学系・図書委員長)			
副館長	工・教授	喜多 隆	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
(自然科学系・図書委員長)			
副館長	人文・教授	緒形 康	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
(附属図書館評価委員長)			
医学分館長	医・教授	榎本 秀樹	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	三村 治夫	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
大学教育推進機構	教 授	山内 乾史	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
人文学研究科	教 授	山本 秀行	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
国際文化学研究科	教 授	市田 良彦	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
人間発達環境学研究科	教 授	鳥居 深雪	R2. 4. 1~R4. 3. 31
法学研究科	教 授	小田 直樹	R2. 4. 1~R4. 3. 31
経済学研究科	教 授	奥西 孝至	R2. 4. 1~R4. 3. 31
経営学研究科	教 授	藤原 賢哉	R2. 4. 1~R4. 3. 31
理学研究科	教 授	播磨 尚朝	R2. 4. 1~R4. 3. 31
保健学研究科	教 授	古和 久朋	R2. 4. 1~R4. 3. 31
工学研究科	教 授	北後 明彦	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
システム情報学研究科	教 授	田中 茂典	R2. 4. 1~R4. 3. 31
農学研究科	教 授	野村 啓一	R2. 4. 1~R4. 3. 31
国際協力研究科	教 授	土佐 弘之	R2. 4. 1~R4. 3. 31
科学技術イノベーション研究科	経営・教授	尾崎 弘之	R2. 4. 1~R4. 3. 31
経済経営研究所	教 授	佐藤 隆広	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	R2. 4. 1~R4. 3. 31
附属図書館	事務部長	村上 健治	

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職名	氏	名	備	考
(委員は全て官職指定)				
附属図書館長	富山	明男		
副館長	末廣	英生		
副館長	喜多	隆		
副館長	緒形	康	委員長	
医学分館長	榎本	秀樹		
海事科学分館長	三村	治夫		
事務部長	村上	健治		
情報管理課長	矢野	真弓		

情報サービス課長	中山 貴弘	
----------	-------	--

<附属図書館研究開発室室員名簿>

所 属	職名	氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	富山 明男	室長
7.2.17	文・教授	奥村 弘	R2. 4. 1~R4. 3. 31
			(震災関連資料電子化)
	文・准教授	梶尾 文武	R2. 4. 1~R4. 3. 31
			(国文学研究資料館古典籍
電子化部会			データベース)
	研究所・准教授	髙槻 泰郎	R2. 4. 1~R4. 3. 31
			(新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館	花﨑佳代子	R1. 7. 1~R3. 6. 30
	係長		
	大教・教授	山内 乾史	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
	大教	石川慎一郎	H31. 4. 1∼R3. 3. 31
	国際コミュニケーション		
教育研究支援部会	センター・教授		
教育如九义仮印云	国文・准教授	清光 英成	R2. 4. 1~R4. 3. 31
	図・情報サービ	笠原 夕美	R1. 7. 1~R3. 6. 30
	ス課課長補佐		
	図・情報リテラ	井庭 朗子	R1. 7. 1~R3. 6. 30
	シー係長		
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	R2. 4. 1~R4. 3. 31
(叩云に偶でり)			(情報システム)

<附属図書館研究開発室 電子化部会震災関係資料小委員会委員名簿>

令和3年1月1日現在

所属	職名	氏 名	任期
委員長 人文学研究科	教授	奥村 弘	※ R2. 4. 1∼R4. 3. 31
委員 附属図書館	係長	花﨑 佳代子	※ R1. 7. 1∼R3. 6. 30
専門委員 都市安全研究センター	教授	北後 明彦	R3. 1. 1~R4. 3. 31
専門委員 人文学研究科	特命講師	吉川 圭太	R3. 1. 1~R4. 12. 31
専門委員 人文学研究科	特命助教	加藤 明恵	R3. 1. 1~R4. 12. 31
専門委員 人文学研究科	学術研究員	佐々木 和子	R3. 1. 1~R4. 12. 31

※研究開発室室員の任期とする

令和2年度 附属図書館決算

1. 既定経費

事項	令和2年度 予算配分額 (当初) (A)	令和2年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和2年度 予算配分総額 (C)	令和2年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()內 単位:千円		
A. 経常運営費								
(1) 備品・消耗品費	5, 100, 000		5, 100, 000	6, 102, 462		事務用品(886)、図書館用品(875)、蛍光灯類(461)、電算用品(308)、用紙類(146)、備品・什器 (90)、雑用品(565)、LL管理経費不足分(ILL関係消耗品 993) ・新型コロナ器染金対策(計1,778): 机上衡立設置、受付カウンター用被譲収設置、タンホールルー設定、非接触型体温計、コロナ対策消耗品 (72) 事業中四半年 事業中8半年		
(2)事務用図書費	300, 000		300, 000	288, 527		事務用図書、事務用雑誌		
(3) 印刷製本費	300, 000		300, 000	121, 847		利用案内等 【予算】令和2年度課外活動施設維持費配分(27)		
(4) 光熱水料	23, 000, 000	27, 517	23, 027, 517	15, 043, 116	7, 984, 401	【執行】電気料(11,802)、ガス料(1,835)、上下水道料(1,406)		
(5)通信運搬費	6, 200, 000		6, 200, 000	4, 904, 944		書籍等運送業務(2,651)、宅配便(1,299)、郵便料(655)、電話料(299)		
(6)借料及び損料	1, 300, 000		1, 300, 000	831, 772	468, 228	複写機保守費		
(7)雜役務等諸経費	32, 000, 000	131, 088	32, 131, 088	34, 250, 865	△ 2, 119, 777	[予算]R元年度PFI事業終了に伴いR2年度施設部既定経費(177) 学舎警備業務の予算組節(48)、 (執行]清掃業務 (935)、[V税守 (5,601)、警備業務 (5,010)、補団地設備保守 (2,832)、特高保守 (1,761)、機器修理(1,589)、空間保守修繕(1,184)、厳富点検業務(1,146)、清防設備保守修繕(1,108)、廃 棄物処理 (777)、截距下後務業が769。 電話支援保守(322)、諸会を(238)、建物修繕(292)、給水設備保守修繕(622)、除年間定(258)、建物修繕(292)、統分設備保守修繕(622)、除年期定(257)、空間フィルター清掃(80)、その他役務(807)		
(8) 非常勤職員給与等	74, 000, 000		74, 000, 000	73, 933, 308	66, 692	非常勤職員人件費		
(9) 電子計算機維持経費	168, 000		168, 000	210, 000	△ 42,000	情報基盤センター利用負担金		
(10) 職員旅費	900, 000		900, 000	52, 990	847, 010	会議・研修会・講習会旅費(29)、バス・地下鉄・私鉄カード(23)		
(1)~(11)小 計	143, 268, 000	158, 605	143, 426, 605	135, 739, 831	7, 686, 774			
B. 経常事業費								
(1) 時間外開館経費	15, 500, 000		15, 500, 000	2, 767, 697	12, 732, 303	新型コロナ感染症により時間外開館縮小 (業務委託:社会・医学・保健・自然)		
	10, 000, 000		10, 000, 000	0	10, 000, 000	新型コロナ感染症により学生雇用不可 (学生雇用:総合国際・人文・人間・海事・自然)		
(2)電子図書館事業	5, 904, 000		5, 904, 000	6, 135, 498		研究開発室へ決算報告		
(3) その他事業費(展示会経費) (4) 図書館資料費	150, 000 72, 166, 000		150, 000 72, 166, 000	71, 043, 120	1, 122, 880	新型コロナ感染症により令和2年度デジタル資料限に変更		
学生用資料費	40, 000, 000		40, 000, 000	39, 225, 193		大学機能強化支援資料(V.School間違図書 11冊、SDGs間違図書 9冊)を含む		
e-study資料費	4, 602, 000		4, 602, 000	5, 265, 610	,	ジャパンナレッジLib(百科事典・辞典等データペース)の同時アクセス数を拡大		
大学機能強化支援資料費(令和2年度新規)	164, 000		164, 000	0, 200, 010		大学機能強化支援資料費(学生用資料費から執行)		
震災文庫資料費	400, 000		400, 000	399, 274	726	777 WILLIAM TO STATE OF THE STAT		
外国雑誌センター館経費	27, 000, 000		27, 000, 000	26, 153, 043	846, 957			
(5)製本費	1, 000, 000		1, 000, 000	1, 050, 720	△ 50, 720			
(6)附属図書館長裁量経費	8, 430, 000	△ 8,770,000	△ 340,000	30, 543, 604	△ 30, 883, 604	【予選】学内型(全側度へ7,000) 出版金前家在整施(-800)、大学文書史料室前年度機越(-810) (銀行]海耗品等(495) ・ 地方側距下便可靠者推進(計1941)、貴東書並設調更新・強物機(9,273)、床補修、除湿機新設2台、書庫用報題(国 0,28等的作業、以民定ンセン・持続、防犯が5ハードラ(2)交換等・自義等学系図書館無機(計1747)・網戸取付、エアコン設置・1. 大阪等等の機能機(付1747)・網戸取付、エアコン設置・1. 大阪等等機能機(付1747)・網戸取付、エアコン設置・1. 大阪等等機能機(付1747)・原列取力ラ重新(1.463)、格子更新等・エルー等等・エルー等等・展子を開発(1958)、カーテン・フェルーで、原列を選手の、本流と以設置・1. 大阪等ので、大阪等ので、大阪等ので、大阪等ので、大阪等ので、大阪等の、大阪等の、大阪等の、大阪等の、大阪等の、大阪等の、大阪等の、大阪等の		
(7) 研究科長等運営経費返却分	400, 000		400, 000	400, 000	0	平成30年度目録檢索用端末更新(chromebox)借入(2,000) (令和元年度~令和5年度返済 @400千円×5年)		
(1)~(7)小 計	113, 550, 000	△ 8, 770, 000	104, 780, 000	111, 940, 639	△ 7, 160, 639			
運営費+事業費	256, 818, 000	△ 8, 611, 395	248, 206, 605	247, 680, 470	526, 135			
C. 大学文書史料室								
運営経費	6, 317, 000	810, 000	7, 127, 000	6, 844, 281	282, 719	【予算】前年度繰越(810)		
附属図書館+大学文書史料室 既定経費 計	263, 135, 000	△ 7,801,395	255, 333, 605	254, 524, 751	808, 854			

2. 収入確保インセンティブ経費等から繰入

事項	令和2年度 予算配分額 (当初) (A)	令和2年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和2年度 予算配分総額 (C)	令和2年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
D. 収入確保インセンティプ経費等から繰入		8, 375, 732	8, 375, 732		8, 375, 732	【予算】前年度繰越(714)、ILL等収入(3,329)、複写機使用料等(1,695) 出版会:前年度繰越(960)、収入(1,677)
(1)建物老朽劣化対策経費		△ 4, 124, 000	△ 4, 124, 000	0	△ 4, 124, 000	施設部予算へ(4,124)
(2) ILL 費用計上				1, 547, 986	△ 1,547,986	文献複写等他大学へ依頼分(1,547)
(3)ILL 管理運営経費 (備品消耗品費に充当)				701, 066	△ 701,066	ILL関係消耗品(図書館用品、用紙類、事務用品等)
(4)出版会 管理運営経費				2, 002, 680	△ 2, 002, 680	出版委託費等
収入確保インセンティブ経費等 小計	0	4, 251, 732	4, 251, 732	4, 251, 732	0	
1. 既定経費+2. 収入確保インセンティプ経費等総、計	263, 135, 000	△ 3, 549, 663	259, 585, 337	258, 776, 483	808, 854	令和3年度繰越

3. 臨時的経費等(参考)

事 項	令和2年度 予算配分額 (当初) (A)	令和2年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和2年度 予算配分総額 (C)	令和2年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘要
E. 電算機借料						
情報化推進経費(図書館システム)		45, 411, 840	45, 411, 840	45, 411, 840	0	
小 計	0	45, 411, 840	45, 411, 840	45, 411, 840	0	
F. 臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	367, 037, 772	7, 919, 252	374, 957, 024	374, 957, 024		SciFinder受益者負担金(7,919)
戦略的事業経費(防災設備点検)	68, 200	0	68, 200	68, 200		防災設備点検費
学内ワーススタディ実施経費	580, 000	74, 000	654, 000	654, 000	0	【予算】科学技術イノベーション研究科より予算振替(74) 各館室業務補助員
神戸大学出版会事業	400, 000	0	400, 000	400, 000	0	出版事業、出版会事務経費
保健科学図書室改修	14, 848, 000	0	14, 848, 000	14, 848, 000	0	
移転費	11, 386, 000	0	11, 386, 000	11, 386, 000		移転費(書架・図書・防犯機器・ネットワーク機器・物品等)
建物新営等設備費	3, 462, 000	0	3, 462, 000	3, 462, 000	0	什器購入費(閲覧机・椅子・ホワイトボード・スクリーン等)
施設部営繕事業	_	6, 317, 446	6, 317, 446	6, 317, 446		総合・国際文化学図書館書庫照明設備改修(5,500) フロンティア館3階北側砂壁設置(817)
老朽劣化対策経費	_	1, 329, 479	1, 329, 479	1, 329, 479		国際文化学図書館棟(A棟)等漏水補修工事
環境・安全推進事業	_	734, 800	734, 800	734, 800		自然科学系図書館等非飛散性等アスベスト調査試料
施設整備費(名谷・保健学系)	_	108, 067, 964	108, 067, 964	108, 067, 964	0	保健科学図書室改修
小 計	382, 933, 972	124, 442, 941	507, 376, 913	507, 376, 913	0	
G. 外部資金						
国文学研究資料館 (資料修復費)		315, 655	315, 655	315, 655		歴史的典籍NW事業 撮影契約等は 国文学研究資料館が実施
誓子基金	380, 273	100, 000	480, 273	50, 430		山口文庫関連書籍購入費 残額は令和3年度繰越
神戸大学出版会出版基金		47, 500	47, 500	0		令和3年度繰越
神戸大学出版会出版事業助成金 (KTC)		980, 000	980, 000	0	980, 000	令和3年度繰越
小富士	380, 273	1, 443, 155	1, 823, 428	366, 085	1, 457, 343	
臨時的経費等 計	383, 314, 245	171, 297, 936	554, 612, 181	553, 154, 838	1, 457, 343	

令和2年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

(門)内口目印 [ファント/	(門馬凶音郎ピアアンド) 単位・ド					平位 11			
館室名	学生用資料				震災文庫	外国雑誌	e-study	**	=1
館室名	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数	資料費	センター	事業費	教育研究基盤 資料整備費	計 ***
総合図書館	6,978,000	6,314,152	663,848	1,829			5,265,610	367,037,772	378,617,534
社会科学系図書館	6,984,000	6,983,905	95	1,964	399,274	26,153,043			33,536,222
自然科学系図書館	9,664,000	9,663,877	123	1,132					9,663,877
人文科学図書館	1,729,000	1,619,532	109,468	355					1,619,532
国際文化学図書館	1,947,000	1,946,998	2	283					1,946,998
人間科学図書館	2,845,000	2,844,899	101	532					2,844,899
経済経営研究所図書館	738,000	737,656	344	131					737,656
医学分館	3,788,000	3,787,915	85	500					3,787,915
保健科学図書室	2,312,000	2,311,358	642	184					2,311,358
海事科学分館	3,015,000	3,014,901	99	685					3,014,901
小 計	40,000,000	39,225,193	774,807	7,595	399,274	26,153,043	5,265,610	367,037,772	438,080,892

注* 図書の他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

注*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 5,708,796円がある

(部局セグメント)

単位:円

(即周ピクグンド)	一般	一般財源 図書資料費				
館室名	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計			
総合図書館	398,217	673,073	1,071,290			
社会科学系図書館	80,444,308	7,711,916	88,156,224			
自然科学系図書館	478,597	26,392,121	26,870,718			
人文科学図書館	4,669,077	8,619,590	13,288,667			
国際文化学図書館	4,195,931	3,699,254	7,895,185			
人間科学図書館	4,437,088	6,106,362	10,543,450			
経済経営研究所図書館	12,189,332	33,151	12,222,483			
医学分館	31,509,941	2,709,176	34,219,117			
保健科学図書室	3,999,789	495,677	4,495,466			
海事科学分館	4,463,685	417,474	4,881,159			
計	146,785,965	56,857,794	203,643,759			

(部局セグメント)

単位:円

館室名	補助金等による購入								
路 至 石	科研費	委任経理	受託研究	その他	計				
総合図書館	140,064	0	0	7,963,358	8,103,422				
社会科学系図書館	18,915,005	1,395,693	1,077,331	4,005,016	25,393,045				
自然科学系図書館	9,742,972	1,823,743	3,079,994	155,045	14,801,754				
人文科学図書館	17,928,726	27,691	2,886,382	3,177,430	24,020,229				
国際文化学図書館	2,416,463	0	334,935	672,042	3,423,440				
人間科学図書館	3,784,345	49,851	29,601	79,200	3,942,997				
経済経営研究所図書館	342,569	0	0	26,258	368,827				
医学分館	345,213	2,200,752	1,547,942	94,432	4,188,339				
保健科学図書室	178,157	8,316	0	8,395	194,868				
海事科学分館	1,214,226	108,856	0	157,623	1,480,705				
計	55,007,740	5,614,902	8,956,185	16,338,799	85,917,626				

単位:円

T T . 1
合計
387,792,246
147,085,491
51,336,349
38,928,428
13,265,623
17,331,346
13,328,966
42,195,371
7,001,692
9,376,765
727,642,277

2020 (令和2) 年度 附属図書館活動日誌

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面会議やイベントの多くが中止となり授業日程も変更された

		仏人的正のため、対面会議やイベントの多くが中止となり授業は程も変更された
	月>	【開催せず】附属図書館令和2年度着任式
	(水)	経営学部編入生オリエンテーション<於:六甲台本館>
2	(木)	博士課程学生向け OA ガイダンス(法学) <於:第二学舎大会議室 説明:電子図書館係>
9	(金)	【中止】入学式 〈於:神戸国際展示場〉
	(月) ~30 (木)	【中止】新入生対象図書館セルアツアー <於:医学分館>
	(火)	【中止】 柳戸大学新任教職員研修 〈於:六甲台講堂〉
		兵庫県に緊急事態宣言が発出された
	(木) ~5月6日	
		緊急事態宣言を受け臨時休館(全館室) 【中止】博士課程学生向け OA ガイダンス(発達、経営)
	(月)	
		【中止】図書館セルブツァー <於:自然科学系図書館>
1 4	.,	おりか授業のための研修会 <於:瀧川記念館大会議室、Webex>
1 5		【中止】博士課程学生向け 0A ガイダンス(農学、人文)
	(水) ~ 5月8日	臨時休館期間の延長を決定(全館室)
16	(木)	遠隔授業サポートに関する打合せ <於:国際教養教育院長室
		出席:部長、サービス課長>
	(1) 5 8 9 8	【中止】オーダーカーイダンス(保健)<於:保健科学図書室>
	(木) ~5月6日	緊急事態宣言が全国の都道府県に拡大された
1 7	(金)	【中止】国立大学図書館協会近畿地区図書系専門試験実施委員会、
		(同上) 近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務部長懇談会、
		(同上)近畿地区協会総会 <於:神戸大学附属図書館>
		【中止】図書館セルフツアー <於:海事科学分館>
	(月)~5月30日	【中止】図書館セルフツアー <於:人文科学図書館>
	(月) ~6月20日	【中止】図書館セルフツアー <於:総合・国際文化学図書館>
	(火)	【中止】兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修<学内>
2 1	(火) ~ 2 4 (金)	【中止】兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修
		<於:国立淡路青少年交流の家>
2 3	(木)	【オンデマンド版での実施に変更】理学(内野先生) オーダーガイダンス、
		保健(石井先生) オーダーガイダンス
		【メール回議に変更】第1回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
		<担当:担当補佐>
		サービス課連絡会議 (Webex)
2 8	(火)	「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」の
		制定、レベル4の当面維持が発表された
2 9	(水・祝)	【中止】祝日授業実施日による通常開館
~ 5	月>	
	(月) ~5月31日	緊急事態宣言の延長が発表された
	(木) ~6月25日	第1/h-h-、遠隔授業開始
	(金)	第1777、逐層2末開始 緊急事態宣言の延長、「神戸大学の活動制限指針」 レベル4を受け
٥	(亚)	
		当面の間の閉館を維持、5月11日からの「特別利用」実施を決定
		【遠隔_zoom】安全講習会(理学部生物学科)<説明:係員(自然)>
		【隔実_zoom】ガイダンス雑誌論文の探し方

1 1	(月) ~6月25日	附属図書館の「特別利用」開始 <於:医学分館、保健科学図書室以外
1.0	(火)	月、木の 13:00-16:30 社系のみ土曜日あり> 【遠隔_zoom】総合教養科目「阪神淡路大震災」にて震災文庫を紹介
1 4	(90)	【選牌_200Ⅲ】総古教養村日「敷骨次路入展次」に、展次文庫を紹介 <履修人数:102名 説明:電子図書館係長>
1 5	(A)	一人機能八数 . 1 U 2 名
1 5	(金)	
1.0	(H) - 00 (A)	サービス課連絡会議(Webex)
18	(月) ~ 2 2 (金)	【中止】図書館がアッアー <於:社会科学系図書館>
		兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
		(外)回議にて開催)
0.1	(A) - 9.9 (+)	自然科学系図書館 第1回図書委員会(メール回議)
	(金) ~ 28 (木)	研究開発室会議第1回電子化部会(外心回議)
22	(金)	【オンデマンド版での実施に変更】発達人間・環境共生初年次セミナー
0.5	(B)	サービス課連絡会議(Webex)
	(月)	緊急事態宣言の解除が発表された
		海事科学分館 第1回図書委員会(テル回議)
		【今年度の開催中止】大学図書館近畿仁シアティブ「初任者研修」
29	(金)	サービス課連絡会議(Webex)
< 6	月>	
1	(月)	【今年度の開催中止】神戸市_トライやるウィーク
		「特別利用」開始 <於:医学分館、保健科学図書室>
1	(月) ~5 (金)	人文科学図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
2	(火) ~9 (火)	社会科学系図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
5	(金)	サービス課連絡会議(Webex)
8	(月) ~12 (金)	人間科学図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
		保健科学図書室 第1回図書委員会 (メール回議)
8	(月) ~15 (月)	国際文化学図書館 第1回図書委員会(メール回議)
1 0	(水) ~16 (火)	海事科学分館 第2回図書委員会(メール回議)
1 1	(木) ~17 (水)	第1回館長・副館長・分館長懇談会(メール回議)
1 1	(木) ~22 (月)	【兵教ホールでの開催を中止し、メール回議に変更】
		第119回兵庫県大学図書館協議会総会(メール回議)
1 7	(水) ~23 (火)	医学分館 第1回図書委員会 (メール回議)
1 8	(木) ~19 (金)	【オンライン投票に変更】第67回国立大学図書館協会総会
19	(金)	サービス課連絡会議(Webex)
		【遠隔】初年次セミナー 文学部
19	(金) ~24 (水)	経済経営研究所図書館 第1回図書委員会(メール回議)
2 1	(日)	電気設備定期点検に伴う停電 <於:鶴二キャンパスを除く六甲台地区全域>
2 6	(金) ~7月6日	海事科学分館 第3回図書委員会(メール回議)
2 6	(金) ~8月3日	「特別利用」による開館(平日の13:00-16:30) <於:保健科学図書室>
2 6	(金) ~8月12日	「特別利用」による開館(平日の13:00-16:30 社系のみ土曜日あり)
2 6	(金) ~8月14日	第2クォーター(引き続き遠隔授業)、「神戸大学の活動制限指針」
		レベル2への変更を受け、「特別利用」の内容を変更
2 9		

<7月>	
1 (水)	職員は通常勤務に戻された
3 (金)	【オンライン開催に変更】JUSTICE 電子資料契約実務研修会 <受講:係長1名>
3 (金) ~8 (水)	【メール回議に変更】近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験
	実施委員会(2020年度第1回メール会議)
6 (月) ~8 (水)	人間科学図書館 第2回図書委員会(メール回議)
o (E)	
6 (月) ~17 (金)	【開催中止】大学図書館職員長期研修 <於:筑波大学春日エリア>
7 (火)	人事とアリング
	産業医職場巡視 <於:社会科学系図書館 立会い:補佐、係長3名>
8 (月) ~14 (火)	
	経済経営研究所図書館 第2回図書委員会
10(金)	【オンデマンド型遠隔授業に変更】オーダーガイダンス(保健院生)
16 (木)	サービス課連絡会議(Webex)
16 (木) ~17 (金)	NII 情報処理技術セミナー(認証編_基礎編) <web 受講:係員1名=""></web>
20 (月)	特別利用時間の変更(平日の 10:00-17:00 社系のみ土曜日あり)
	資金管理に関する内部監査 <於:人間科学図書館>
23 (木) ~24 (金)	休日の授業実施日 ※図書館は全館室閉館
27 (月)	近畿地区国立大学法人等職員統一試験機関訪問説明会(事務系のみ)
	<於:六甲ホール 担当:係員1名>
30 (木)	サービス課連絡会議(Webex)
<8月>	
1 (土)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験
	<於:京都大学附属図書館 要員:部課長>
4 (火)	図書館の利用に関する懇談 <於:附属学校 出席:サービス課長>
4 (火) ~2021年4月	11日 改修工事に伴う臨時休館 <於:保健科学図書室>
5 (水)	経済学部オープンキャンパス web ツアー用動画撮影
	<於:社会科学系図書館 撮影:経済学研究科教務係>
5 (水) ~12 (水)	人文科学図書館 第3回図書委員会 (メール回議)
6 (木)	サービス課連絡会議(Webex)
10 (月)	休日の授業実施日 ※図書館は全館室閉館
13 (木) ~17 (月)	令和2年度計画年休日 ※図書館は全館室閉館
17 (月)	夏季一斉休業 ※図書館は全館室閉館
25 (火)	【オンライン開催】第2回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
	<出席:担当補佐>
25 (火) ~9月2日	改修工事に伴う引越作業 <於:保健科学図書室>
27 (木)	サービス課連絡会議(Webex)
28(金)	神戸大学ラジオにて「オンライン読書室」イベント告知
20 (112)	【Zoom 開催】 J-STAGE セミナー「ジャーナルから見た研究データ」
	(三)
28(金)~9月3日	スマー・マスティー、マスティーン (大)
31 (月)	経済経営切えが図書館 第3回図書安貞云 (メール回蔵) 医学分館 第2回図書委員会 (ビデオ会議)
31 (月) ~9月4日	オンライン読書室 <担当:選書 WG>

<9月>	
1 (火) ~4 (金)	第1回附属図書館評価委員会(メール審議)
3 (木) ~4 (金)	【web 開催】情報処理技術セミナー(認証編・第2回)<受講:係員1名>
7 (月)	台風10号に伴う暴風警報発令による臨時休館 <全館室>
	学内会計監査 〈於:人間科学図書館〉
7 (月) ~11 (金)	人文科学図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
9 (水) ~10 (木)	【オンライン開催】大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)版元提案説明会 <参加:雑誌担当係長>
	神戸大学係長相当職研修<於:理学研究科 Z 棟 201-202 受講:係長 1 名>
10 (木)	学内会計監査 <於:人文科学図書館> サービス課連絡会議 (Webex)
1 1 (金)	サンテレヒ、ションと震災文庫に関する打合せ <於:社会科学系図書館震災文庫
	出席:情報管理課長、情報管理課課長補佐、電子図書館係長>
	筑波大学附属図書館オンラインワークショップ「CMS を利用したデジタルアーカイブの構築」
	<参加:係員1名>
14 (月) ~18 (金)	自然科学系図書館 第2回図書委員会(メール回議)
17 (木)	資金管理に関する内部監査 <於:医学分館>
17(木)~18(金)	国立大学協会近畿地区支部「中堅職員研修」
	< 於:瀧川記念館大会議室 受講:係員2名>
18(金)	【遠隔_zoom】オーダーガイダンス(キャンパスライフ支援センター)<参加:学生1名>
23 (水) ~ 25 (金)	人間科学図書館 第3回図書委員会(メール回議)
24(木)	サーヒ、ス課連絡会議(Web)
24(木)~25(金)	図書館等職員著作権実務講習会 <於:京都大学 受講:係員1名>
25(金)~30(水)	社会科学系図書館 第2回図書委員会(メール回議)
28 (月)	学内会計監査 〈於:社会科学系図書館〉
29 (火)	学内会計監査 <於:保健科学図書室>
<10月>	
1 (木) ~2月8日	後期、「神戸大学の活動制限指針」レベル1への変更を受け、図書館利用の内
	容を変更、平日の 9:00-17:00 社系のみ 9:00-19:00 (休業期 9:00-17:00)
	土曜日あり
1 (木) ~11月30日	オンラインによる電子ブック選書
2 (金) ~ 7 (水)	第2回神戸大学出版会出版委員会(メール回議)
3 (土)	webキャンパスツアーのための撮影
	<於:社会科学系図書館 撮影:広報課>
3 (土) ~11月29日	特別展「マンガで語る古代大和Ⅲ 持統天皇をめぐる物語」
	<於: 奈良県立万葉文化館> (社会系図書館所蔵資料出陳)
5 (月) ~6 (火)	漢籍担当職員講習会(初級)
	<於:京都大学東アジア人文情報学研究センター 受講:係員1名>
5 (月) ~16 (金)	国際文化学図書館 第2回図書委員会(メール回議)
7 (水)	人事関係事務処理状況調査 <於:社会科学系図書館>
8 (木)	サービス課連絡会議(Web)
9 (金)	医学分館 第2回図書委員会(ビデオ会議)
	【オンライン開催】オープンアクセス新任担当者研修 プログラム A オープンアクセスの概要

(第1回) <受講:係員4名>

12 (月)	(第2回) <受講:係員1名>
13 (火)	資金管理に関する内部監査 <於:保健科学図書室>
20 (金)	工学部創立百周年に向けての動画撮影
	<於:社会科学系図書館 撮影:工学部広報委員会>
2 1 (水)	兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修
	<於:理学研究科 受講:係員1名>
22 (木)	サービス課連絡会議(Web)
	部局年次計画等ヒアリング <於:本部大会議室 出席:館長、部長、
	管理課長、サービス課長、管理課課長補佐>
2 3 (金)	全学防災訓練
29 (木)	サンテレビジョンと地域連携センターとの震災文庫に関する打合せ
	<於:社会科学系図書館震災文庫
	出席:補佐1名、係長1名、係員1名>
30(金)	【Zoom 開催】第2回館長・副館長・分館長懇談会
·—	第3回 ULiCS 定例会 (オンライン)
3 1 (土)	【中止】ホームカミングディ
0 1 (11)	
<11月>	
1 (目)	【中止】凌霜会卒業 50 周年同窓会での講演
2 (月) ~ 2 5 (金)	非常時参集訓練 〈於:社会系図、人文図、医学図、海事図
7 (/1/ 2 0 (112)	参加:9名>
2 (月)	【オンライン開催】学術コミュニケーション技術セミナー(JPCOAR Monday)B
- 017	<
4 (水) ~30 (月)	【オンライン開催】第22回図書館総合展 <参加:係長3名、係員10名>
5 (木)	【Zoom 開催】第2回附属図書館運営委員会
0 (/ 4/	第1回次期システム検討WG
	<於:社会科学系図書館 6F 会議室>
	什器検討のためのショールーム見学 <参加:係長1名、係員2名>
6 (金)	サービス課連絡会議 (Web)
9 (月) ~13 (金)	漢籍担当職員講習会(中級)
2 (/1/ 1.0 (平)	<於:京都大学東アジア人文情報学研究センター 受講:係員1名>
10 (火) ~11 (水)	神戸大学若手職員研修
10 ()() 11 ()()	〈於:京都大学東アジア人文情報学研究センター 受講:係員1名>
10 (火)	【オンライン開催】第2回大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会
11 (水) ~17 (火)	経済経営研究所図書館 第4回図書委員会(メール回議)
12 (木)	施設部との意見交換(キャラバン) <於:自然科学系図書館会議室
	出席:館長、部長、管理課長、サービス課長、管理課補佐>
1.0 (日)	
16 (月)	【オンライン開催】学術コミュニケーション技術セミナー(JPCOAR Monday)B
1 0 (44) 1 0 (44)	<受講:係員1名>
18 (水) ~19 (水)	【オンライン・オンデマンド開催】アーカイブ保存修復研修(基礎コース)
10 (1) 0 : (1)	<受講:係長2名、係員1名>
18 (水) ~24 (火)	
18 (水)	【オンライン開催】アシェア資料目録ワークショップ・:ウルト・ゥー語編
(1)	<受講:係員1名>
19 (木)	サービス課連絡会議(Web)

24 (火) ~30 (月) 26 (木)	サンテレビ`シ`ョンと地域連携センターとの震災文庫に関する打合せ <於:社会科学系図書館 6 F 会議室 出席:補佐 1 名、係長 1 名、係員 1 名 >
27 (金)	初年次セミナー 法学部図書館ツアー <於:社会科学系図書館>
28 (土)	附属中等教育学校生徒見学 〈於:社会科学系図書館 来館:3名〉
30 (月)	六甲台6部局合同・自衛消防訓練
	<於:六甲台第五学舎 参加:係員3名>
<12月>	
2、9、16(水)	第2回かうか読書室 <担当:選書WG>
3 (木)	サービス課連絡会議 (Web)
	第3回神戸大学出版会出版委員会 〈於:自然科学系図書館会議室〉
4 (金)	初年次セミナー 法学部図書館ツアー <於:社会科学系図書館>
7 (月)	【オンライン開催】学術コミュニケーション技術セミナー(JPCOAR Monday)D
8 (火) ~14 (月)	<受講:係員1名> 人文科学図書館 第5回図書委員会(メール回議)
9 (水) ~11 (金)	「オンライン開催】大学 ICT 推進協議会 2020 年度年次大会
タ (水) -11 (亜)	< 参加: 係長1名、係員1名>
10 (木)	神戸大学スキルアップ研修「部下とのコニュニケーション実践研修」
	<於:理学研究科 受講:係長1名>
11(金)	【遠隔_zoom】eol 講習会 <情報リテラシーWG>
	初年次セミナー 法学部図書館ツアー <於:社会科学系図書館>
14(月)~17(木)	人間科学図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
14(月)~18(金)	医学分館 第4回図書委員会 (メール回議)
15 (火) ~23 (水)	第4回神戸大学出版会出版委員会(メール回議)
17 (木)	サービス課連絡会議(Web)
	サンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ <於:社会科学系図書館震災文庫
(4)	出席:情報管理課課長補佐、電子図書館係長、係員1名>
18 (金)	初年次セミナー 法学部図書館ツアー 〈於:社会科学系図書館〉
	【Webex 開催】目録システム書誌作成研修フォローアップ研修 <係員1名>
	【Webex 開催】第119回日本医学図書館協会近畿地区会例会 <出席:サービス課課長補佐(医学)>
22 (火)	資金管理に関する内部監査 <於:海事科学分館>
22 ()()	兵庫県大学図書館協議会役員館打合せ(Zoom)
	<部長、管理課長、サービス課長、管理課課長補佐、企画係長>
22日~1月8日	国際文化学図書館 第3回図書委員会(メール回議)
24 (木)	文理農自衛消防訓練 〈於:人文科学図書館〉
2 5 (金)	初年次セミナー 法学部図書館ツアー <於:社会科学系図書館>
/ 1 P \	
<1月>	海東科学八館 第4同國妻禾昌会 () 1.4同業\
	海事科学分館 第4回図書委員会(メール回議)
	自然科学系図書館 第4回図書委員会 (メール回議) 兵庫県に緊急事態宣言が発出された
14 (水) ~ 2月 (日	六件亦に光心ず思旦百//光山で40/に

	「神戸大学の活動制限指針」制限レベルが「授業」(講義・演習・実習)」
	及び「学生の入構」を除き、基本的にレベル2に引き上げられた
14 (木)	サービス課連絡会議(Web)
	[震災文庫デジタルアーカイブ]サンテレビジョン撮影・制作の映像を公開
15 (金)	自衛消防訓練 <於:保健科学図書室>
	センター試験に伴い13時で臨時閉館(保健科学図書室)
	センター試験に伴い17時で臨時閉館(社会系図書館)
	自衛消防訓練 <於:保健科学図書室>
16 (土)	センター試験に伴い臨時休館(社会医科学系図書館を除く)
19 (火)	【オンライン開催】大学図書館近畿イニシアティブ研修 <運営:サービス課課長補佐>
20 (水)	【オンライン開催】JPCOAR ニュースレター企画「匿名座談会」 <参加:係員1名>
21 (木)	自衛消防訓練 <於:自然科学系図書館>
22 (火)	資金管理に関する内部監査 <於:自然系図、人文図、文書史料室>
	【オンライン開催】2020年度大学図書館シンポジウム「オンライン授業における図書館
	の役割」 <参加:係員1名>
25 (月)	【Zoom 開催】第3回館長・副館長・分館長懇談会
	人事ヒアリング <於:本部第2会議室 出席:部長、管理課長、
	サービス課長>
26 (火)	自衛消防訓練 〈於:文書史料室〉
27 (水)	自衛消防訓練 <於:研究所図書館>
	令和4年度概算要求、令和3年度事業計画ヒアリング <於:本部大会議室>
	【web セミナー】Ex Libris アップデート<受講:係長2名、係員1名>
28 (木)	【Zoom 開催】第3回図書館運営委員会
29 (金)	サービス課連絡会議(Web)
29(金) <2月>	サービス課連絡会議(Web)
	サービス課連絡会議 (Web) 兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された
<2月>	
<2月> 2 (火) ~3月7日	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会(メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモート サービス基礎知識」北海道地区助成事業)
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモート サービス基礎知識」北海道地区助成事業) <主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名>
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会(メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモート サービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) <主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名> JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 <参加:係員1名> 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 1 0 (水)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【 おかうか開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業)
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名>JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 <参加:係員1名> 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) <参加:係員1名> 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議)
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 1 0 (水)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名> JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名> 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) 〈参加:係員1名> 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【 オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く! 大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名>JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名> 【 オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) 〈参加:係員1名> 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【 オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」(近畿地区助成事業)
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) 〈参加:係員1名〉 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」 (近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名〉
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【ポンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名> JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名> 【ポンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) 〈参加:係員1名> 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【ポンライン講演会】「ポンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」(近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名> 【ポンラインセミナー】使われるデッ、タルアーカイブになるために
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金) 16 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方) 〈参加:係員1名〉 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」(近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名〉 【オンラインセミナー】使われるデジタルアーカイブになるために 〈主催:東京大学学術資産アーカイブ化推進室 参加:係長1名〉
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方)〈参加:係員1名〉 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」 (近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名〉 【オンラインセミナー】使われるデジタルアーカイブになるために 〈主催:東京大学学術資産アーカイブ化推進室 参加:係長1名〉 【オンライン開催】国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携推進
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金) 16 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方)〈参加:係員1名〉 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」(近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名〉 【オンラインセミナー】使われるデジタルアーカイブになるために 〈主催:東京大学学術資産アーカイブ化推進室 参加:係長1名〉 【オンライン開催】国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携推進委員会 〈参加:係長1名〉
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金) 16 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名〉 JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名〉 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方)〈参加:係員1名〉 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リテラシー教育を模索する」 (近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名〉 【オンラインセミナー】使われるデジタルアーカイブになるために 〈主催:東京大学学術資産アーカイブ化推進室 参加:係長1名〉 【オンライン開催】国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携推進
<2月> 2 (火) ~3月7日 4 (木) ~9 (火) 5 (金) 10 (水) 15 (月) ~19 (金) 16 (火)	兵庫県に緊急事態宣言の延長が発表された 保健科学図書室 第3回図書委員会 (メール回議) 【オンライン開催】研修会「コロナ禍を生き抜く!大学図書館リモートサービス基礎知識」北海道地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会北海道地区協会 参加:係員2名> JSUTCE&JPCOAR 合同情報交換会 〈参加:係員1名> 【オンライン開催】国立国会図書館レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方)〈参加:係員1名> 医学分館 第5回図書委員会 (メール回議) 【オンライン講演会】「オンラインコンテンツによる情報リララシー教育を模索する」(近畿地区助成事業) 〈主催:国立大学図書館協会近畿地区協会 参加:係員1名> 【オンラインセシナー】使われるデジタルアーカイブになるために 〈主催:東京大学学術資産アーカイブ化推進室 参加:係長1名> 【オンライン開催】国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携推進委員会 〈参加:係長1名> 【オンライン開催】第3回 SPARC Japan セシナー 2020「初めての研究データ」

		人利斯大沙上)。下了你可同地由斯大
		会計監査法人による第2回期中監査
0.0	(🗆)	<出席:管理課課長補佐、係長2名>
22	(月)	【オンライン開催】第10回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る 情報交換会
		<挨拶:館長 出席:管理課長、管理課課長補佐、電子図書館係3名>
2 4	(水)	前期入学試験に伴い13時で閉館(保健科学図書室)
2 5	(木)	前期入学試験に伴い休館(医学図以外)
		自衛消防・防災訓練 <於:社会科学系図書館、海事科学分館、 人間科学図書館>
2 6	(金)	資金管理に関する内部監査 <於:社会科学系図書館>
	月>	
	(月)	兵庫県の緊急事態宣言が解除された
	(月) ~8 (日)	国際文化学図書館 第4回図書委員会(メール回議)
	(火)	【オンライン開催】第3回大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会
	(水) ~9 (火)	人文科学図書館 第6回図書委員会(メール回議)
4	(木)	サービス課連絡会議(Web)
		サンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ <於:社会科学系図書館震災文庫 出席:情報管理課長、情報管理課課長補佐、電子図書館係長>
4	(木) ~9 (火)	保健科学図書室 第4回図書委員会(メール回議)
4	(木) ~10 (水)	海事科学分館 第5回図書委員会(メール回議)
		自然科学系図書館 第5回図書委員会
5	(金)	第5回神戸大学出版会出版委員会 <於:自然科学系図書館会議室>
		自衛消防・防災訓練 〈於:総合・国際文化学図書館〉
		【オンライン開催】JUSTICE2020 年度総会 <参加:雑誌担当専門職員>
5	(金) ~11 (木)	人間科学図書館 第5回図書委員会(メール回議)
		経済経営研究所図書館 第5回図書委員会 (メール回議)
8	(月) ~14 (日)	社会科学系図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
9	(火)	自衛消防・防災訓練 <於:医学分館>
		【オンライン研修】国立公文書アーカイブス研修Ⅱ <受講:文書史料室1名>
1 0	(水)	医学分館 第6回図書委員会(ビデオ会議)
		【オンライン研修】国立国会図書館令和2年度法令・議会・官庁資料研修
		<受講:係長1名>
		【オンライン】令和2年度人事交流における成果報告会
		<報告者:1名、参加:16名>
1 1	(木)	【オンライン】日本古典籍研究国際コンソーシアム第2回代表委員会
		<参加:係長1名>
		後期入学試験に伴い13時で閉館(保健科学図書室)
1 2	(金)	後期入学試験に伴い休館(医学分館以外)
1 6	(火)	サービス課連絡会議(Web)
1 7	(水) ~4月11日	保健科学図書館引越、開館準備作業
1 7	(水)	【オンライン開催】2020年度オープンアクセスリポジトリ推進協会総会
1 9	(金) ~4月11日	保健科学図書室臨時休館
2 3	(火)	【Web 開催】附属図書館研究開発室教育支援部会懇談会
		2.田南 香具 0. A. L. L. Sa a a a a a a a a a a a a a a a a a a

<出席:委員3名、サービス課長、サービス課補佐1名、係長1名>

24 (水)	【Zoom 開催】第4回館長・副館長・分館長懇談会
25 (木) ~29 (月)	第2回附属図書館評価委員会(メール審議)
25 (木)	神戸大学学位記授与式 <於:神戸ポートアイランドホール>
29 (月)	名誉教授称号授与式、永年勤続者表彰式
	<於:六甲ホール 出席:管理課長>
	【開催せず】附属図書館令和2年度離任式
30 (火)	【Zoom 開催】第4回図書館運営委員会